

### Ⅲ 定点把握対象 五類感染症(週報・月報)発生状況



# 1 週報

## (1) インフルエンザ／COVID-19定点

### ●インフルエンザ

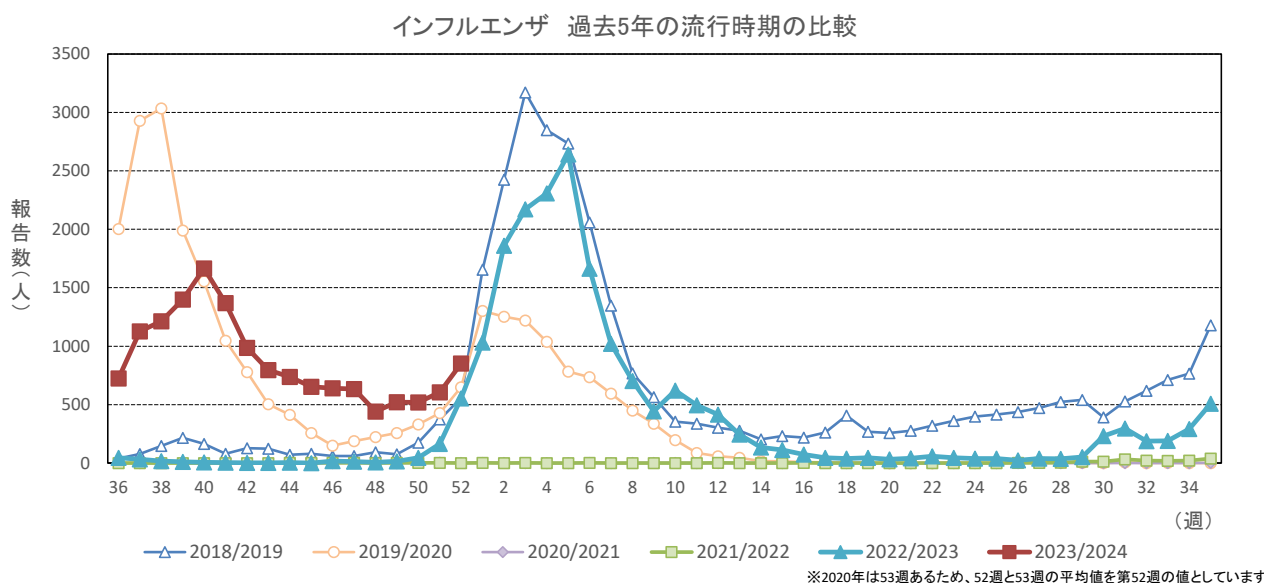
2023年、沖縄県内の報告数は853人、定点当たり報告数は15.80人であった。

2022/23シーズン（2022年第36週～2023年第35週）の報告数は19,108人、2023/24シーズン（2023年第36週～2024年第35週）の報告数は2023年第52週までで14,884人であった。

沖縄県の2022/23シーズンは、流行の兆しである定点当たり報告数1人以上の週は25週あり、2023年第5週の定点当たり報告数47.18人が最多であった。2023/24シーズンも2023年第52週までで定点当たり報告数1人以上の週は17週あり、第40週に定点当たり報告数30.85人とシーズン最多であった。

沖縄県衛生環境研究所で検出されたインフルエンザウイルスは、2022/23シーズンではAH3亜型が51例、2023/24シーズン（2023年第52週まで）ではAH3亜型が21例であった。

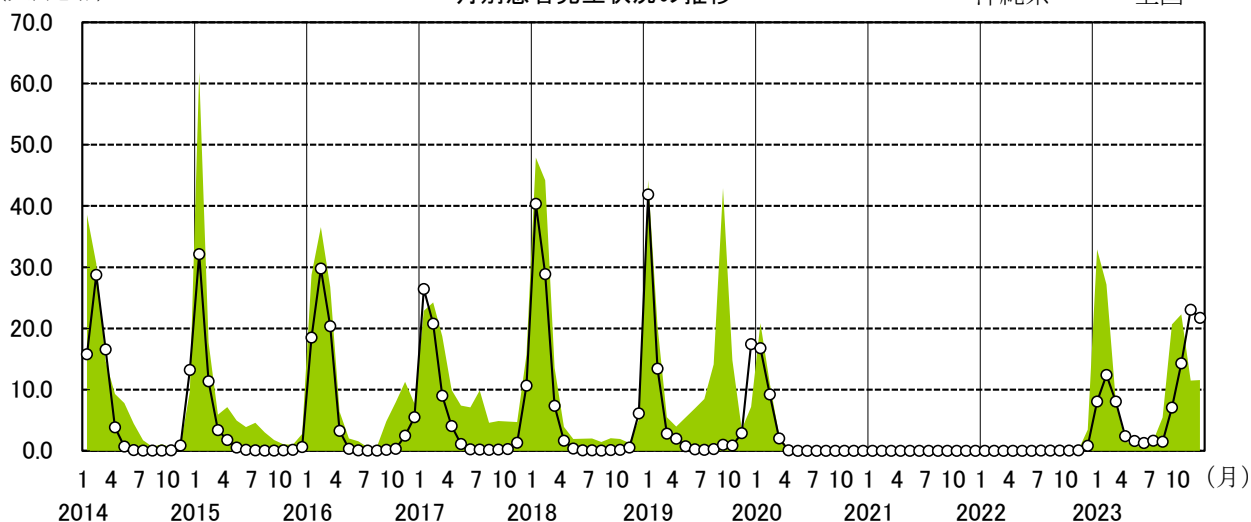
2023年の年齢階級別（沖縄県）では、15歳未満が全体に占める割合は65.8%と過去5年（2022年：68.9%、2021年：37.4%、2020年：51.8%、2019年：49.4%）で二番目に高かった。

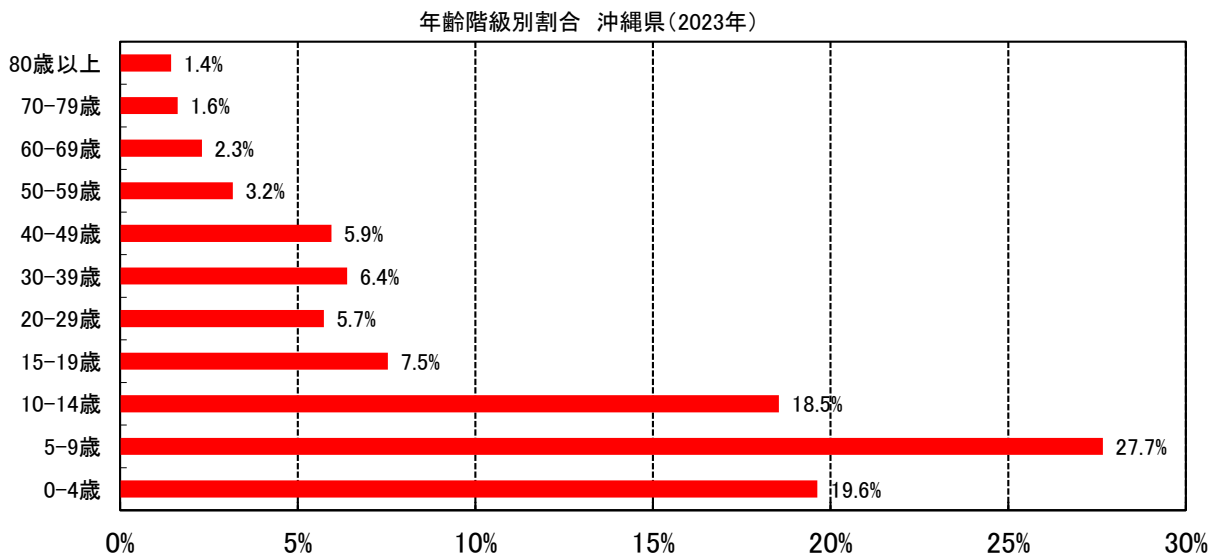
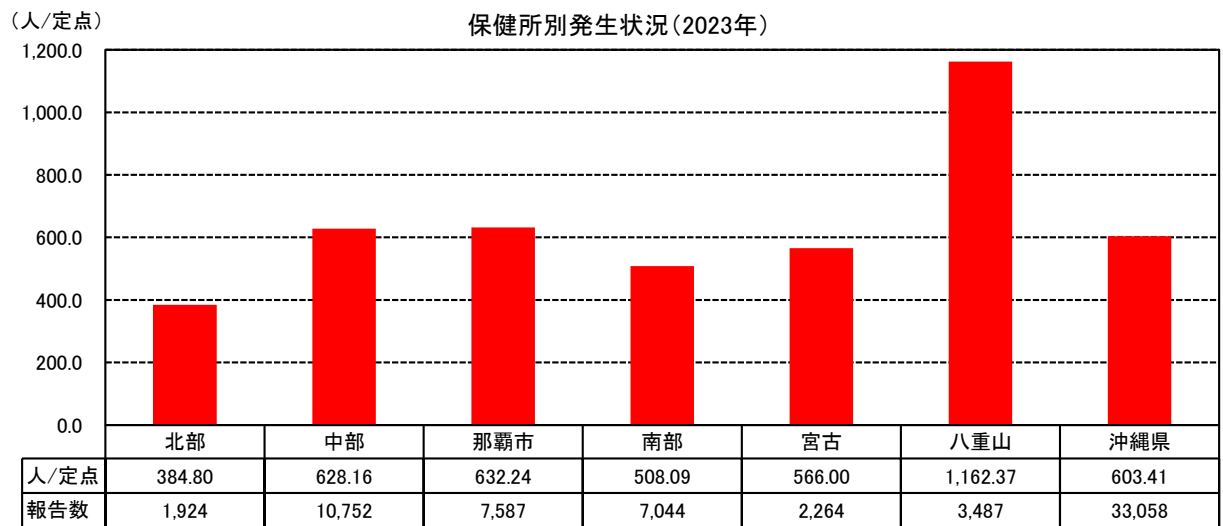
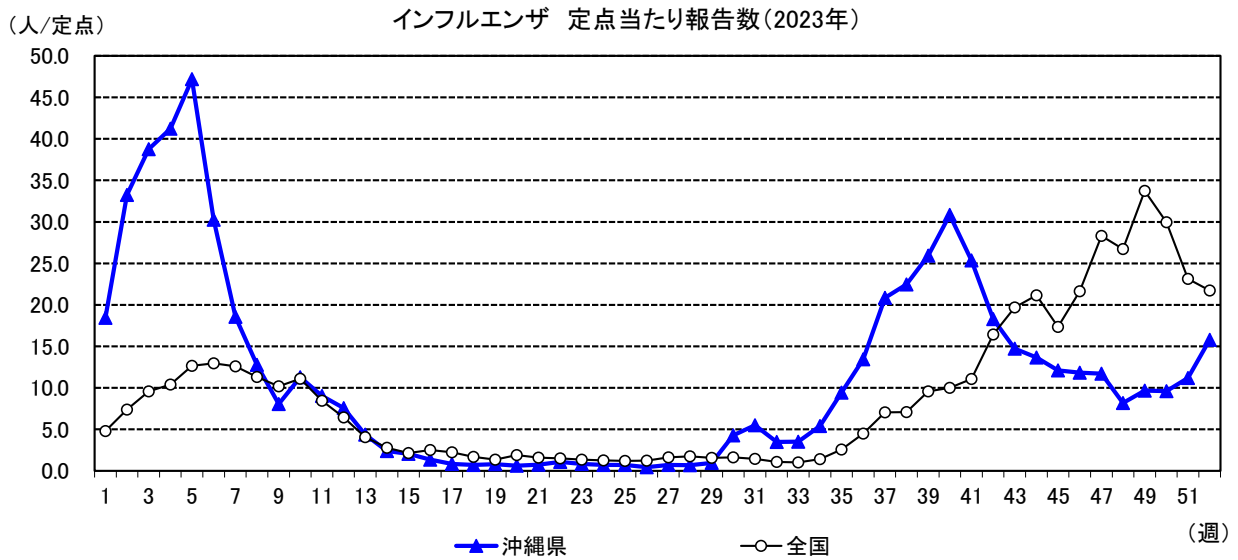


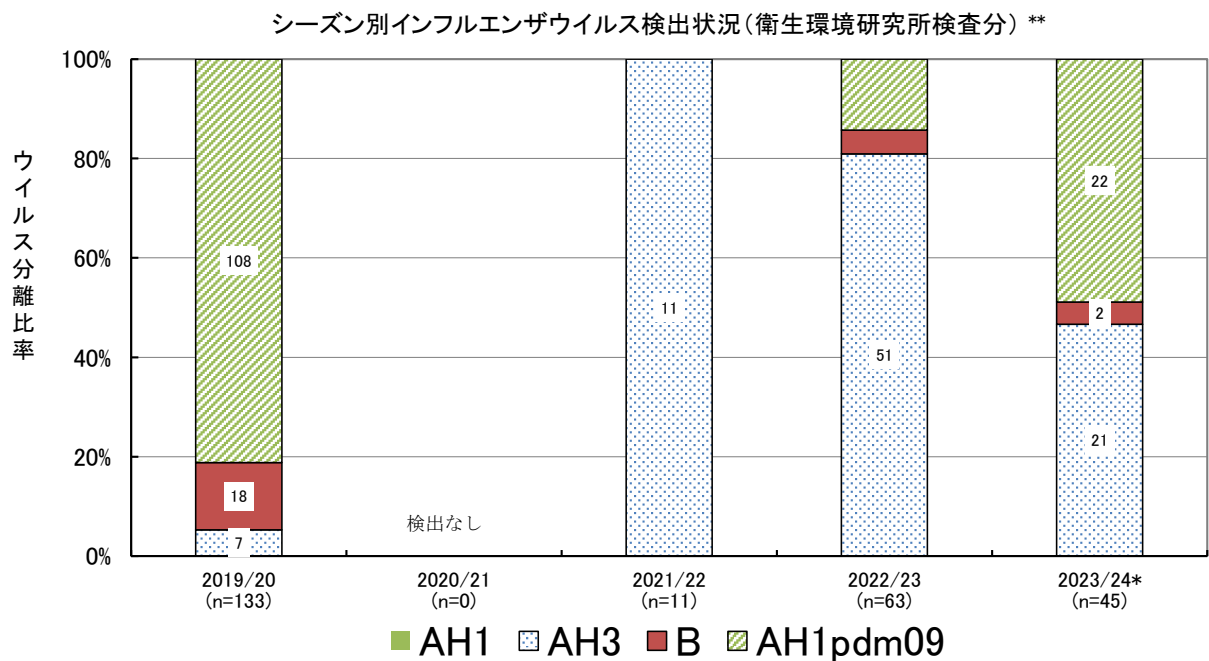
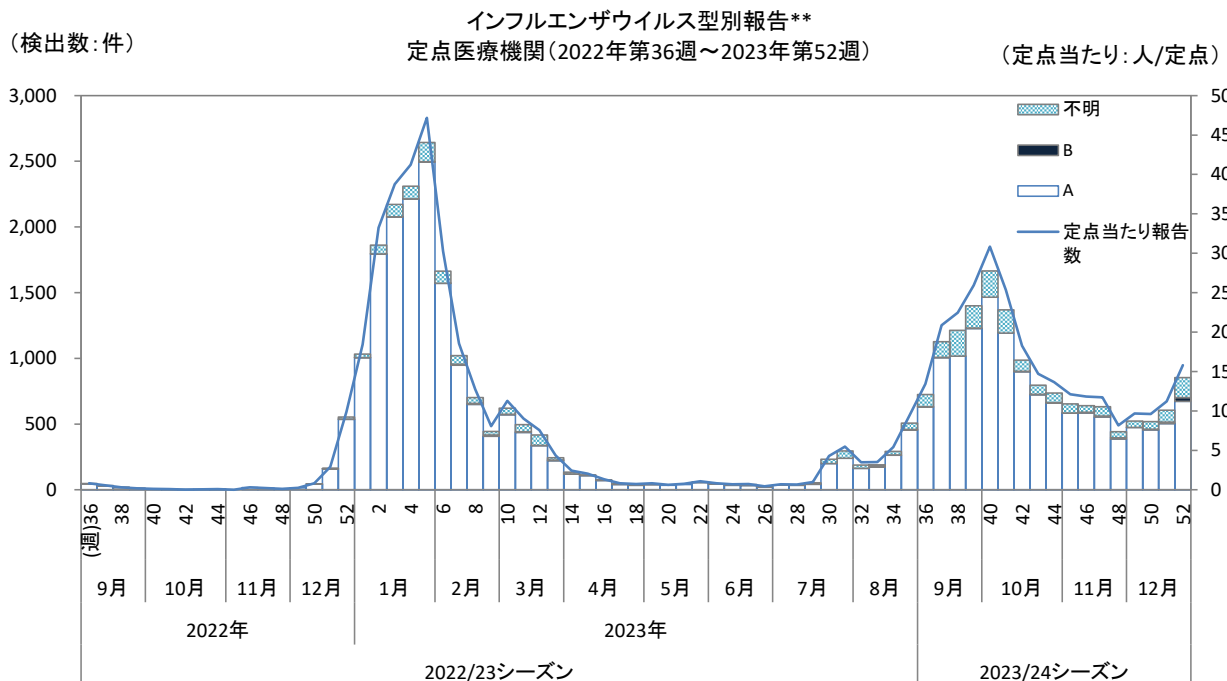
(人/定点)

### 月別患者発生状況の推移

■ 沖縄県    ○ 全国







シーズン(9月～翌年8月)別の報告数合計: インフルエンザ

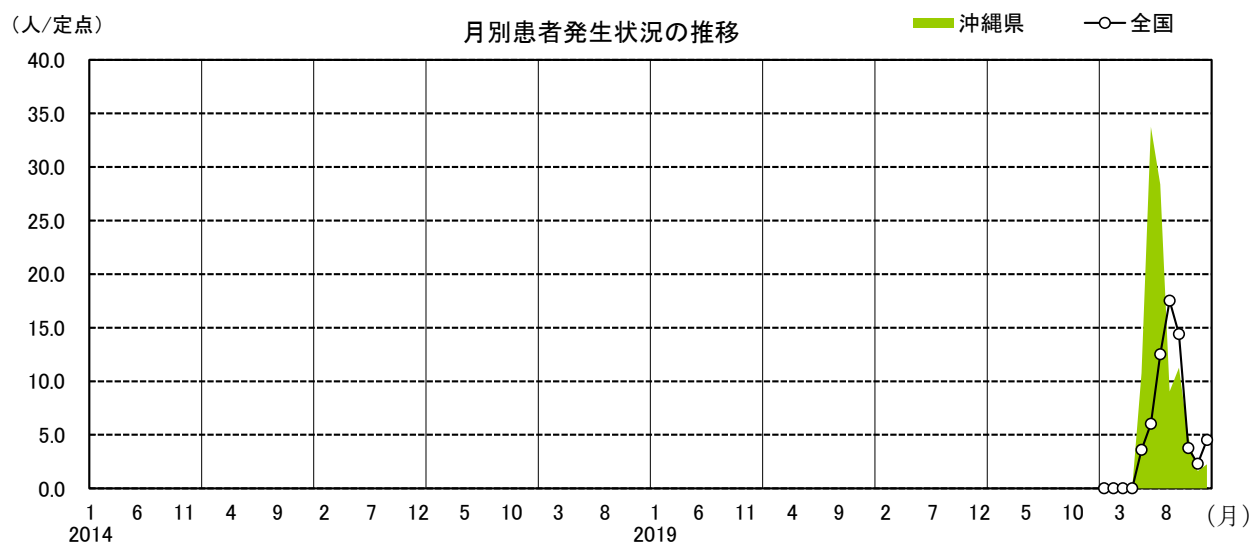
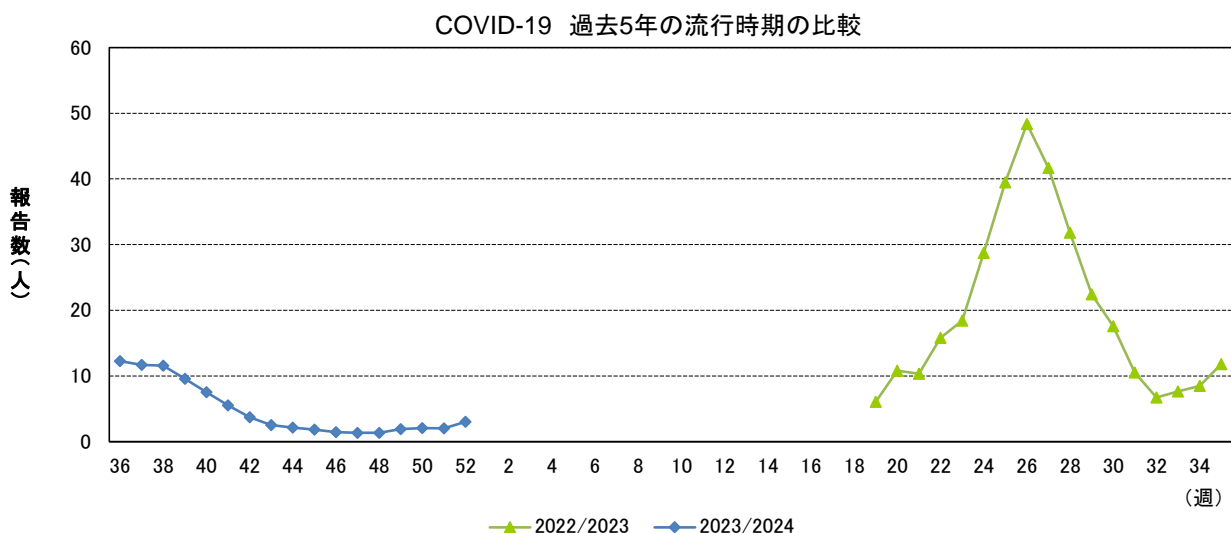
平均報告数 (2023/24)を除く	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24*
15,075	31,137	24,902	44	184	19,108	14,884

\* : 2023年第36週～第52週の集計。

\*\* : AとBの重複感染例を含む。

●新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

2023年、沖縄県内の報告数は22,585人、定点当たり報告数は418.25人であった。  
 2022/23シーズン（2022年第36週～2023年第35週）の報告数は18,185人、2023/24シーズン（2023年第36週～2024年第35週）の報告数は2023年第52週までで4,400人であった。  
 沖縄県の2022/23シーズンの定点当たり報告数の中央値は15.8人で、2023年第23週から30週に中央値を超える報告があった。2023/24シーズン（2023年第52週まで）の定点当たり報告数の中央値は2.54人で、2023年第36週から第42週、2024年第52週で、中央値を超える報告があった。  
 2023年の年齢階級別（沖縄県）では80歳以上が全体の13.3%と最も多く、40-49歳が10.9%、50-59歳が10.7%と続いた。

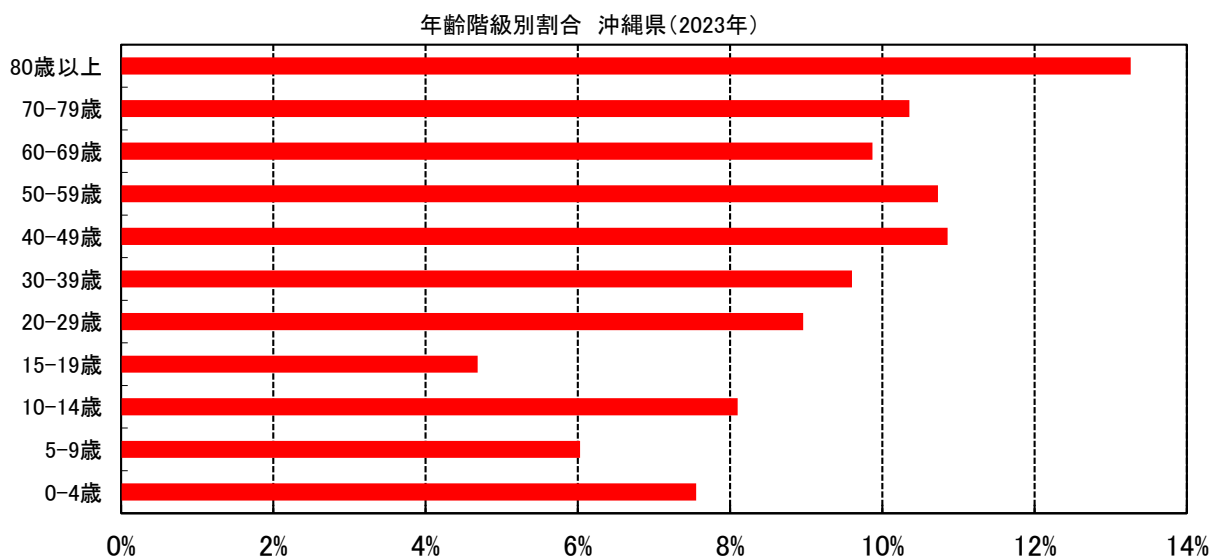
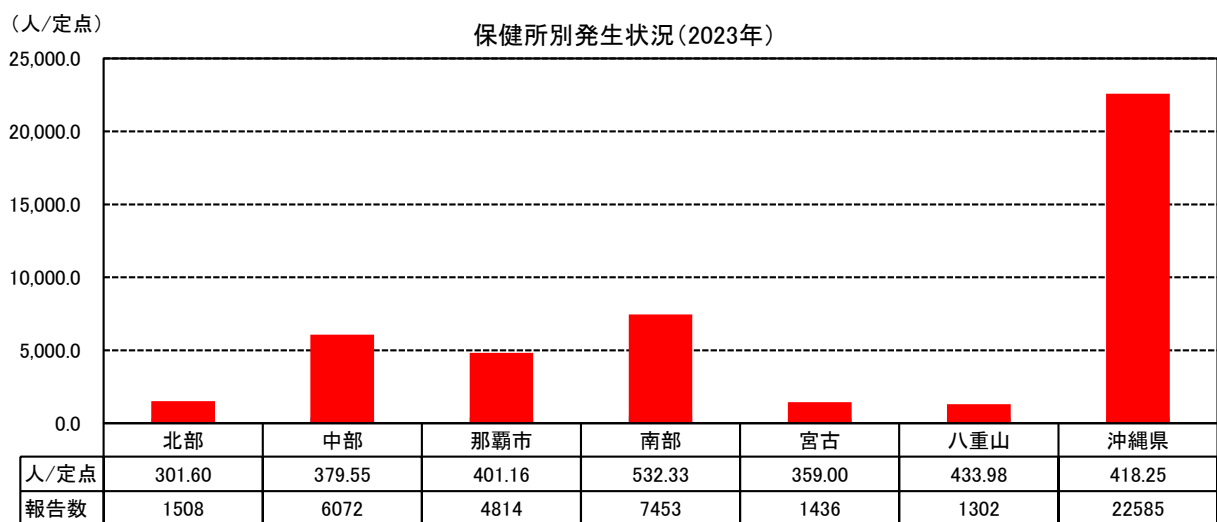
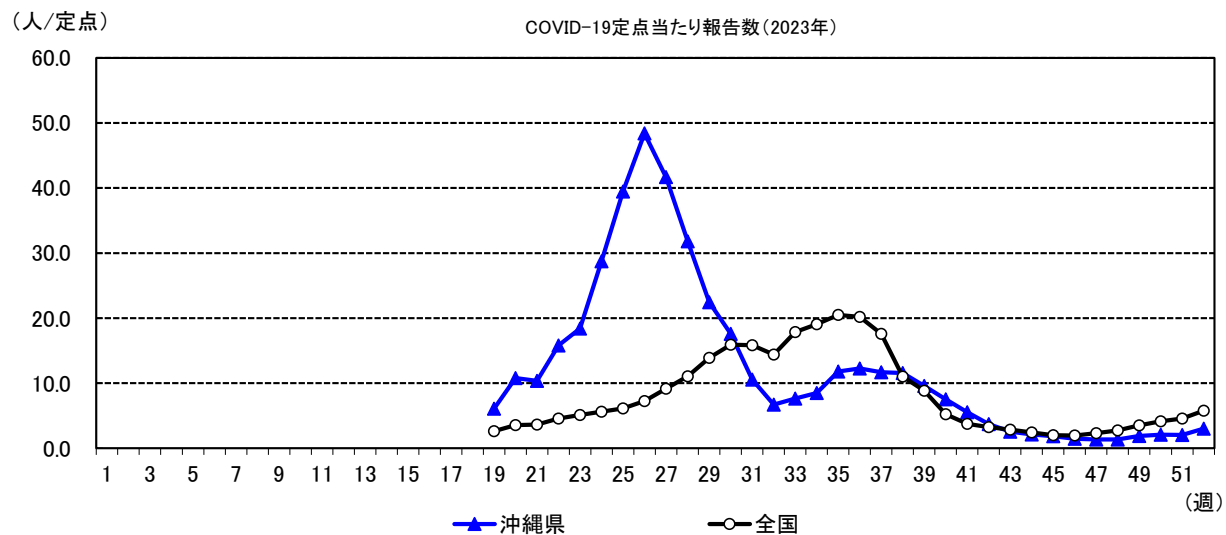


シーズン（9月～翌年8月）別の報告数合計：COVID-19

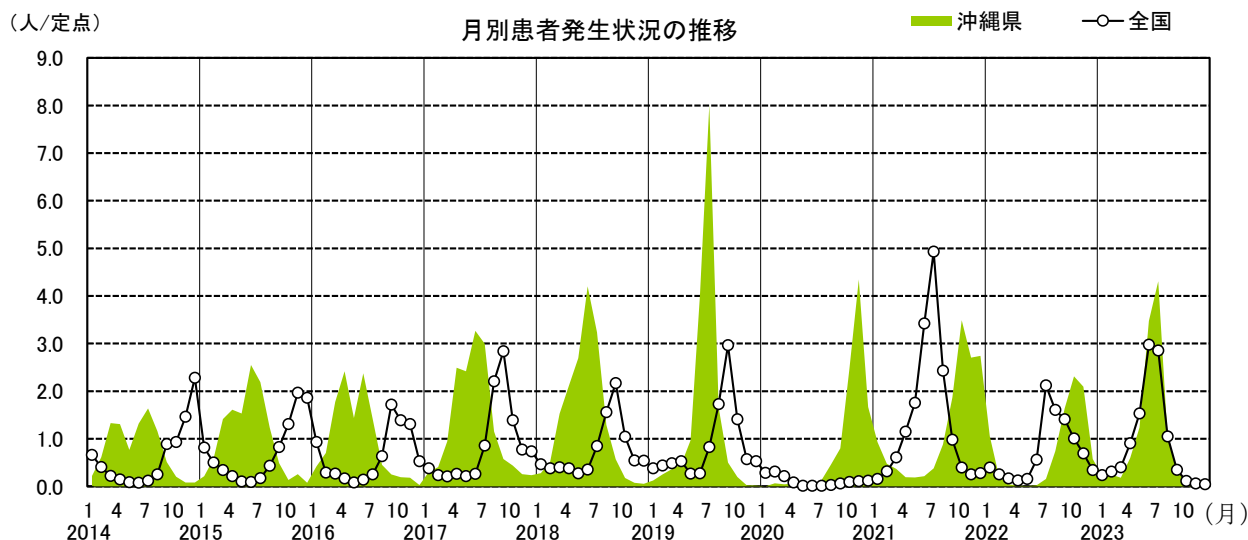
平均報告数 (2023/24を除く)	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 <sup>*1</sup>	2023/24 <sup>*2</sup>
—	—	—	—	—	18,185	4,400

\*1：2023年第19週～第35週の集計

\*2：2023年第36週～第52週の集計

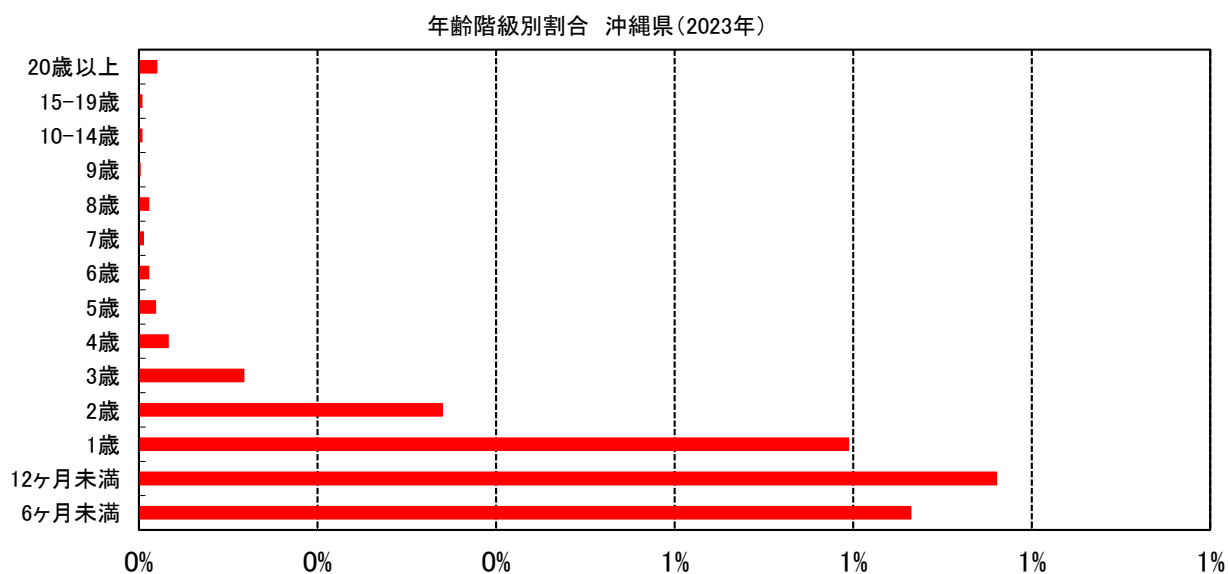
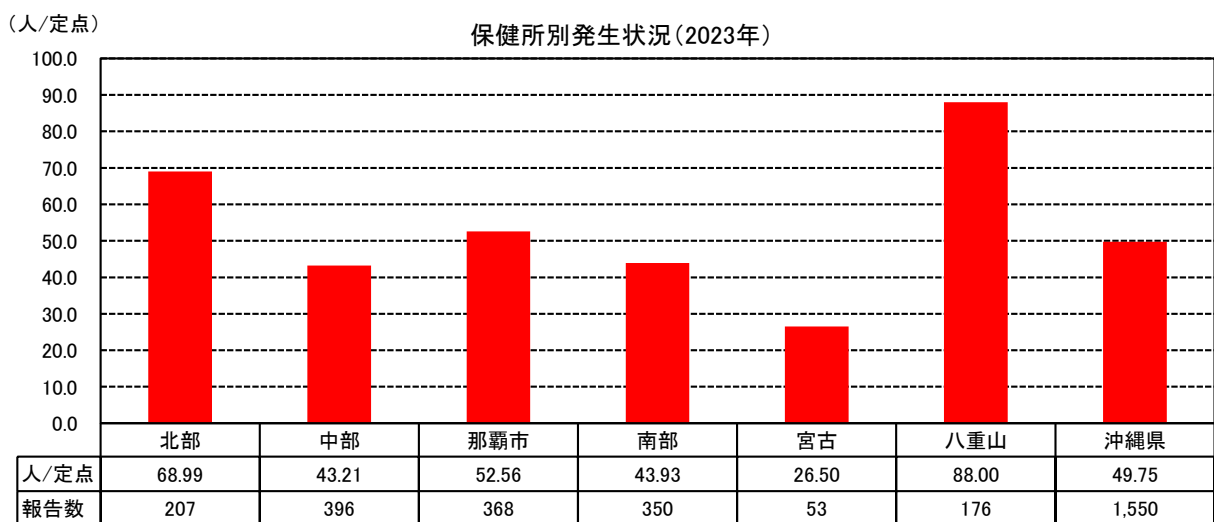
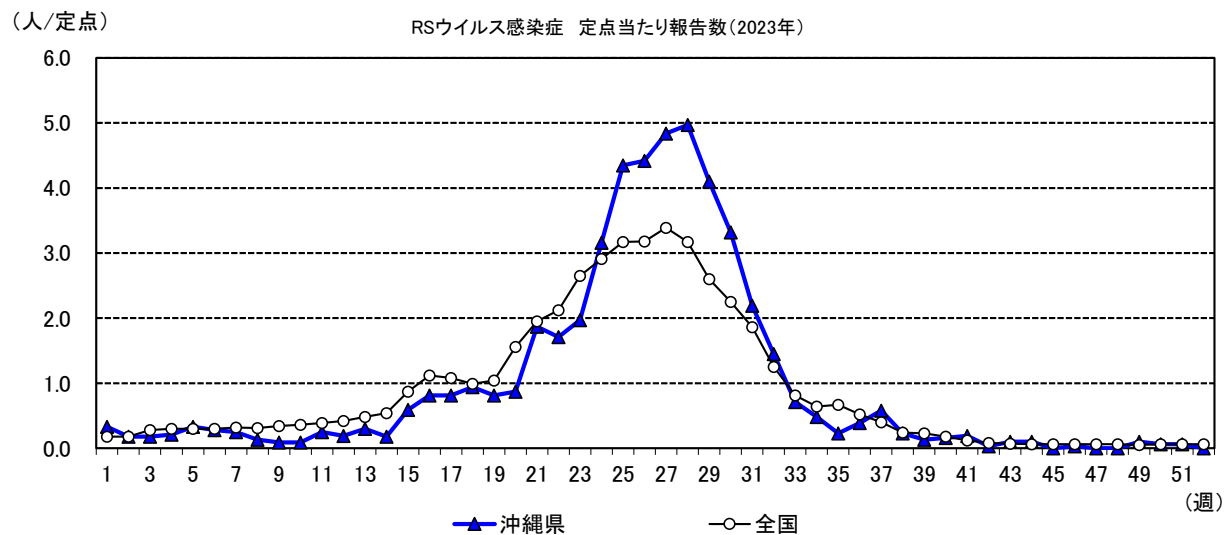


2023年、沖縄県内の報告数は1,550人、定点当たり報告数は49.75人であった。  
2022/23シーズン（2022年第36週～2023年第35週）の報告数は2,431人、2023/24シーズン（2023年第36週～2024年第35週）の報告数は2023年第52週までで67人であった。  
沖縄県の2022/23シーズンの定点当たり報告数の中央値は0.96人で、2022年第36週から2022年第48週、2023年第21週から32週に中央値を超える報告があった。2023/24シーズン（2023年第52週まで）の定点当たり報告数の中央値は0.1人で、2023年第36週から第41週で中央値を超える報告があった。  
2023年の年齢階級別（沖縄県）では12ヶ月未満が全体に占める割合は81.8%で、過去5年（2022年76.7%：2021年：68.3%、2020年：72.8%、2019年：81.8%）で最も高かった。



平均報告数 (2023/24を除く)	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24*
1,830	2,586	227	2,012	1,892	2,431	67

24

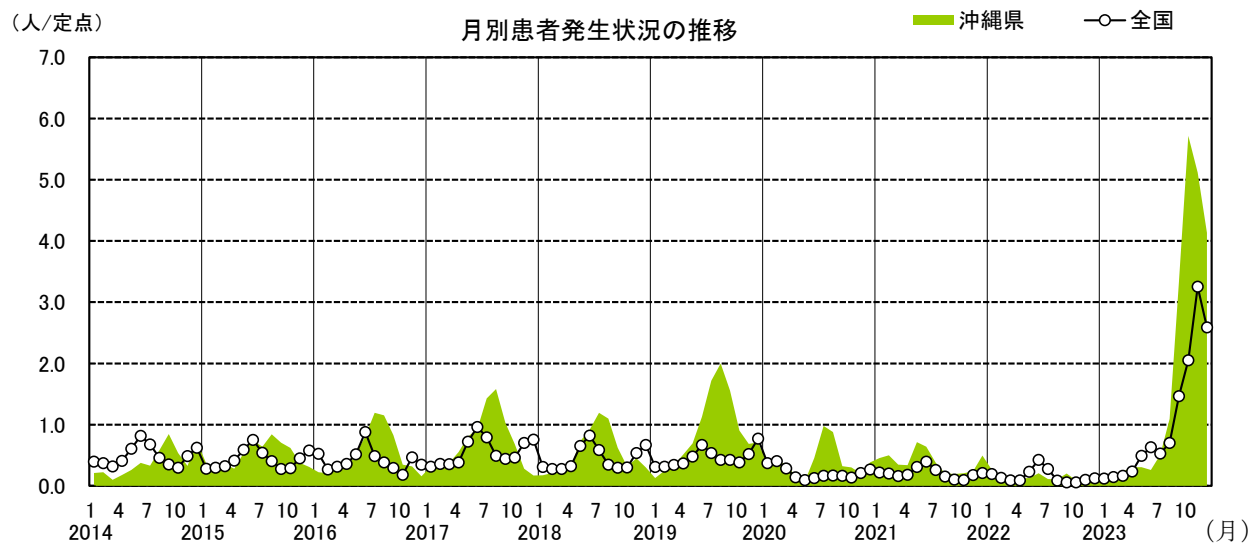
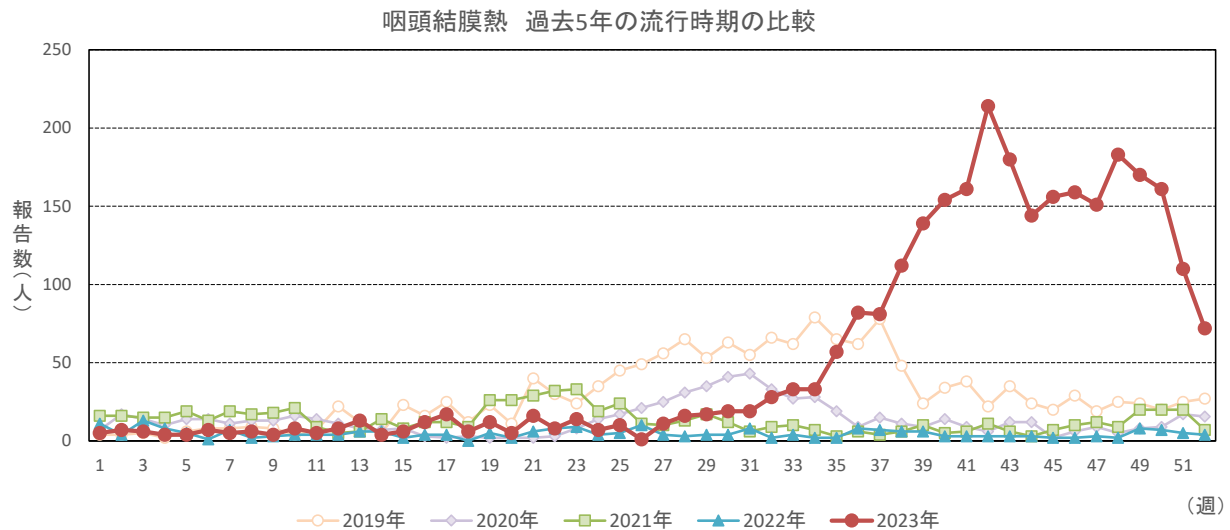


●咽頭結膜熱

2023年、沖縄県内の報告数は2,862人、定点当たり報告数は92.14人であり、過去5年で最も多い報告数であった。

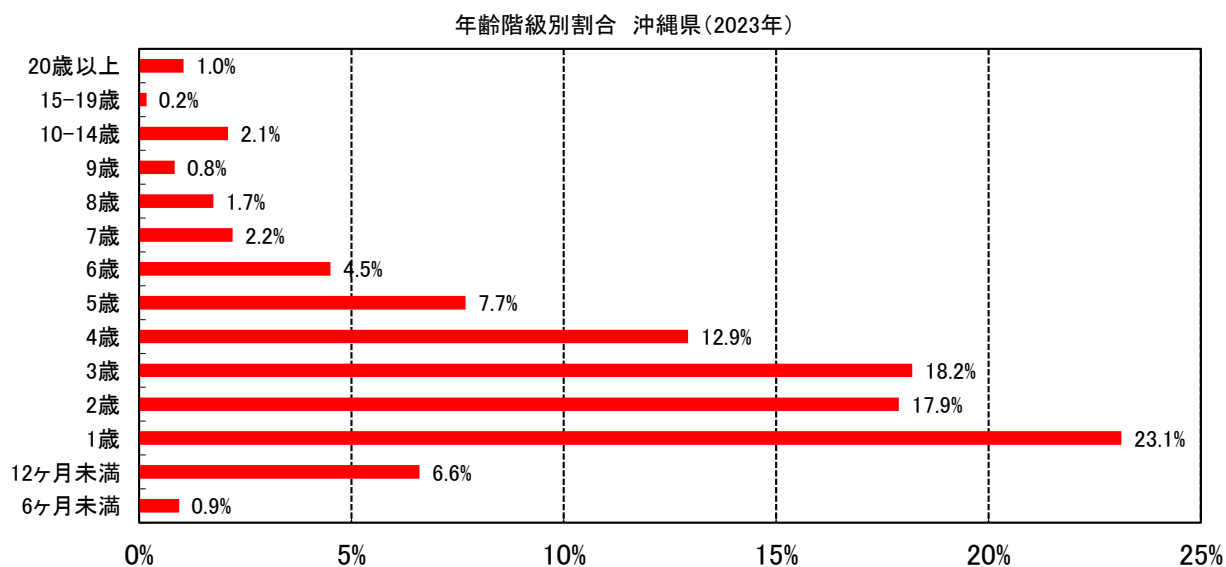
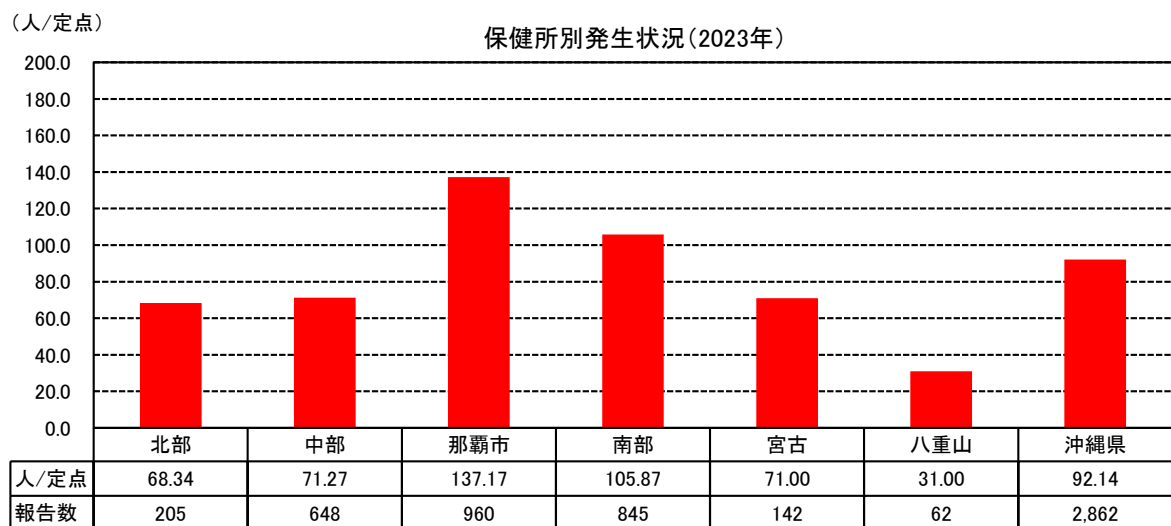
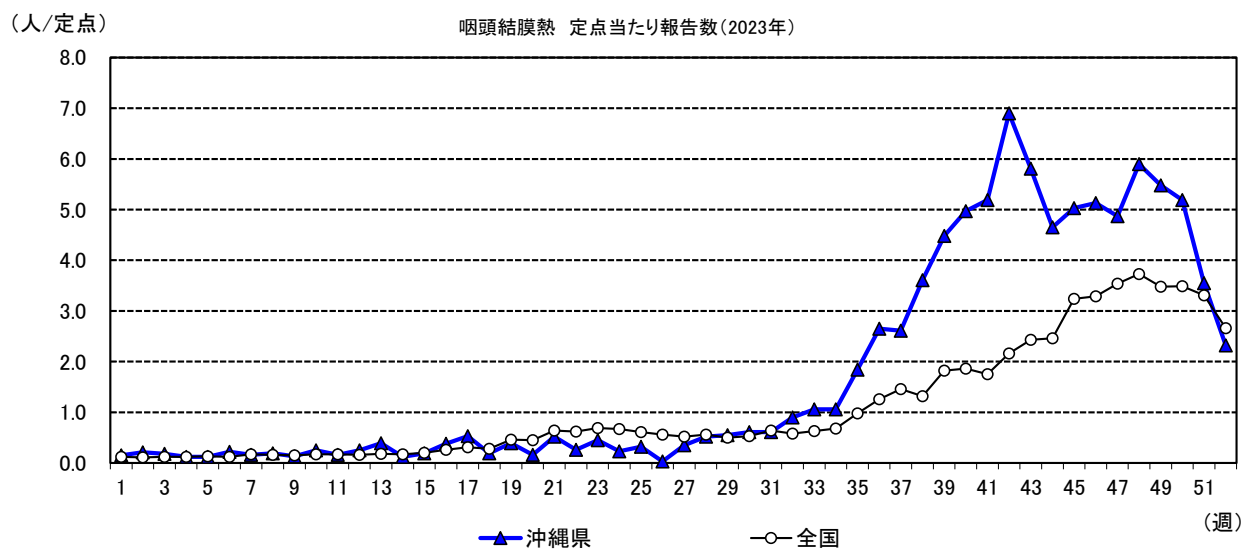
沖縄県では第42週の定点当たり報告数6.9人が、全国では第48週の定点当たり報告数3.73人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、1歳が最も多く、全体の23.1%を占めていた。



年別の報告数合計：咽頭結膜熱

平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1,215	1,555	720	693	245	2,862

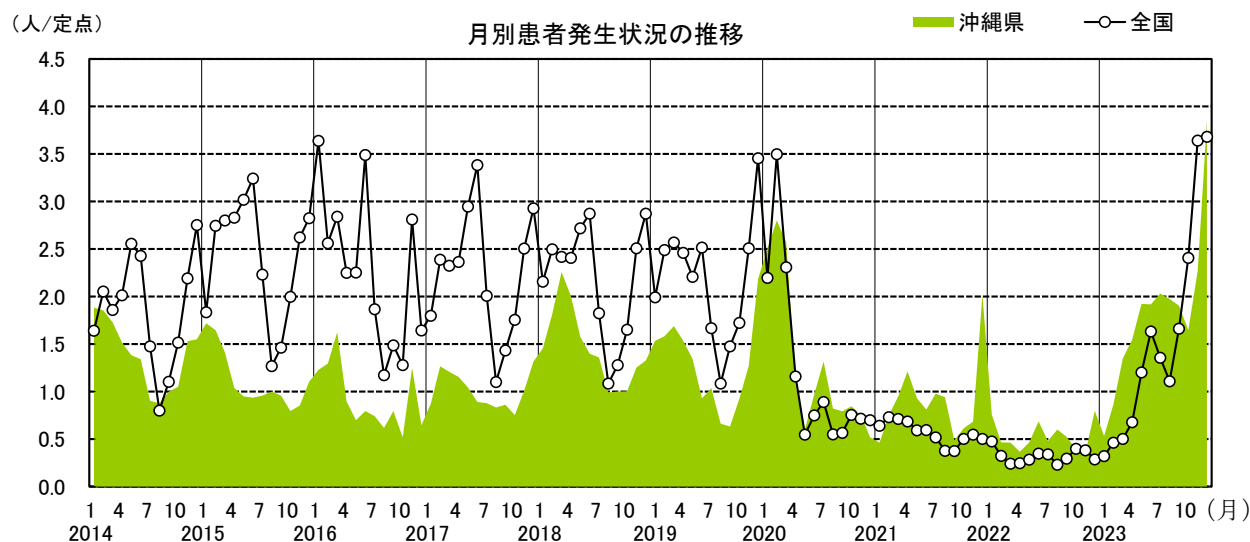
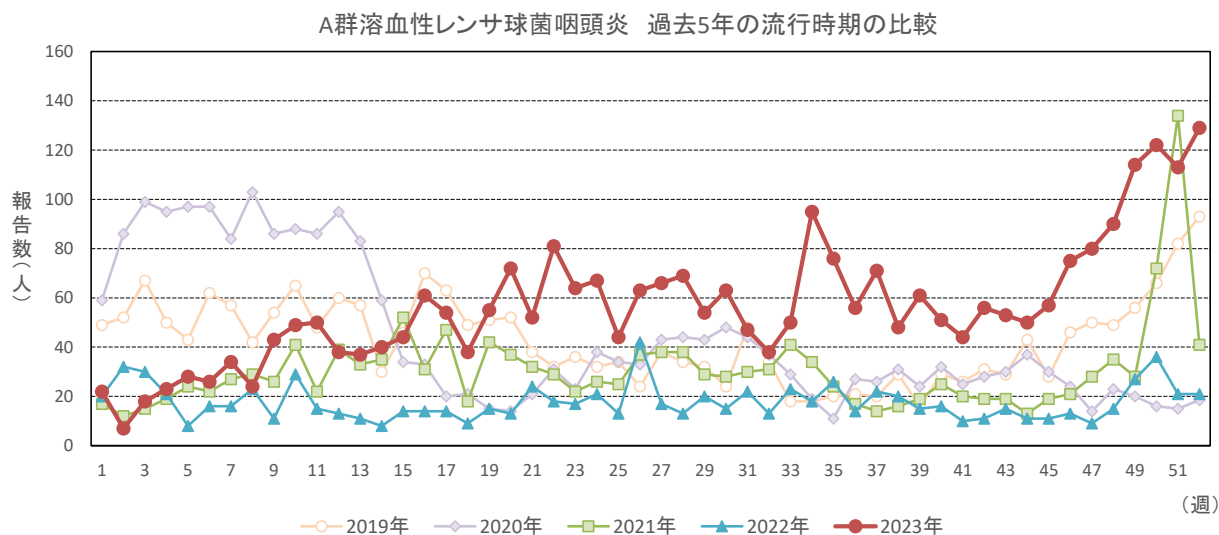


●A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2023年、沖縄県内の報告数は2,962人、定点当たり94.80人であり、過去5年で最も多い報告数であった。

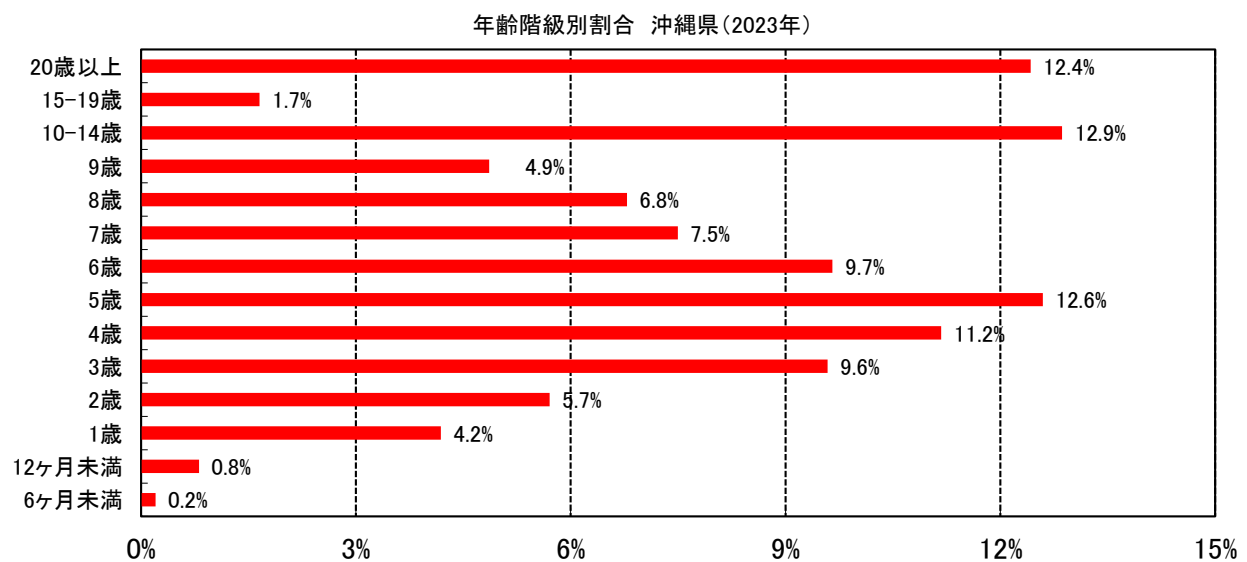
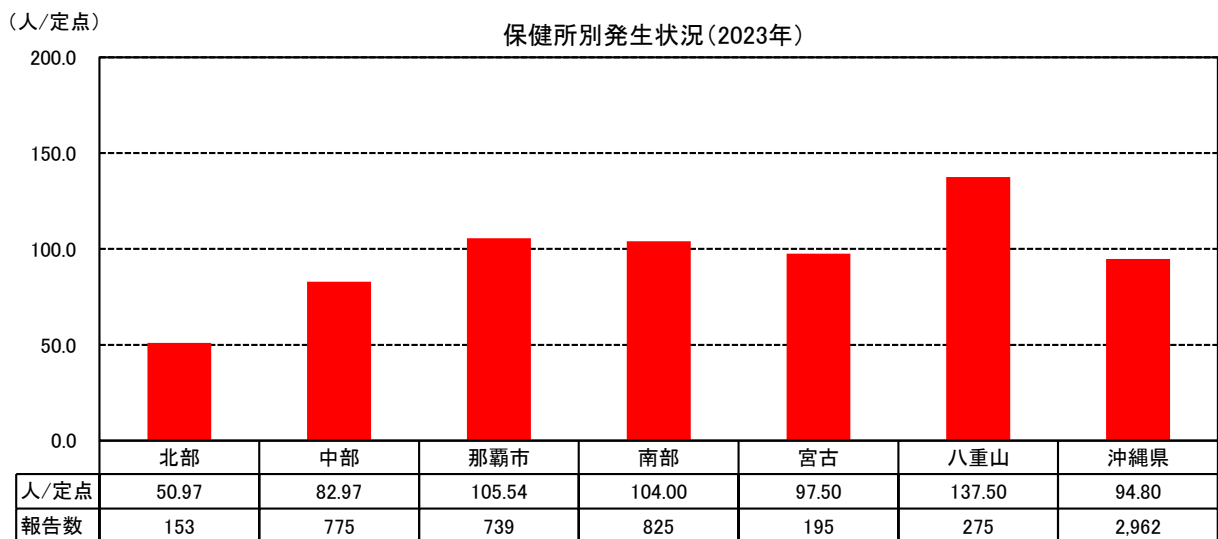
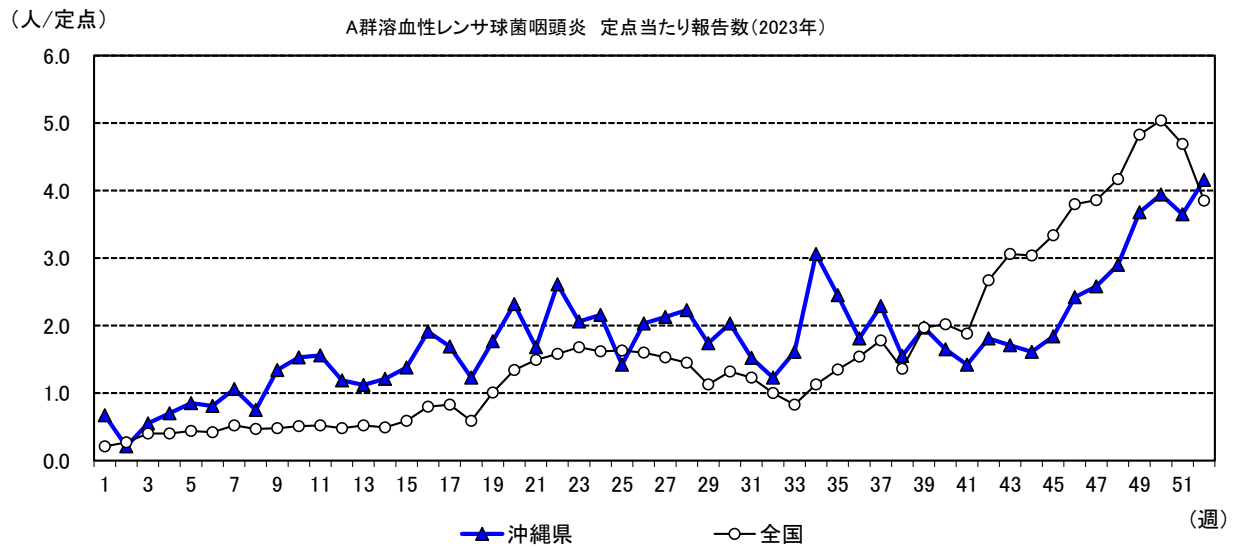
沖縄県、全国ともに、警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数8人）以上の週はなく、沖縄県では第50週の定点当たり報告数3.94人が、全国では第50週の定点当たり報告数5.04人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、10-14歳が全体の12.9%と最も多く、5歳が12.6%、20歳以上が12.4%と続いた。



年別の報告数合計：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
2,002	2,243	2,291	1,592	921	2,962



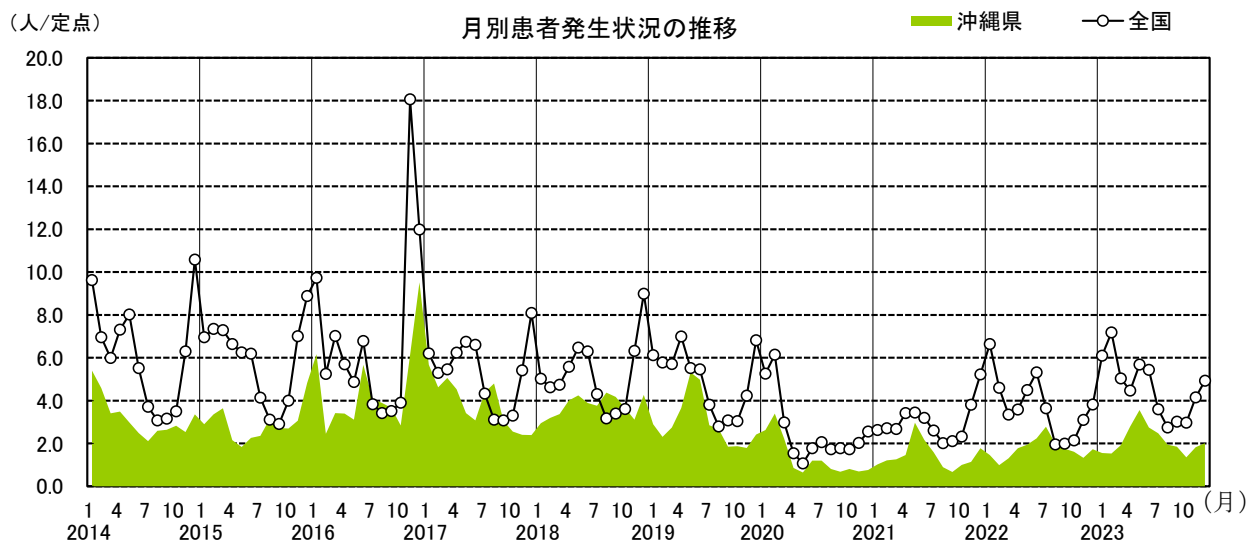
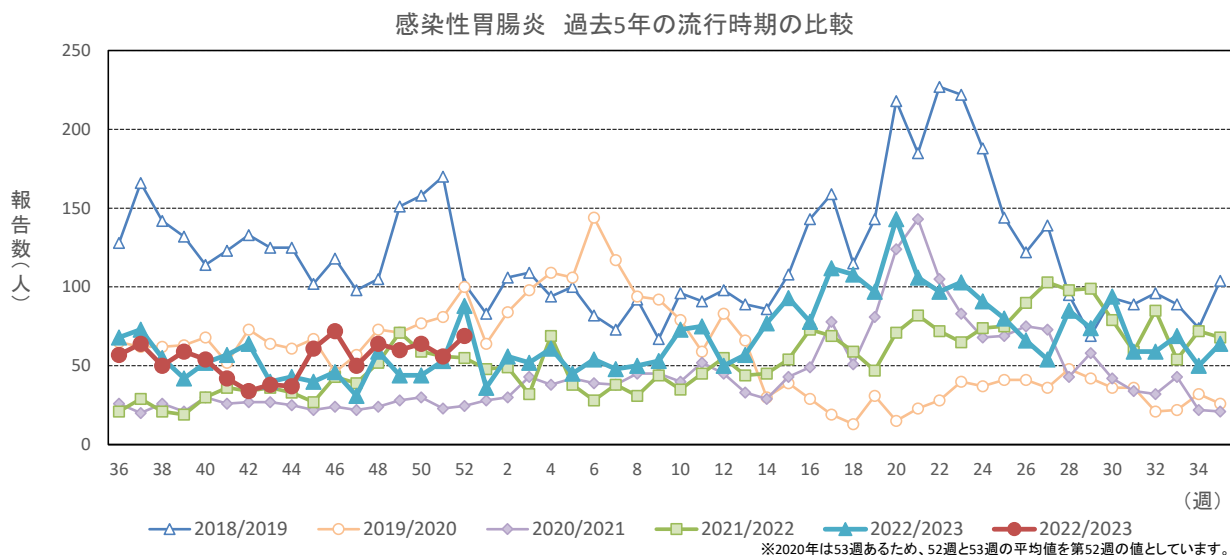
# ● 感染性胃腸炎

2023年、沖縄県内の報告数は3,500人、定点当たり報告数は111.44人で2022年よりも増加した。

2022/23シーズン（2022年第36週～2023年第35週）の報告数は3,468人、2023/24シーズン（2023年第36週～2024年第35週）の報告数は2023年第52週までで931人だった。

2023年は沖縄県、全国ともに、警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数20人）以上の週はなく、沖縄県では第20週の定点当たり報告数4.61人が、全国では第5週の定点当たり報告数7.91人が最多であった。

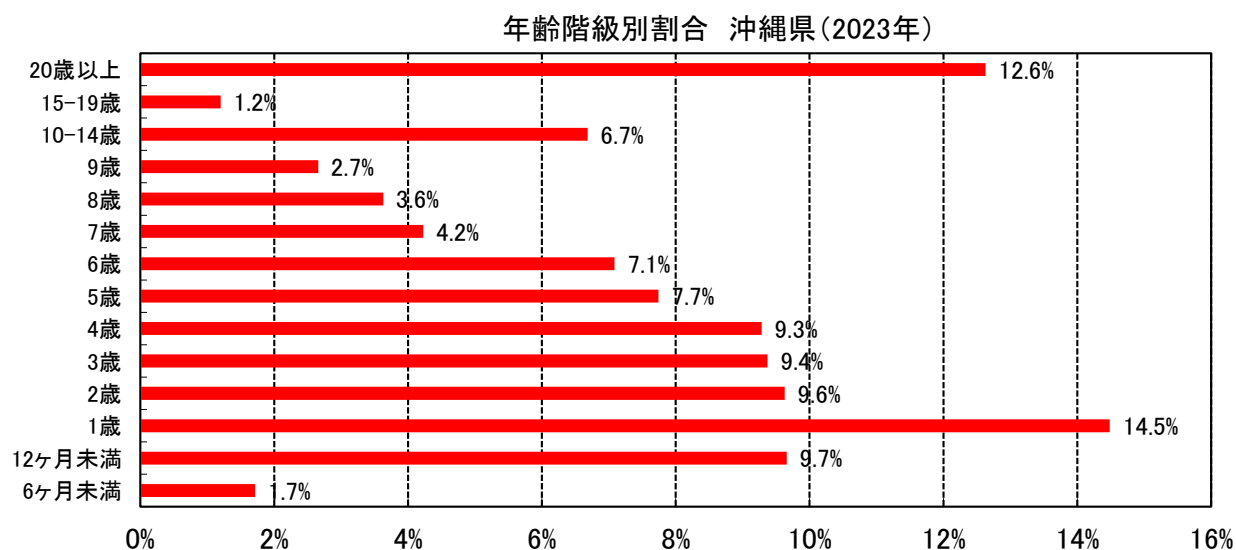
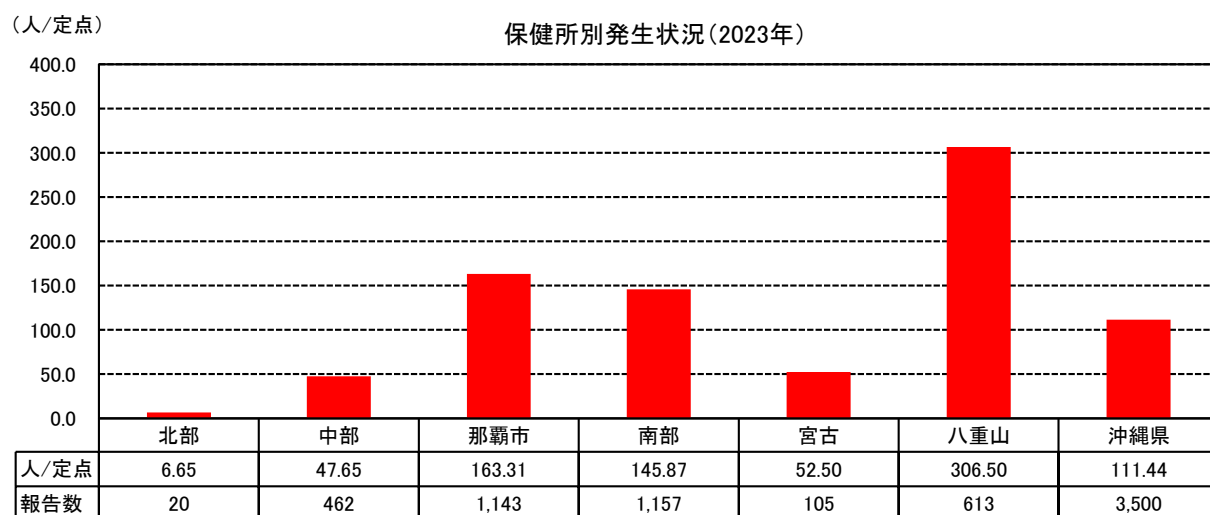
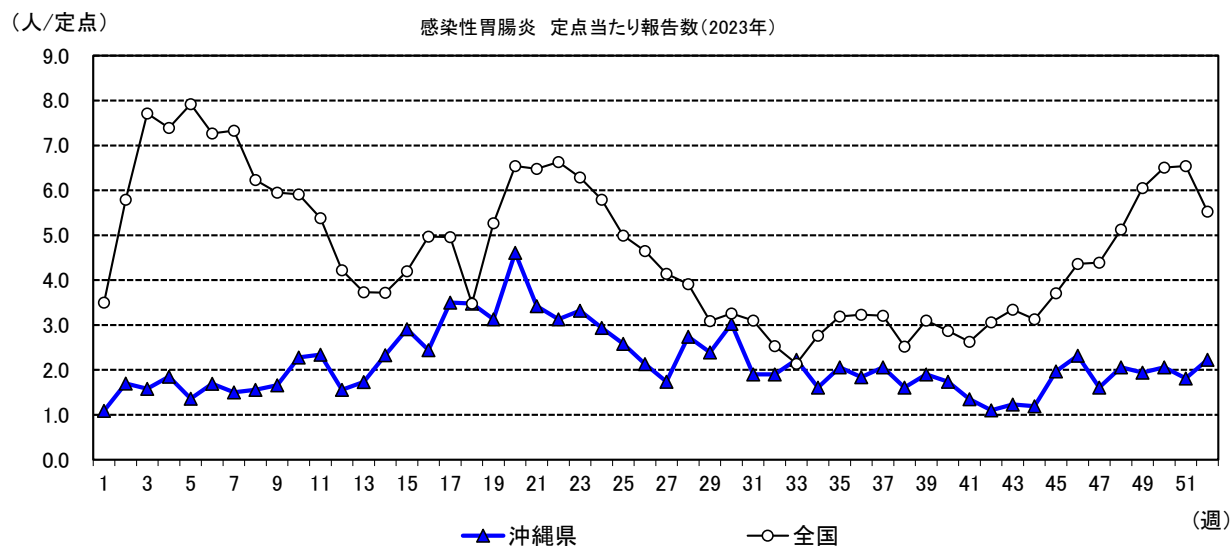
年齢階級別（沖縄県）では、1歳が全体の14.5%と最も多く、20歳以上が12.6%、12カ月未満が9.7%と続いた。



シーズン（9月～翌年8月）別の報告数合計：感染性胃腸炎

平均報告数 (2023/24を除く)	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24*
3,583	6,280	3,022	2,334	2,810	3,468	931

\*：2023年第36週～第52週の集計。

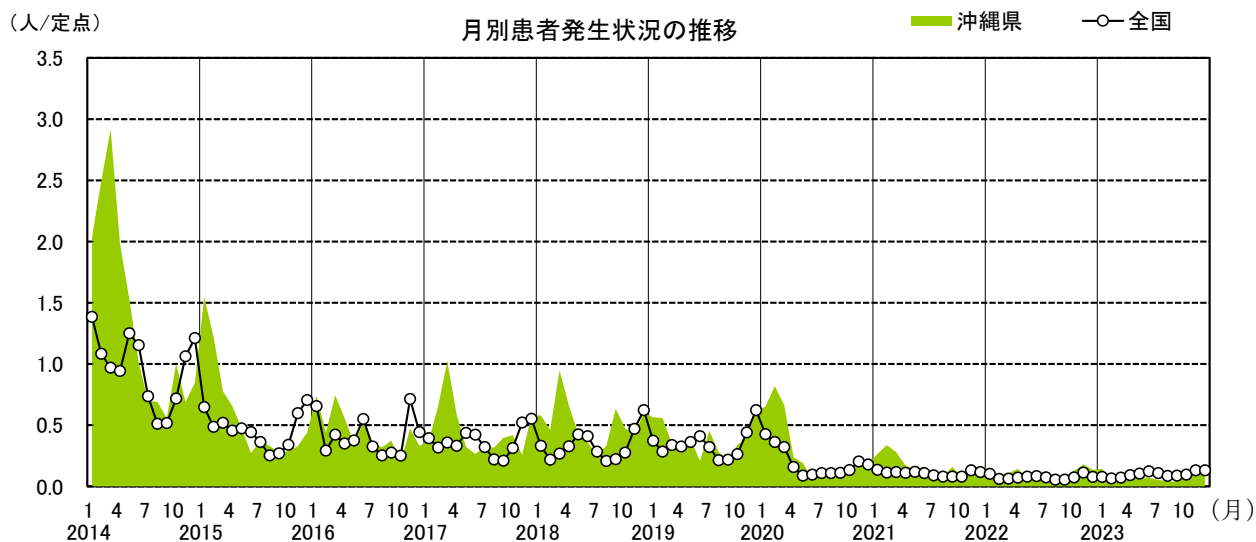
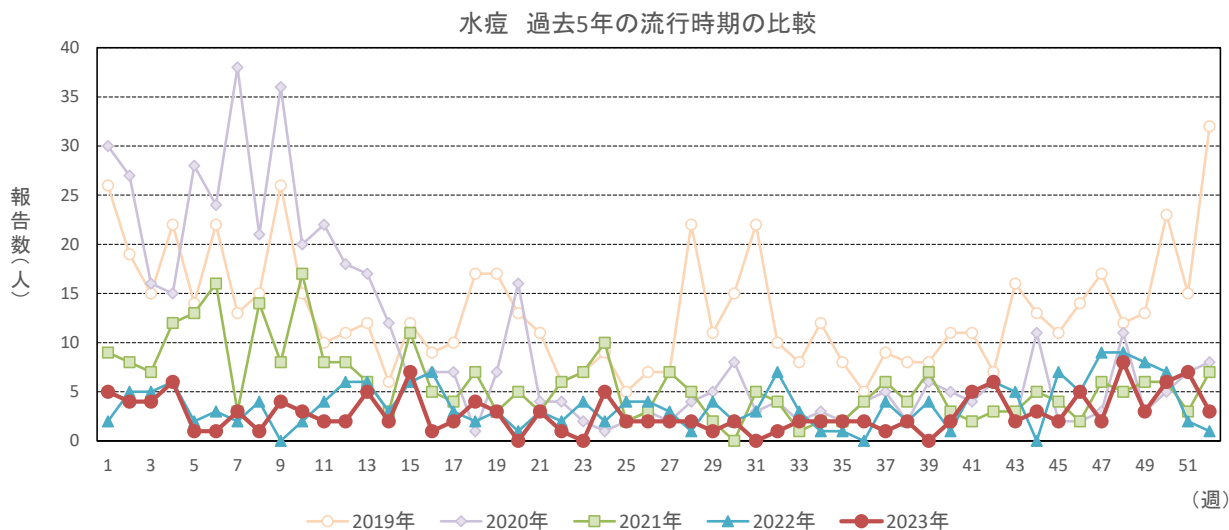


●水痘

2023年、沖縄県内の報告数は146人、定点当たり報告数は4.55人で、過去5年で最も少ない報告数だった。

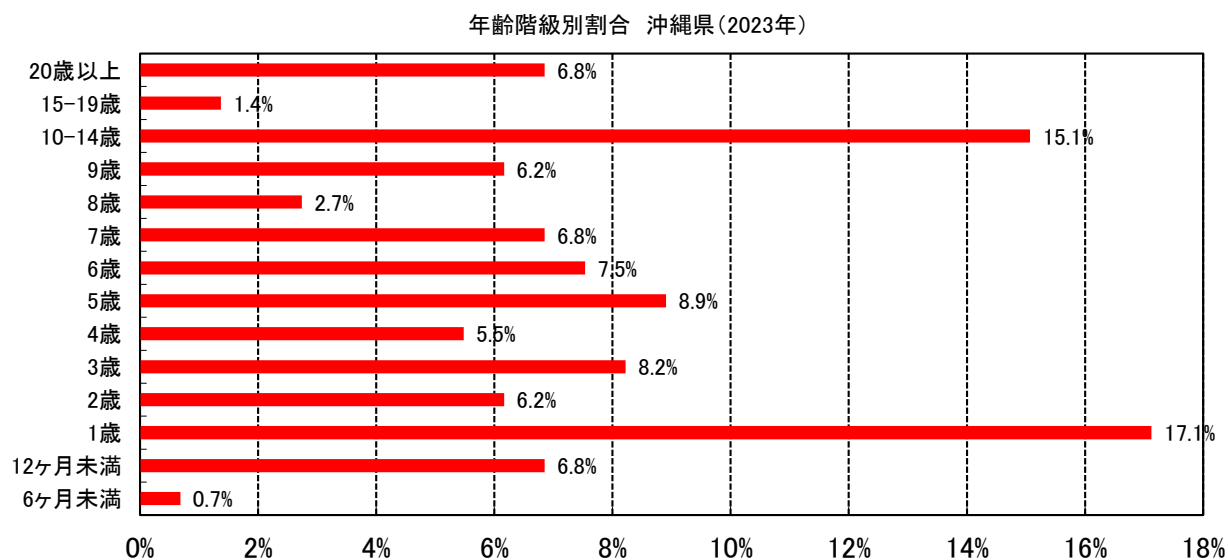
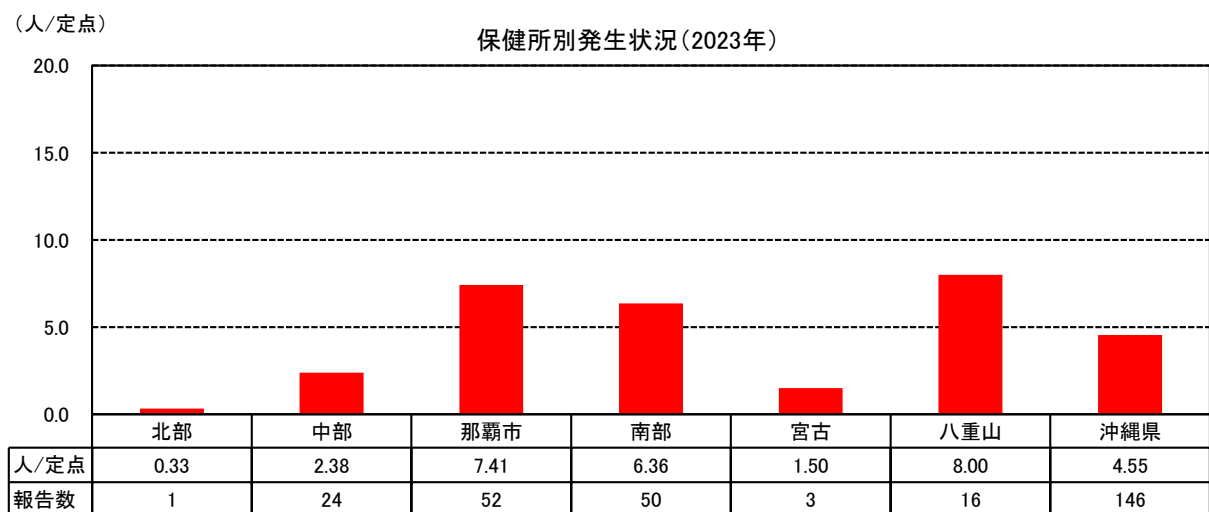
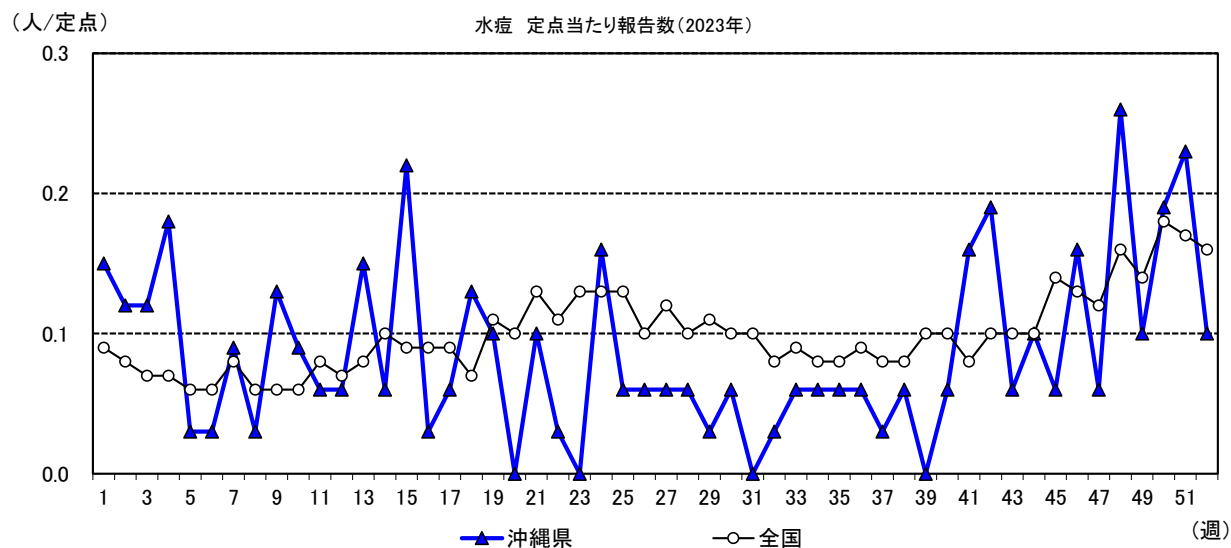
沖縄県、全国ともに注意報レベルの基準値（定点当たり報告数1人）以上の週はなく、沖縄県では第48週の定点当たり報告数0.26人が、全国では第50週の定点当たり報告数0.18人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、1歳が全体の17.1%と最も多く、10-14歳が15.1%、5歳が8.9%と続いた。



年別の報告数合計：水痘

平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
368	689	511	302	191	146

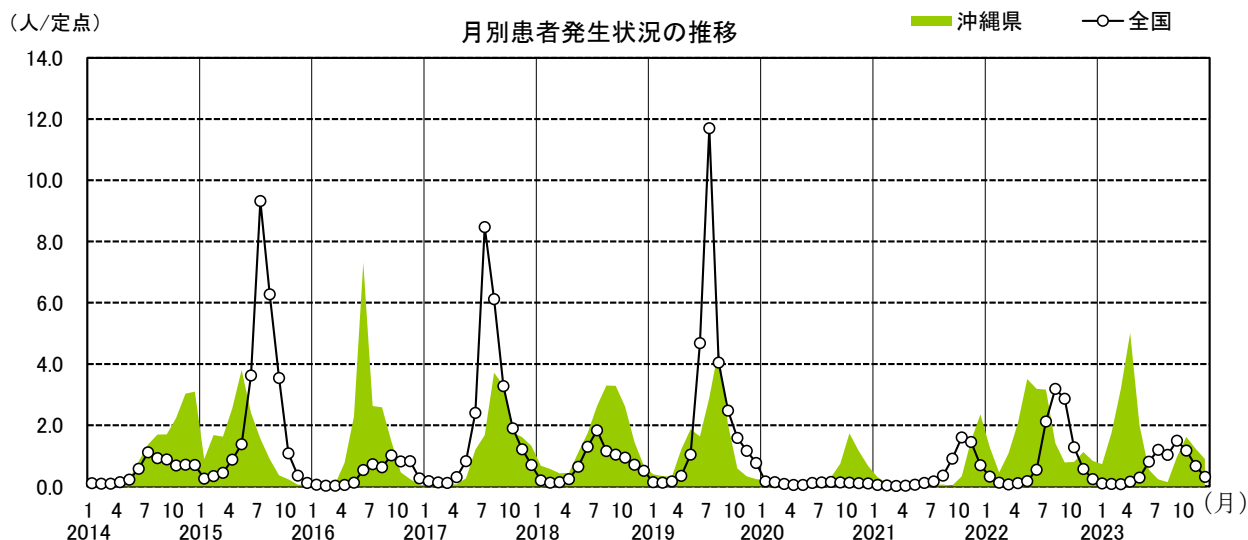
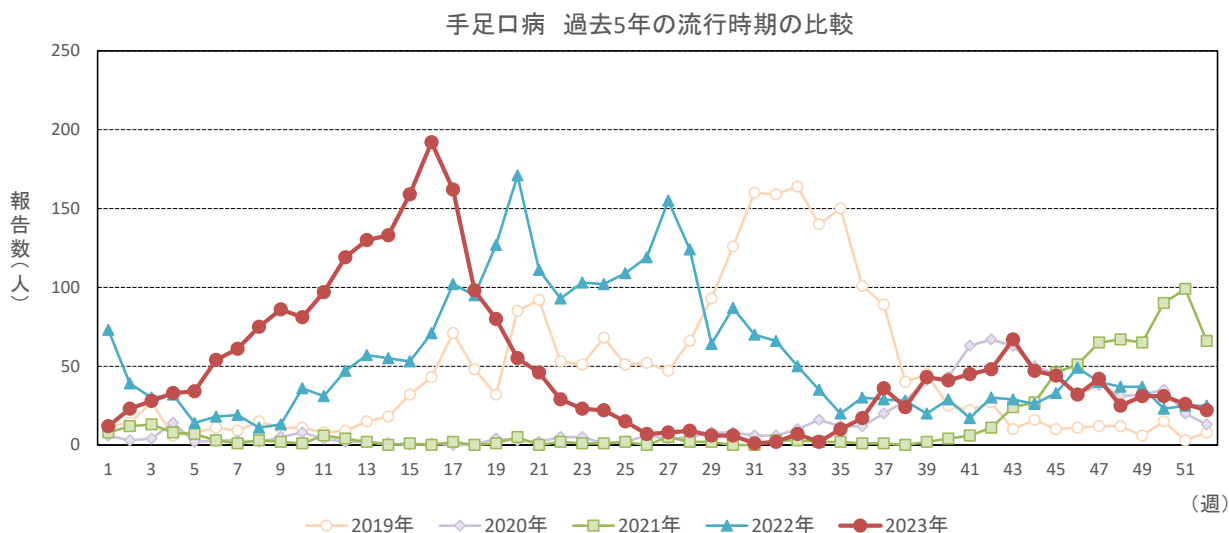


# ●手足口病

2022年、沖縄県内の報告数は2,526人、定点当たり報告数は79.60人で、過去5年で二番目に多い報告数だった。

沖縄県では第16週に定点当たり報告数が6人と警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数5人）以上となり、警報が発令された。その後、第19週まで警報レベル終息基準値（定点当たり報告数2人）以上の報告が続いた。全国では第39週の定点当たり報告数3.77人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、1歳が全体の34.1%と最も多く、2歳が20.4%、6ヶ月以上12ヶ月未満が10.6%と続いた。

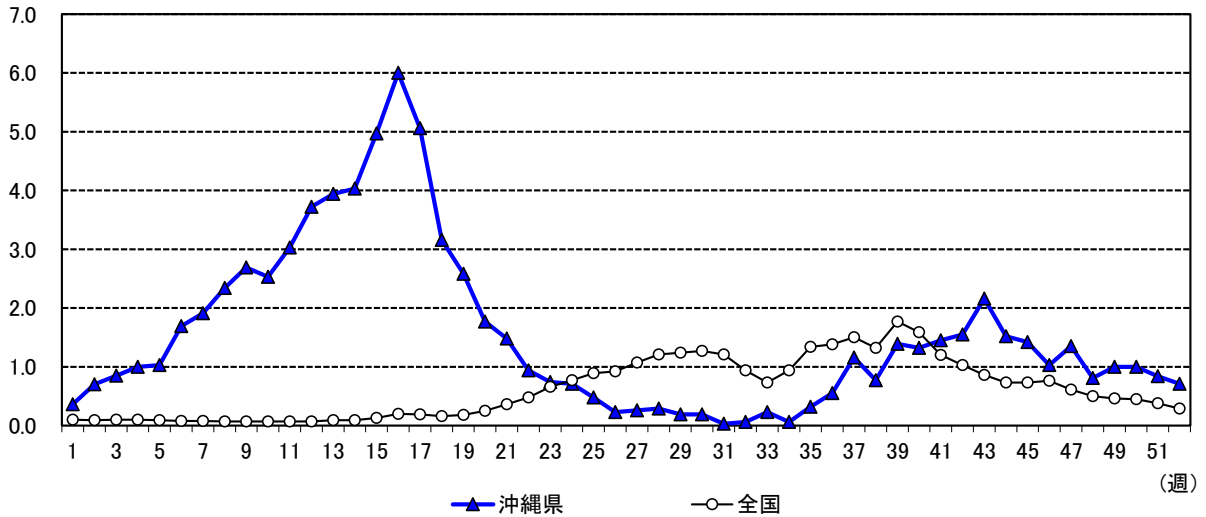


年別の報告数合計：手足口病

平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1,876	2,409	809	729	2,909	2,526

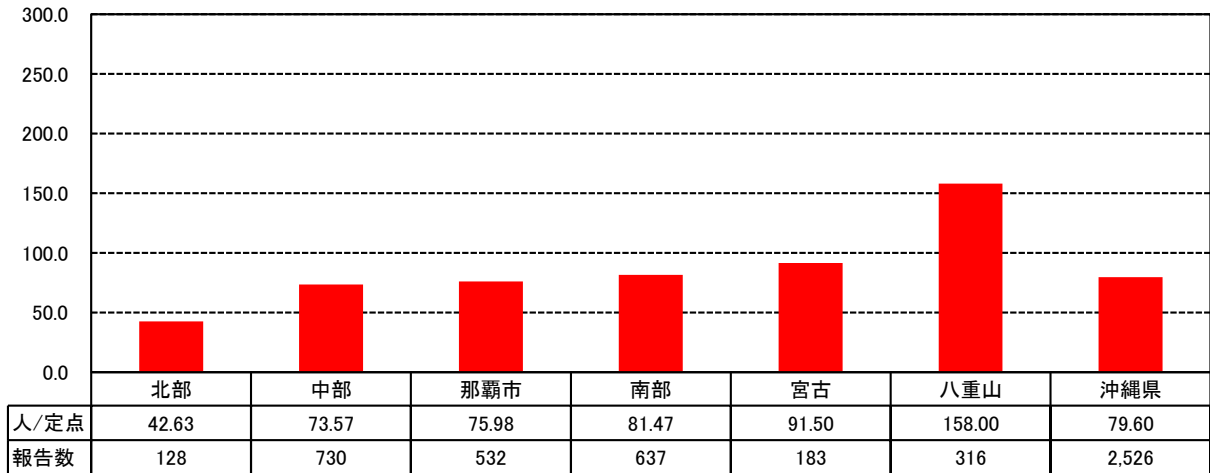
(人/定点)

手足口病 定点当たり報告数(2023年)

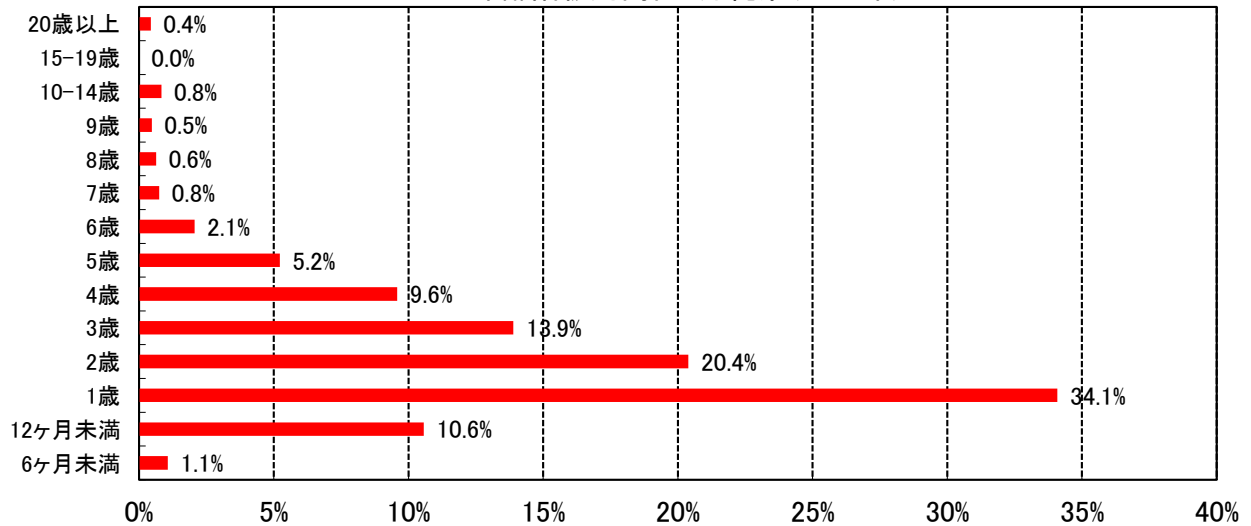


(人/定点)

保健所別発生状況(2023年)



年齢階級別割合 沖縄県(2023年)

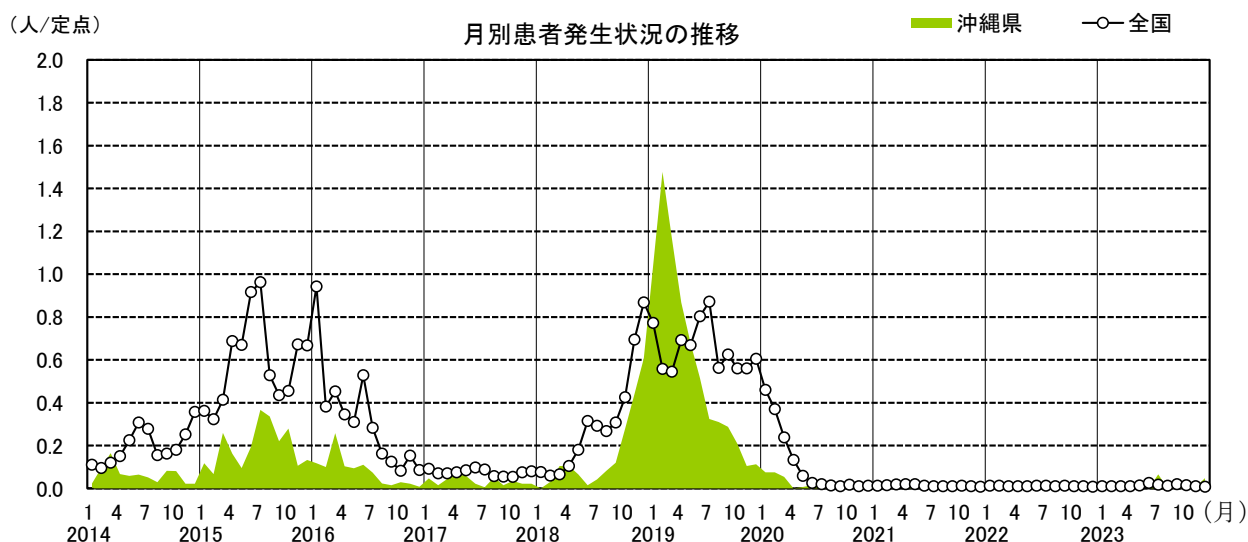
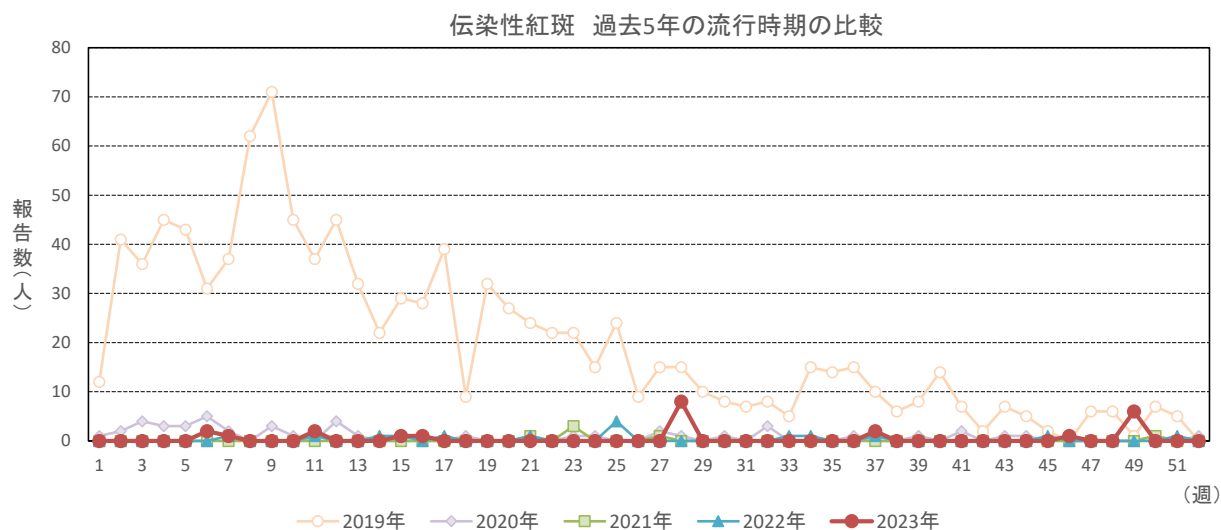


# ●伝染性紅斑

2023年、沖縄県内の報告数は24人、定点当たり報告数は0.75人であり、2022年に比べ増加した。

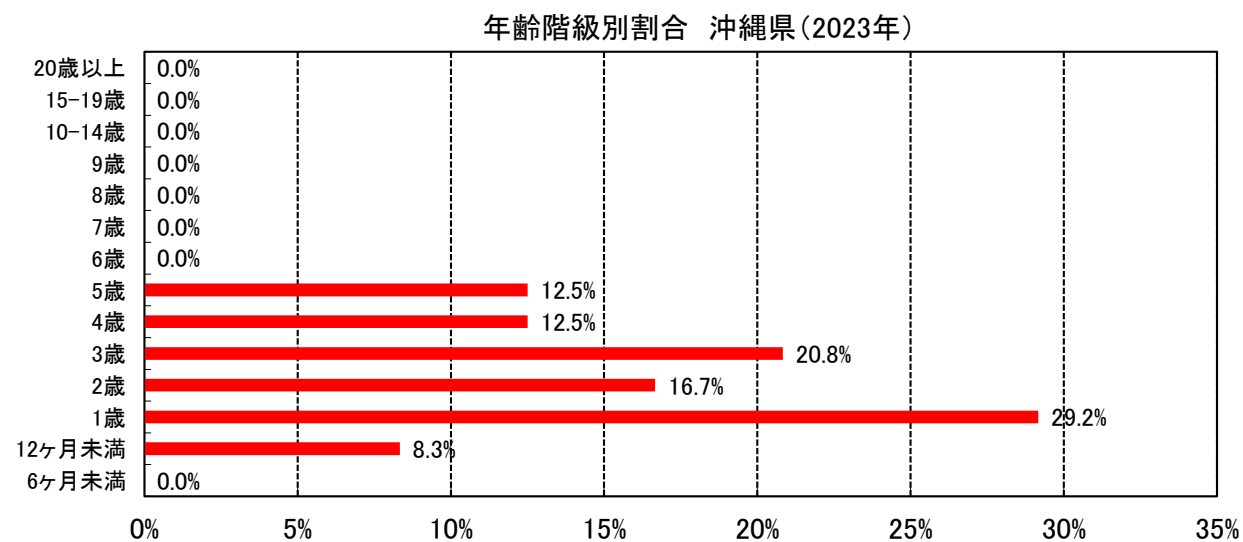
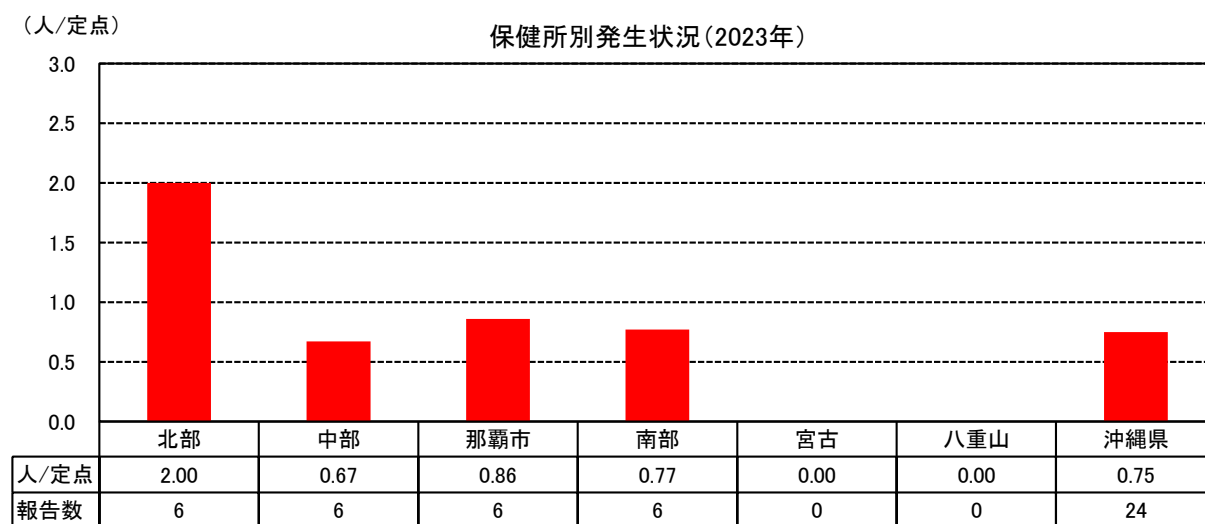
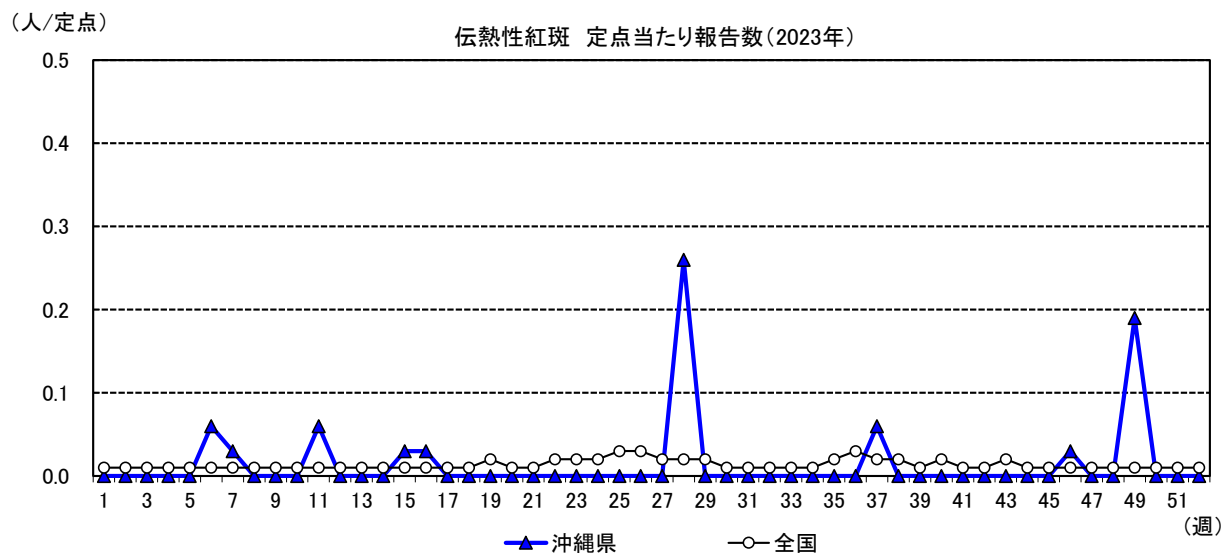
沖縄県、全国ともに警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数2人）以上の週はなく、沖縄県では第28週の定点当たり報告数0.26人が、全国では複数の週での定点当たり報告数0.03人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、1歳がそれぞれ全体の29.2%と最も多く、3歳が20.8%、2歳が16.7%と続いた。



年別の報告数合計：伝染性紅斑

平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
227	1,039	49	6	15	24

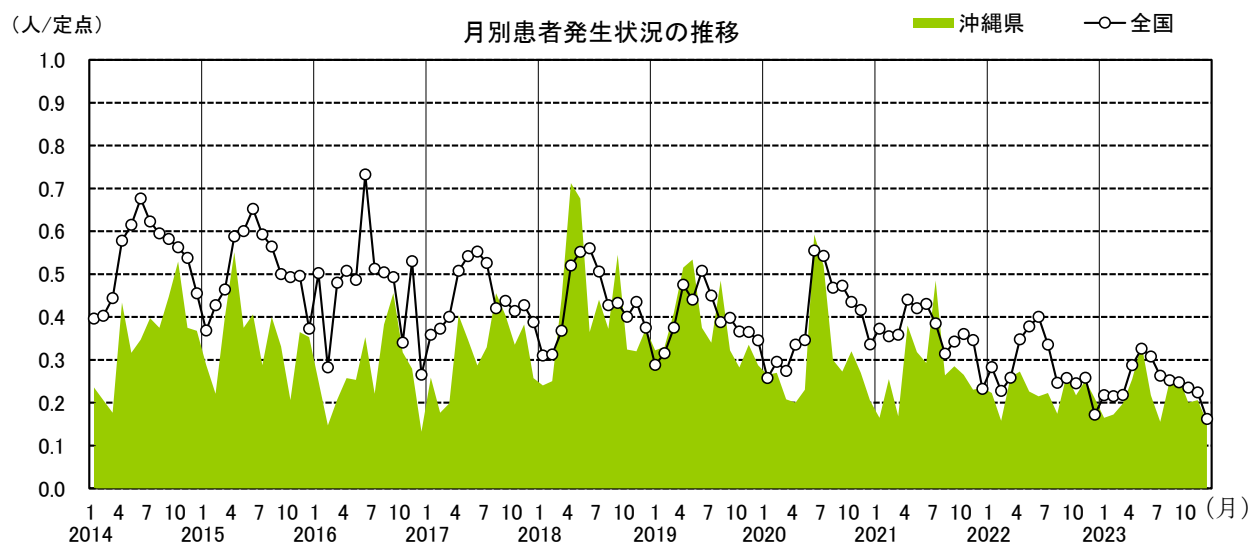
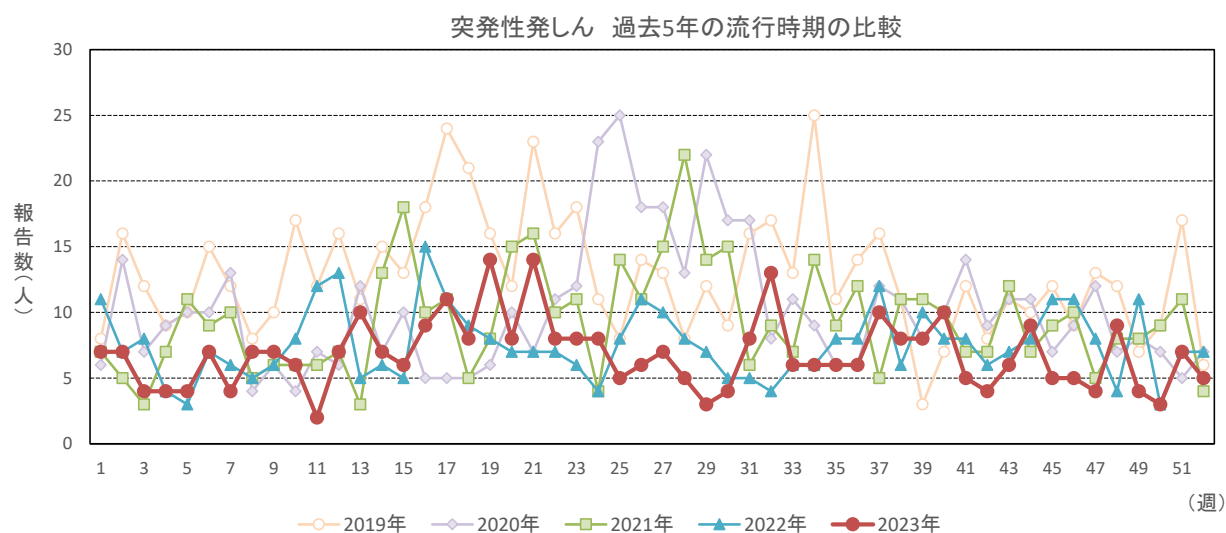


● 突発性発しん

2023年、沖縄県内の報告数は354人、定点当たり報告数は11.26人であり、過去5年で最も少ない報告数だった。

沖縄県では第19週と第21週の定点当たり報告数0.45人が、全国では第19週での定点当たり報告数0.36人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、1歳が全体の58.5%と最も多く、6ヶ月以上12ヶ月未満が23.7%、2歳が9.6%と続いた。

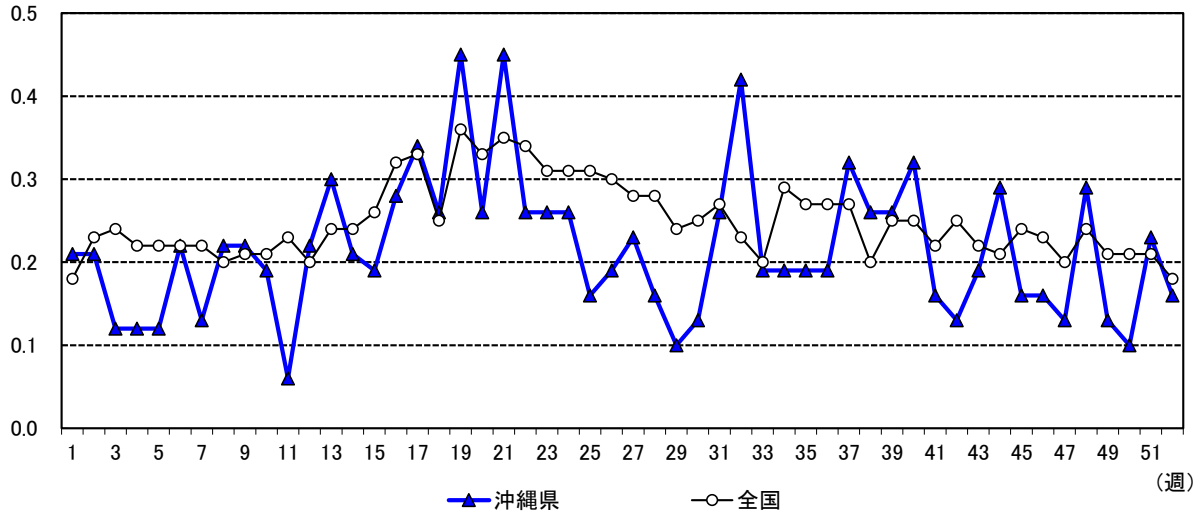


年別の報告数合計：突発性発しん

平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
487	666	534	488	393	354

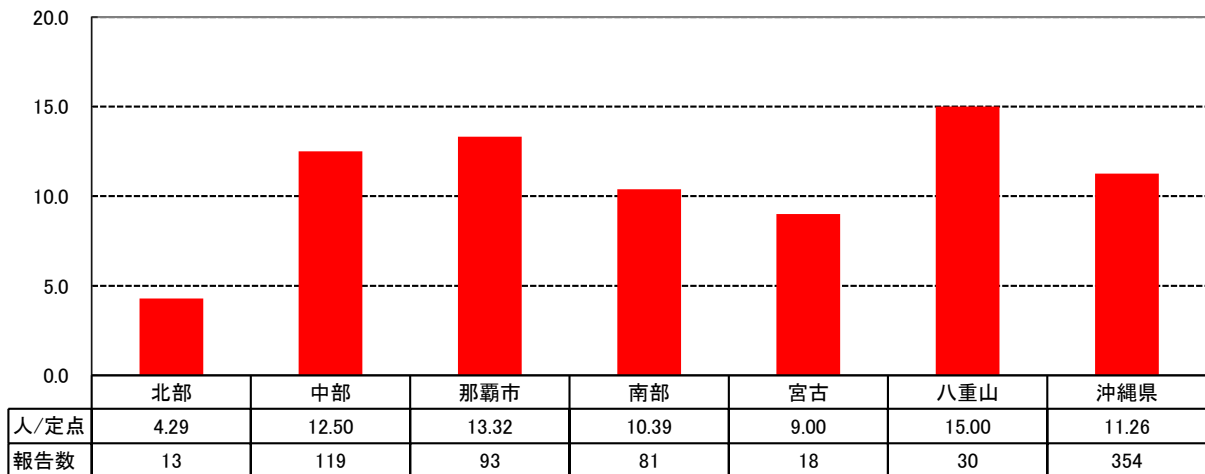
(人/定点)

突発性発しん 定点当たり報告数(2023年)

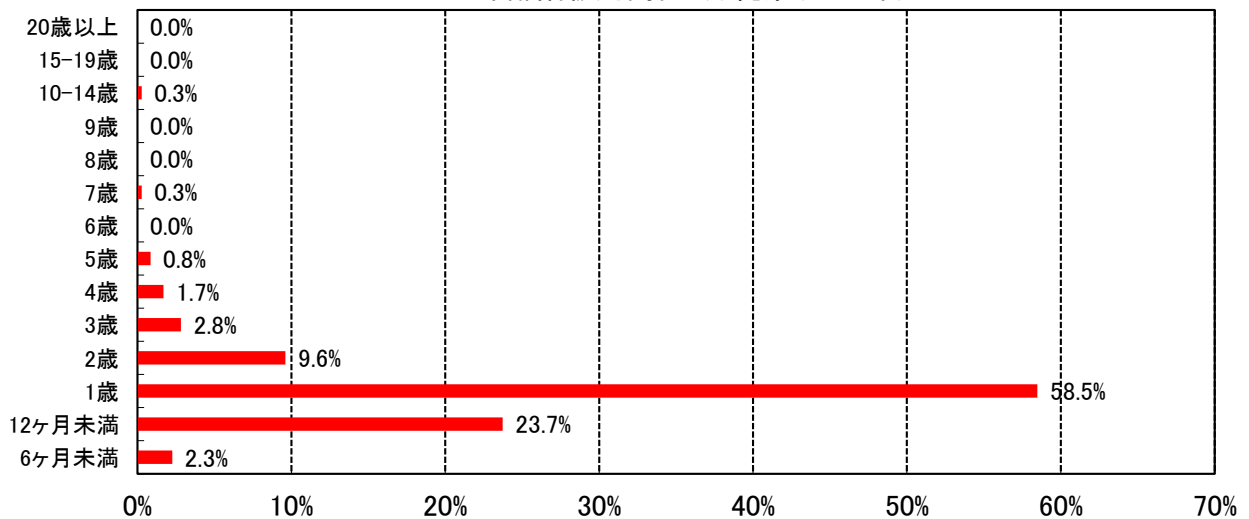


(人/定点)

保健所別発生状況(2023年)



年齢階級別割合 沖縄県(2023年)

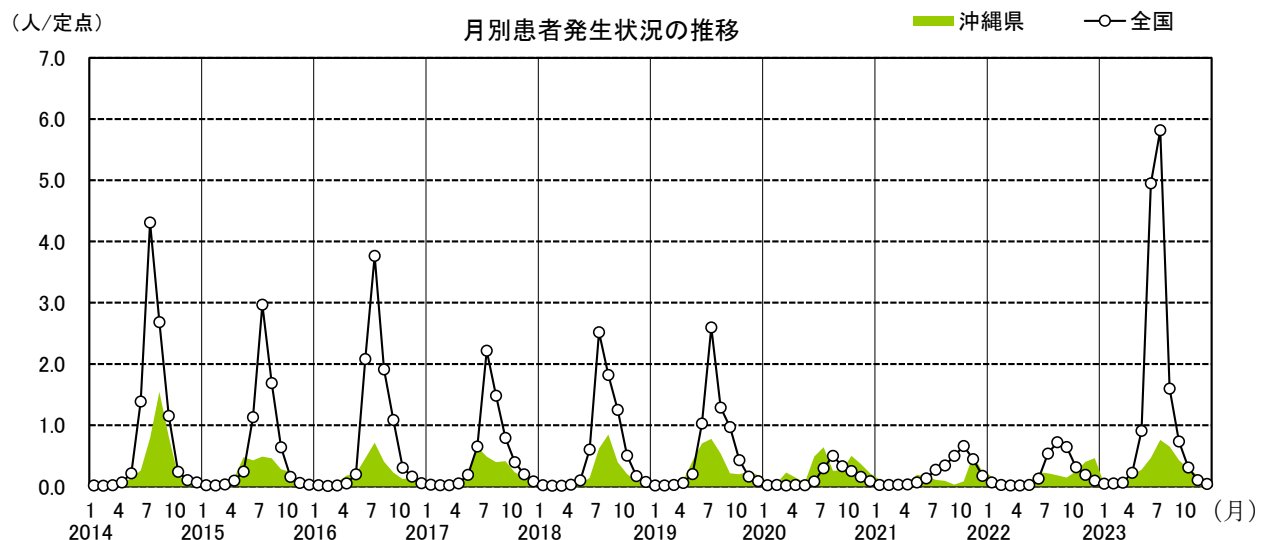
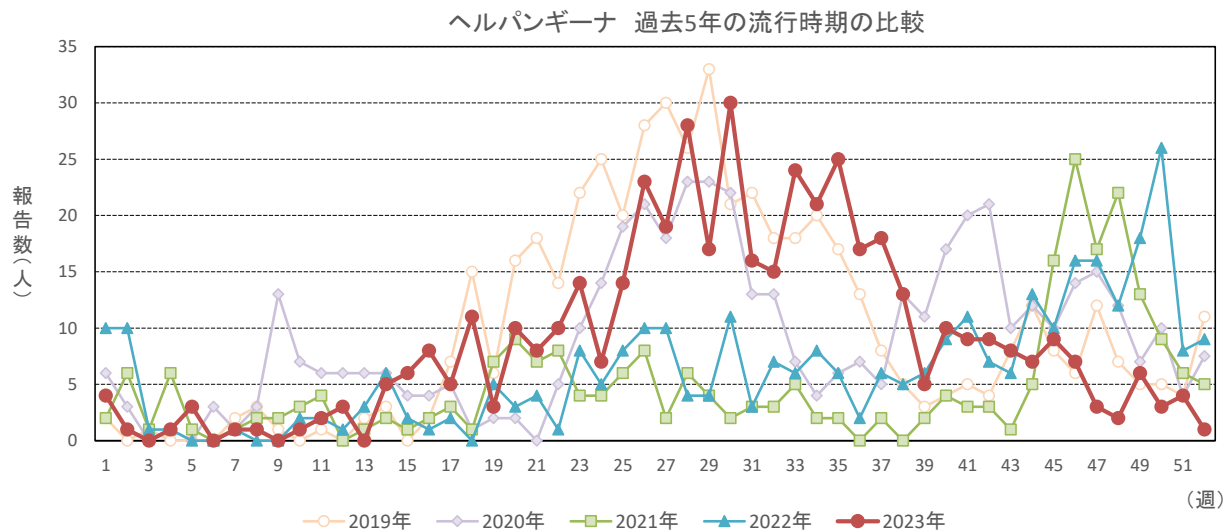


# ●ヘルパンギーナ

2023年、沖縄県内の報告数は467人、定点当たり報告数は15.00人であり、2022年に比べ増加した。

沖縄県は警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数6人）以上の週はなく、全国は第26週に定点当たり報告数が6.47人と警報レベル以上となり、警報が発令された。その後、第31週まで警報レベル終息基準値（定点当たり報告数2人）以上の報告が続いた。沖縄県では第30週の定点当たり報告数0.97人が、全国では第27週の定点当たり報告数7.33人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、1歳の報告数が最も多く全体の34.5%、次いで6ヶ月以上12ヶ月未満が20.8%、2歳が16.9%と続いた。

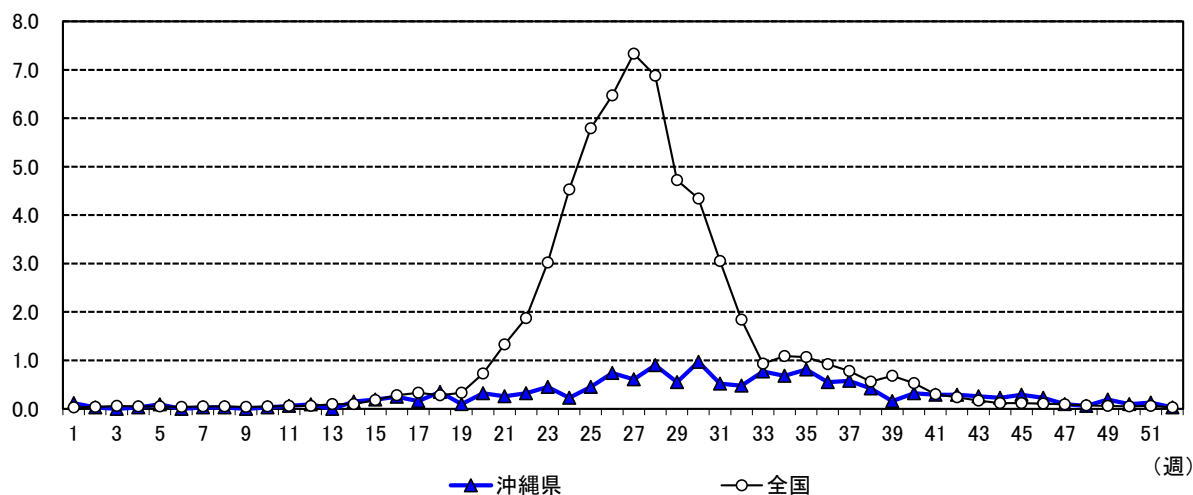


年別の報告数合計：ヘルパンギーナ

平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
408	513	480	253	325	467

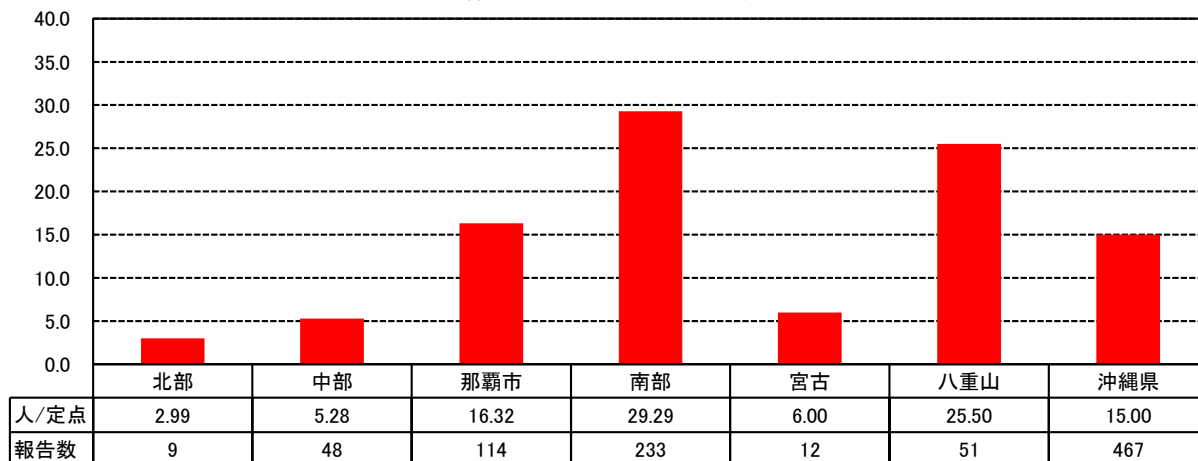
(人/定点)

ヘルパンギーナ 定点当たり報告数(2023年)

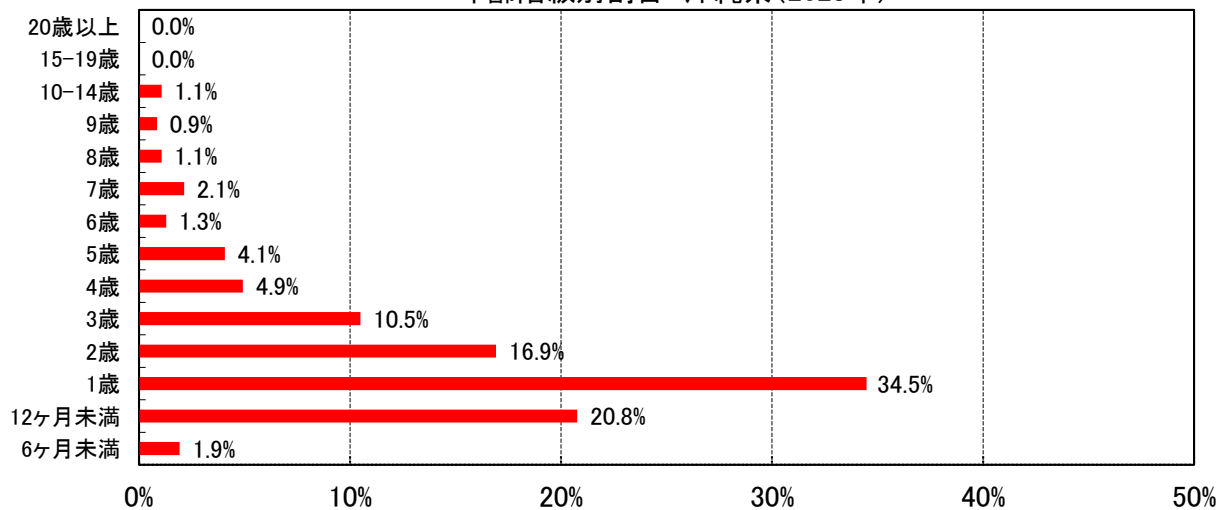


(人/定点)

保健所別発生状況(2023年)



年齢階級別割合 沖縄県(2023年)

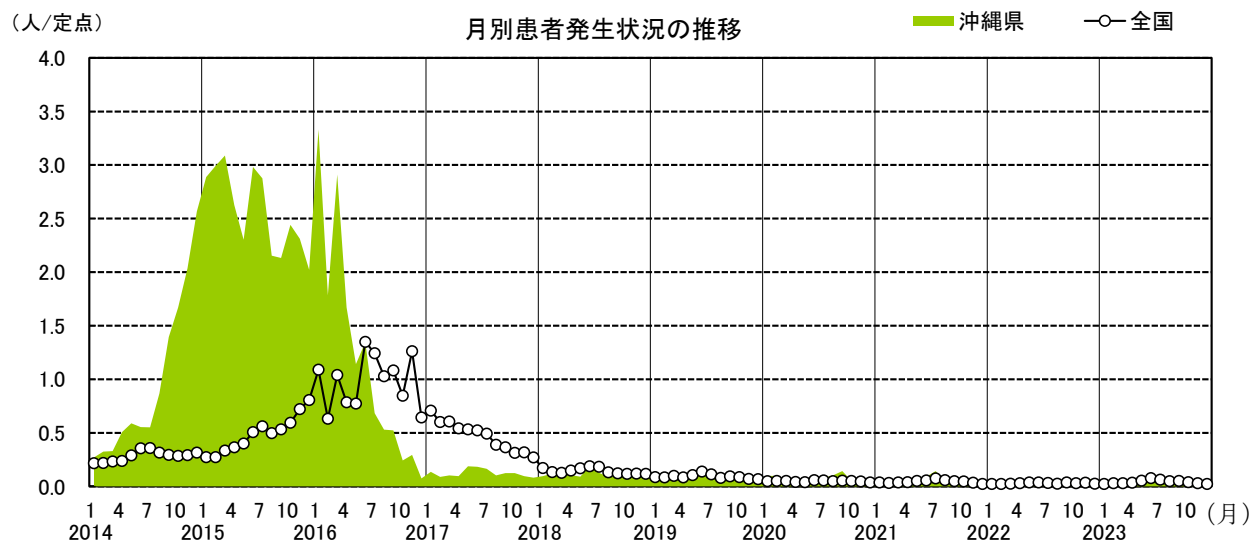
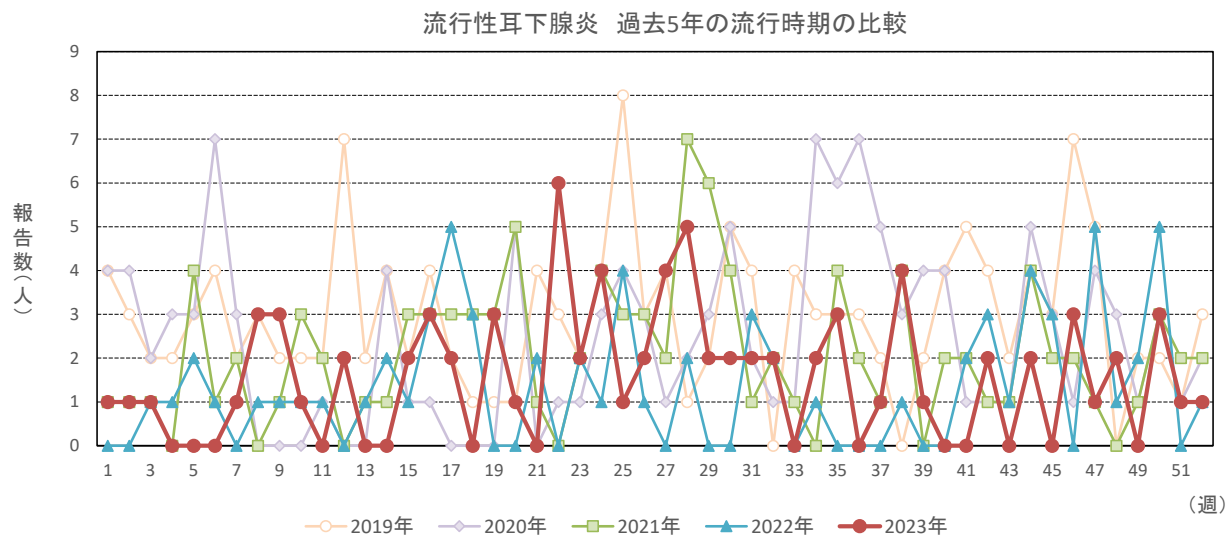


●流行性耳下腺炎

2023年、沖縄県内の報告数は82人、定点当たり報告数は2.55人で、過去5年で二番目に少ない報告数であった。

沖縄県、全国ともに、注意報レベルの基準値（定点当たり報告数3人）以上の週はなく、沖縄県では複第22週の定点当たり報告数0.19人が、全国では第25週の定点当たり報告数0.09人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、4歳と5歳の報告数が最も多く全体の18.3%、次いで10-14歳が11.0%と続いた。

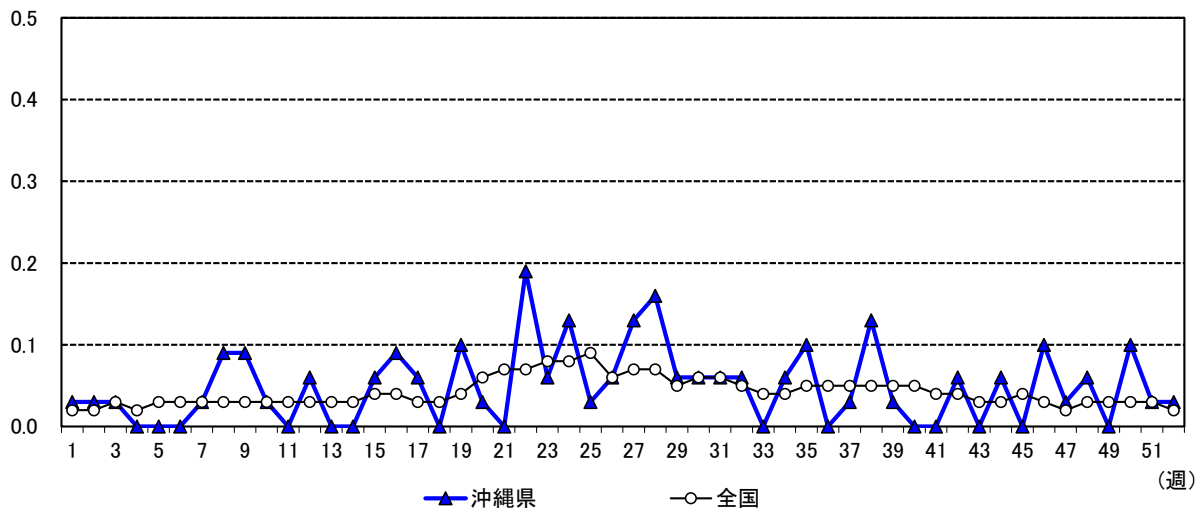


年別の報告数合計：流行性耳下腺炎

平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
108	152	129	108	70	82

(人/定点)

流行性耳下腺炎 定点当たり報告数(2023年)

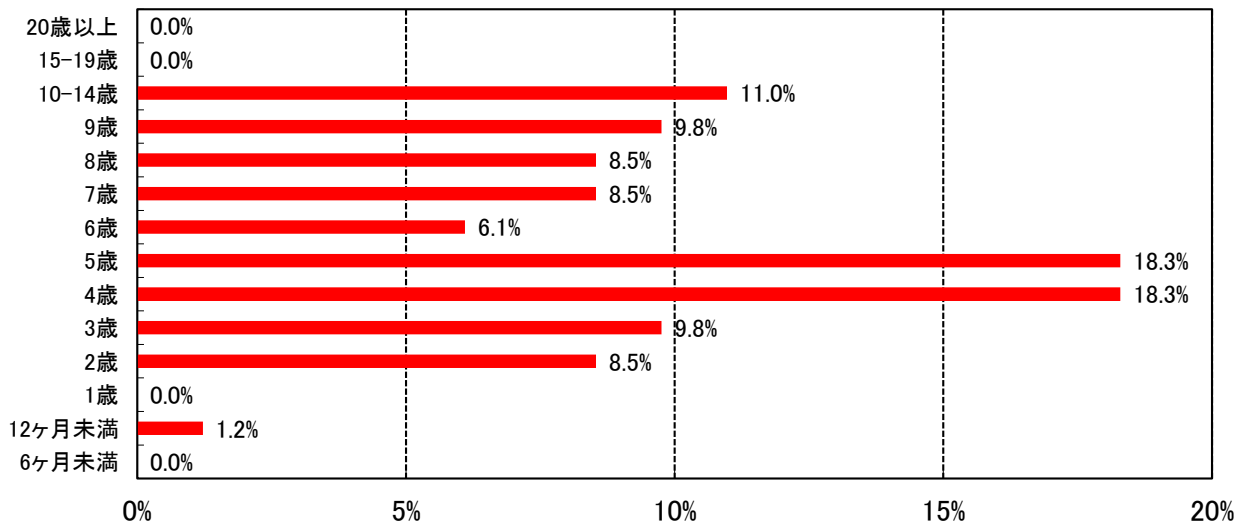


(人/定点)

保健所別発生状況(2023年)



年齢階級別割合 沖縄県(2023年)



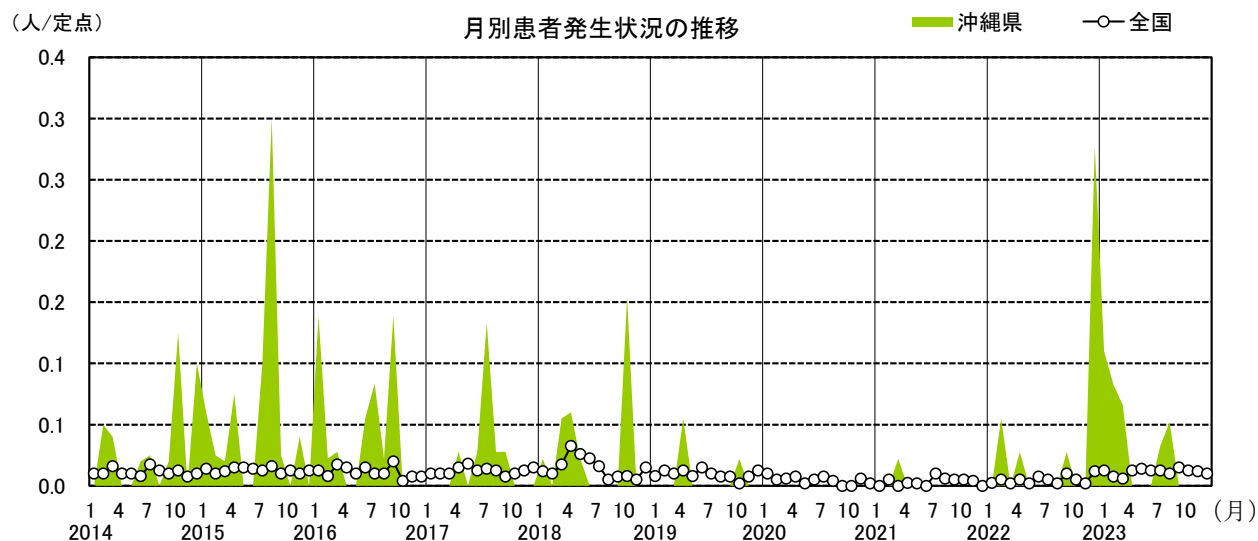
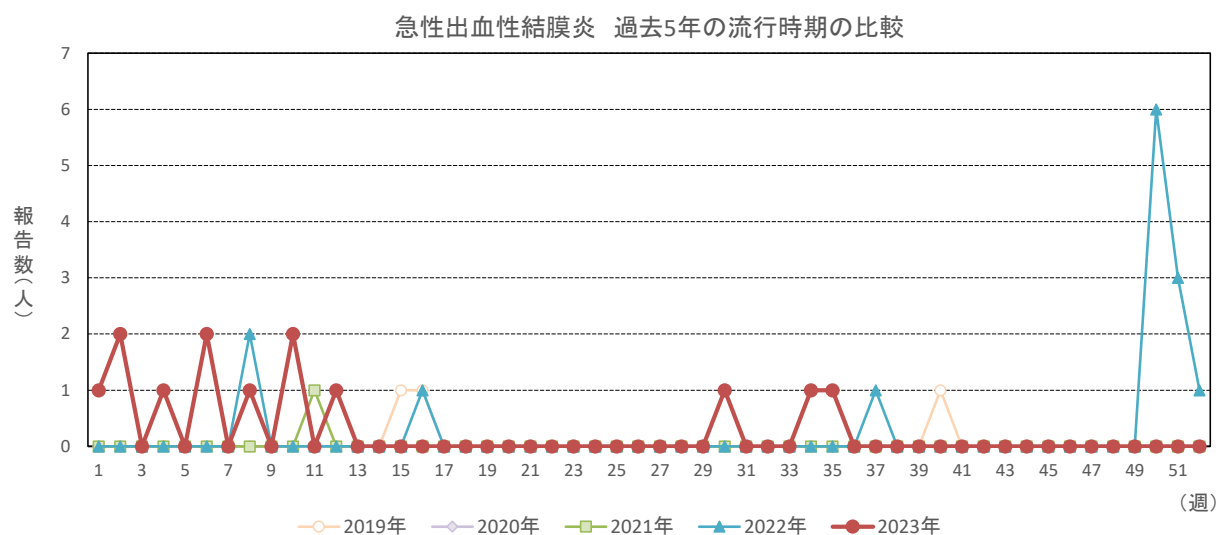
## (2) 眼科定点

### ●急性出血性結膜炎

2023年、沖縄県内の報告数は13人、定点当たり報告数は1.55人であり、2022年よりも増加した。

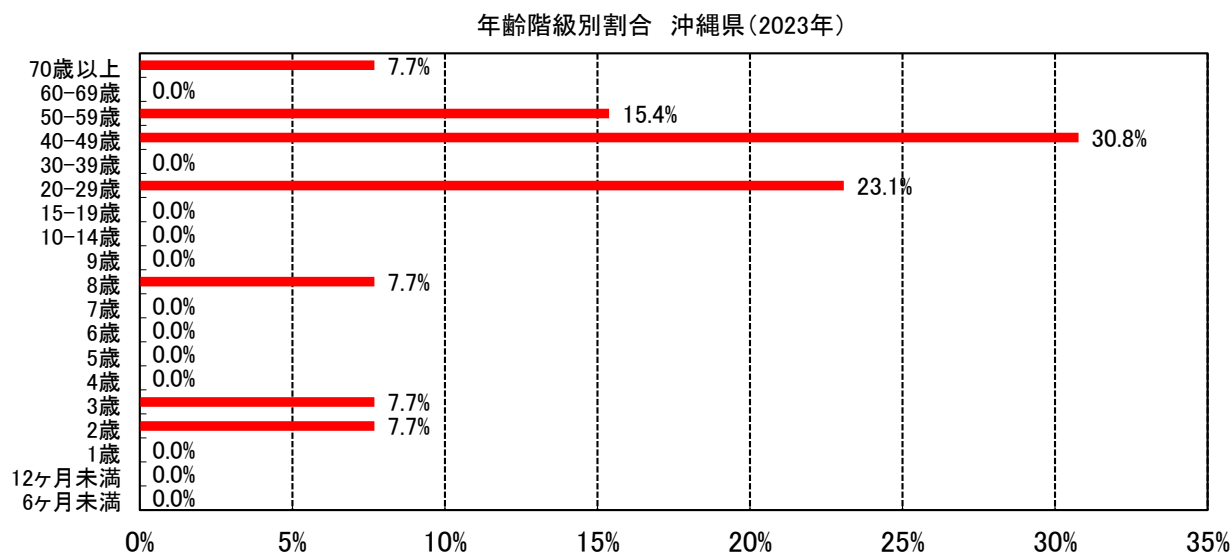
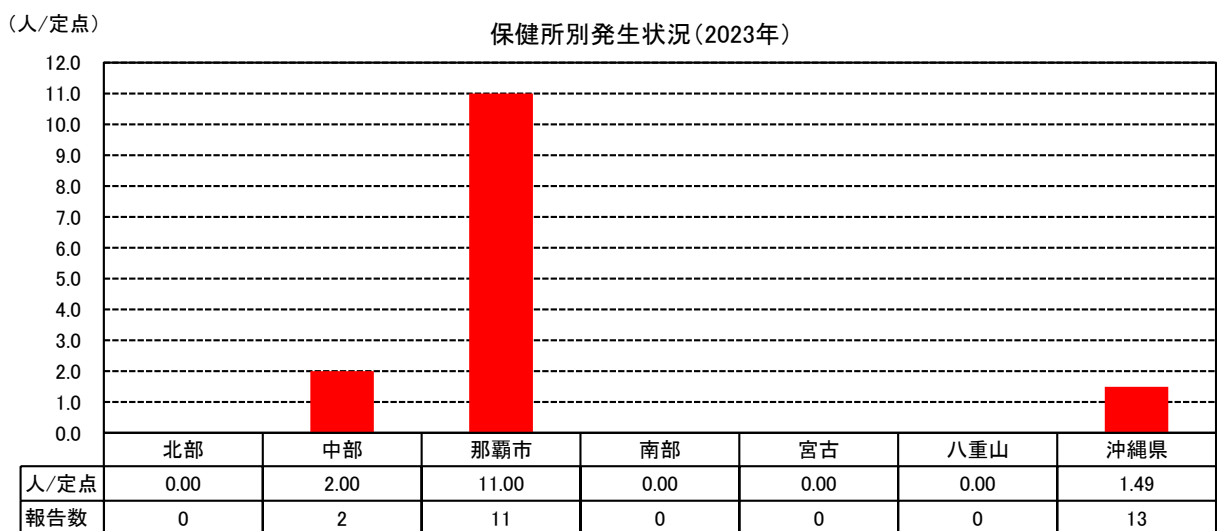
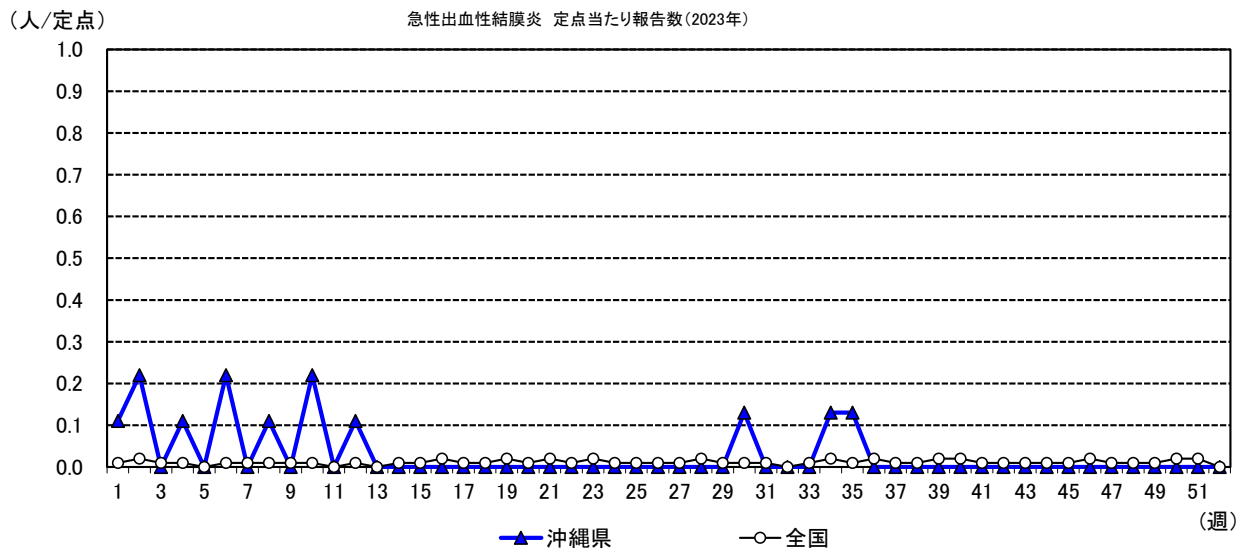
沖縄県、全国ともに、警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数1人）以上の週はなく、沖縄県では複数の週の定点当たり報告数0.22人が、全国では複数の週での定点当たり報告数0.02人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、40代が30.8%で最も多く、次いで20代が23.1%、50代が15.4%と続いた。



年別の報告数合計：急性出血性結膜炎

平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
6	3	0	1	14	13

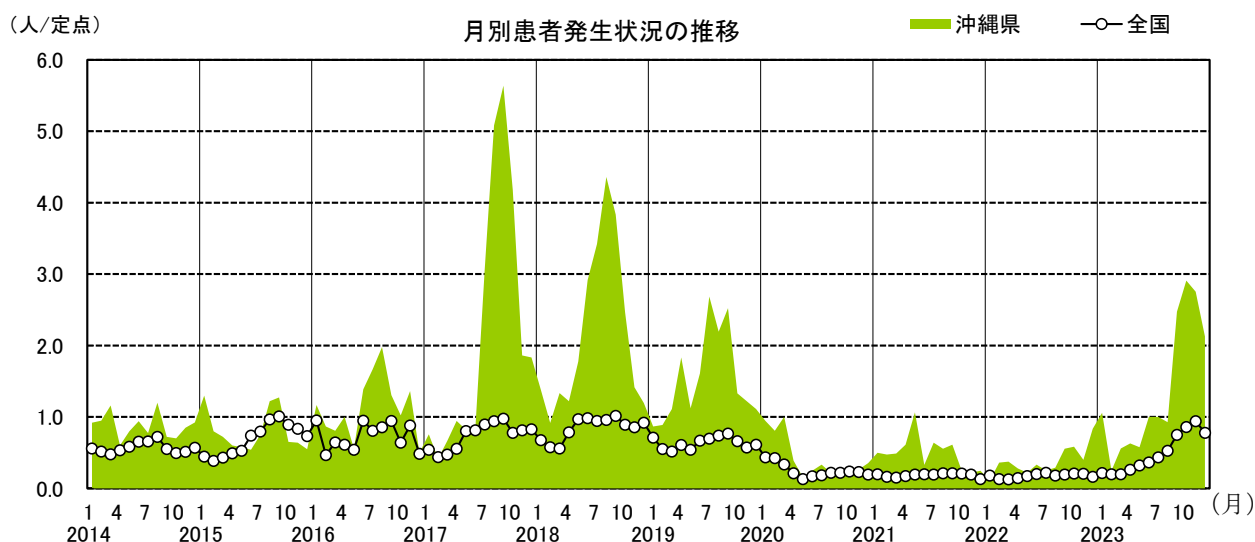
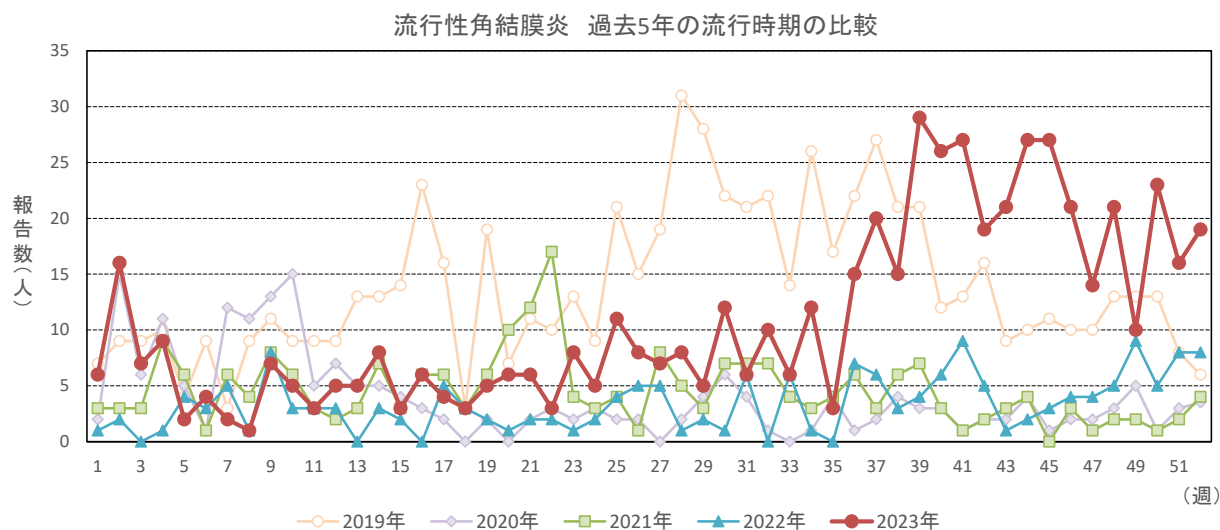


●流行性角結膜炎

2023年、沖縄県内の報告数は567人、定点当たり報告数は69.88人であり、過去5年で二番目に多い報告数であった。

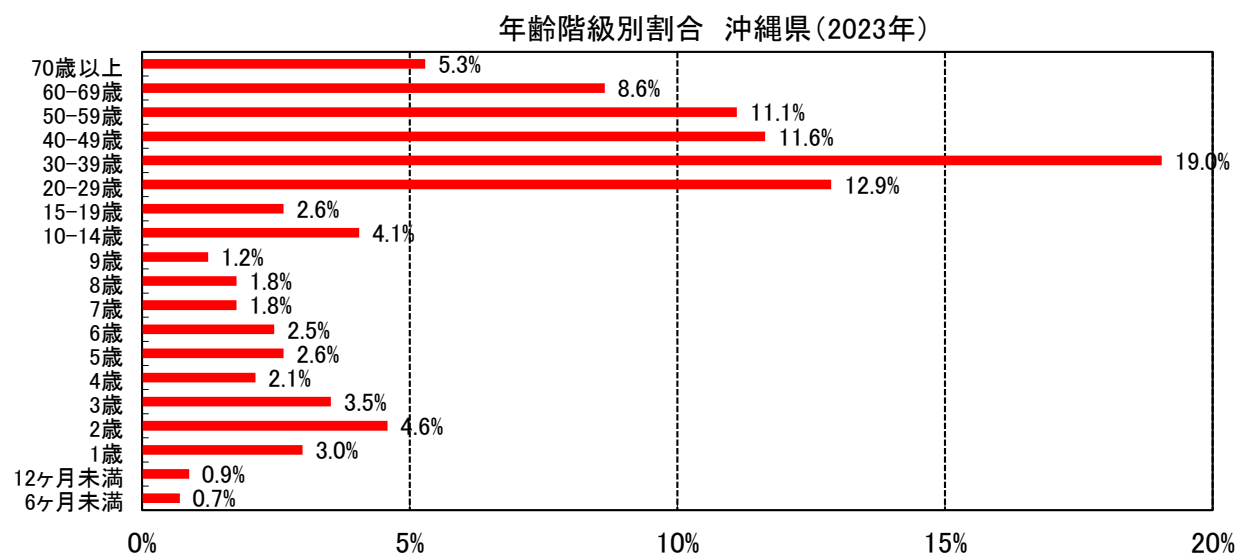
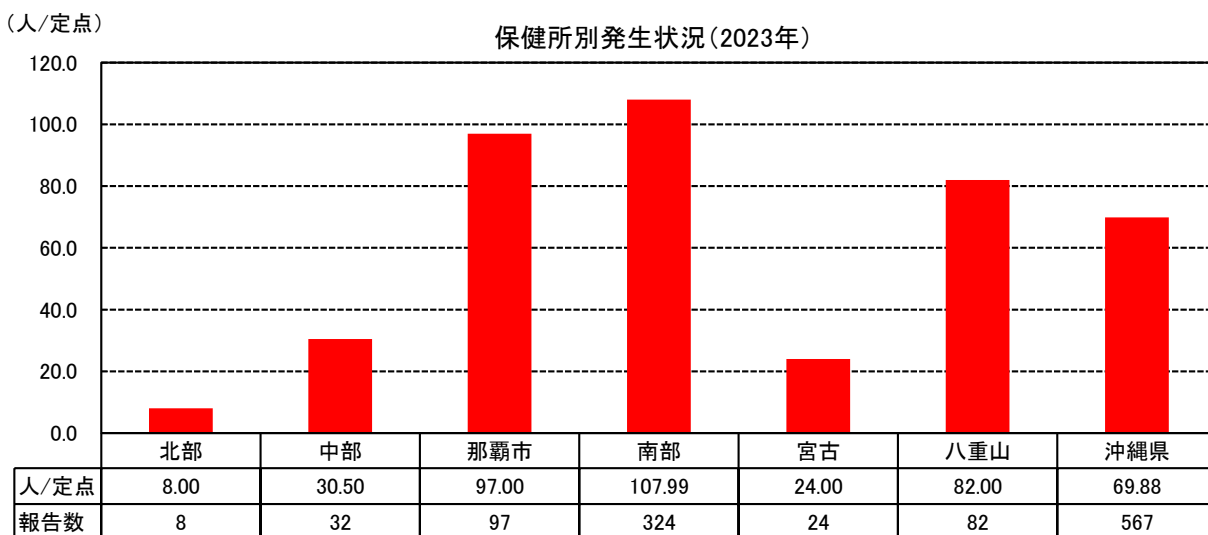
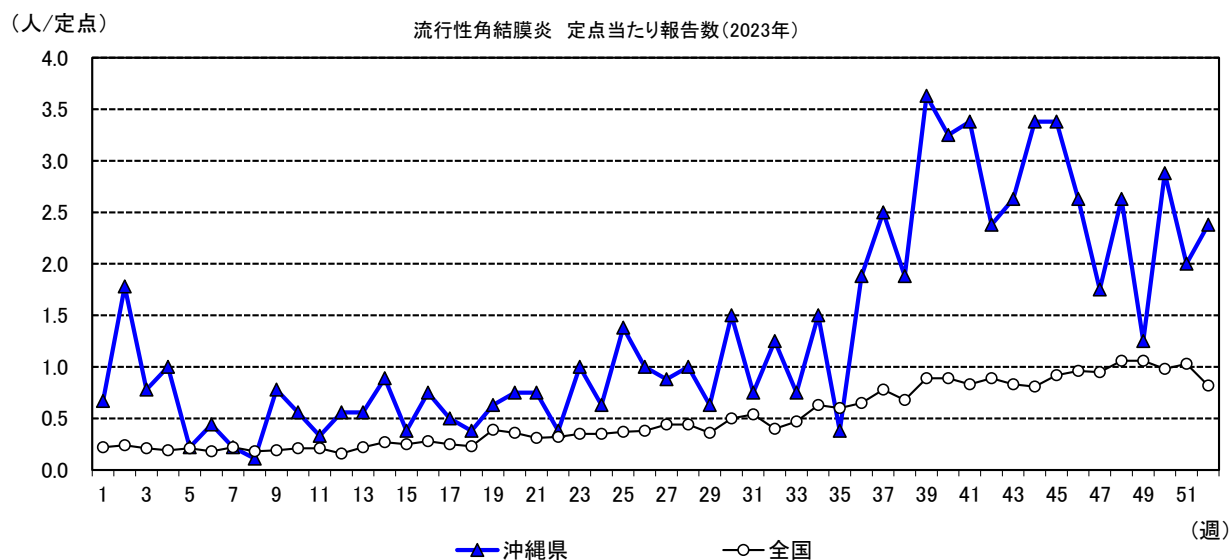
沖縄県、全国ともに、警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数8人）以上の週はなく、沖縄県では第39週の定点当たり報告数3.63人が、全国では第48週と第49週の定点当たり報告数1.06人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、30代の報告数が最も多く全体の19.0%、次いで20代が12.9%、40代が11.6%と続いた。



年別の報告数合計：流行性角結膜炎

平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
381	720	206	237	177	567



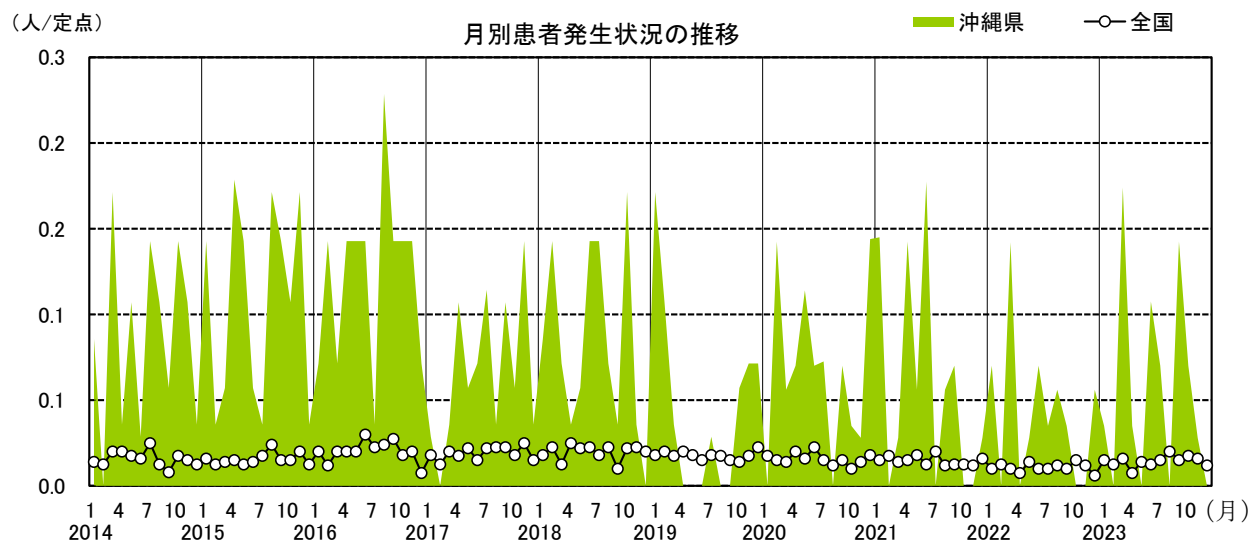
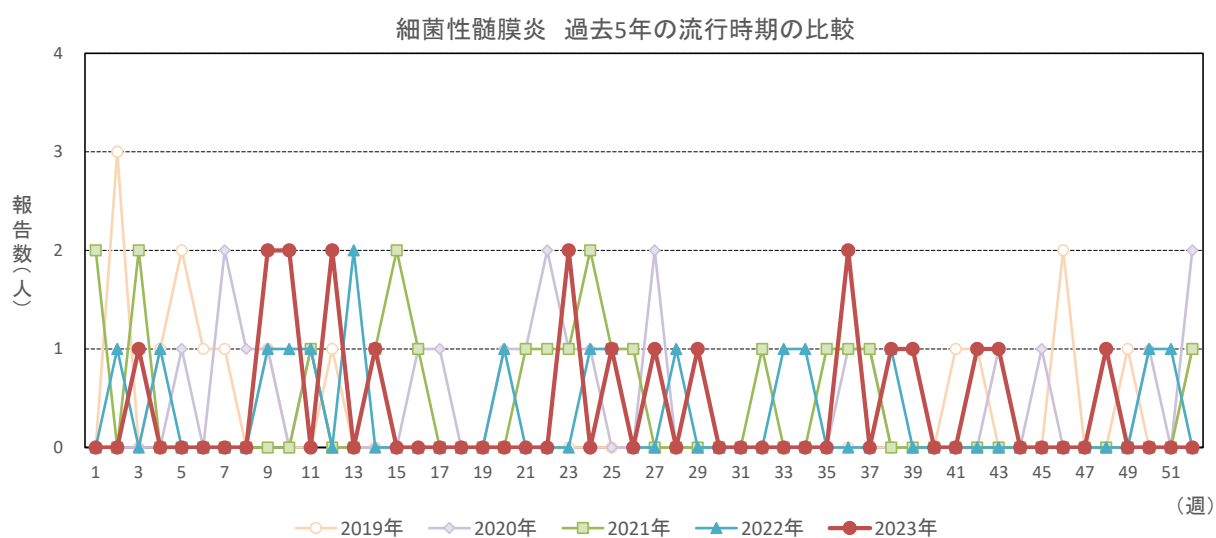
### (3) 基幹定点

#### ●細菌性髄膜炎

2023年、沖縄県内の報告数は20人、定点当たり報告数は2.85人であり、2022年よりも増加した。

沖縄県では複数の週での定点当たり報告数0.29人が、全国では複数の週での定点当たり報告数0.03人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、0歳が40.0%と最も多かった。

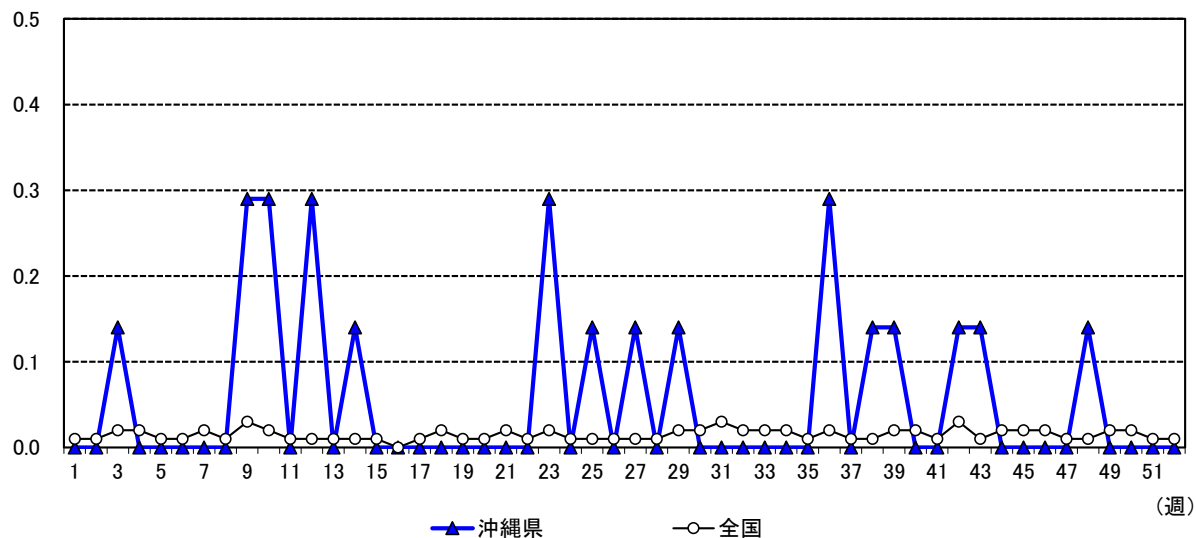


年別の報告数合計：細菌性髄膜炎

平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
20	17	25	21	16	20

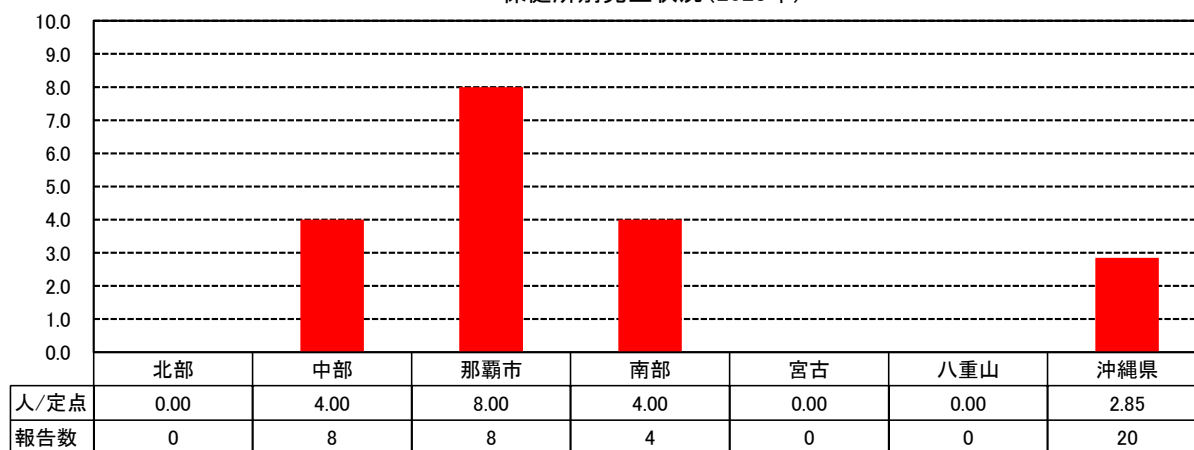
(人/定点)

細菌性髄膜炎 定点当たり報告数(2023年)

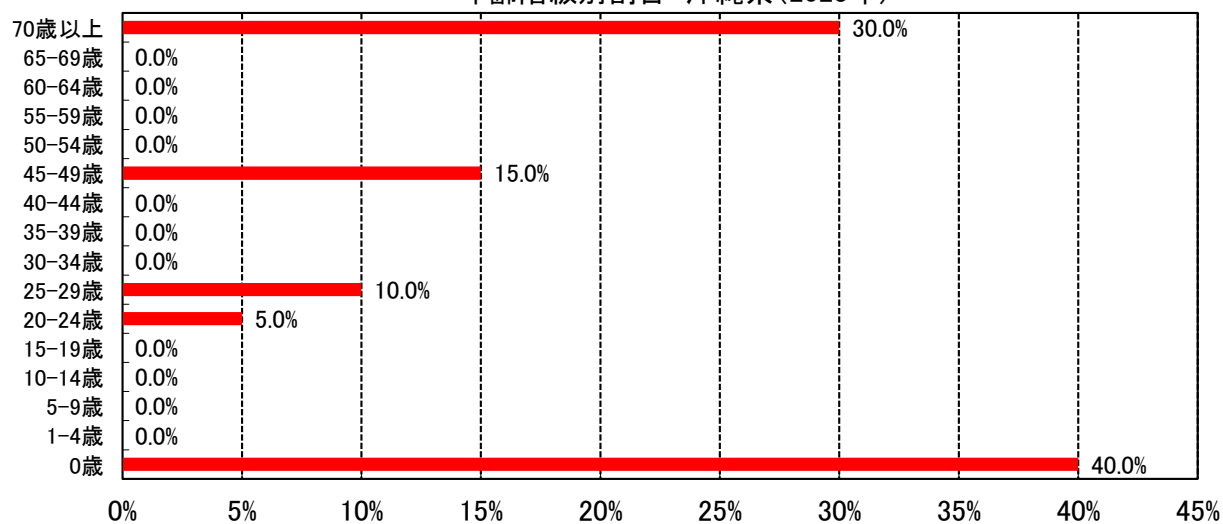


(人/定点)

保健所別発生状況(2023年)



年齢階級別割合 沖縄県(2023年)

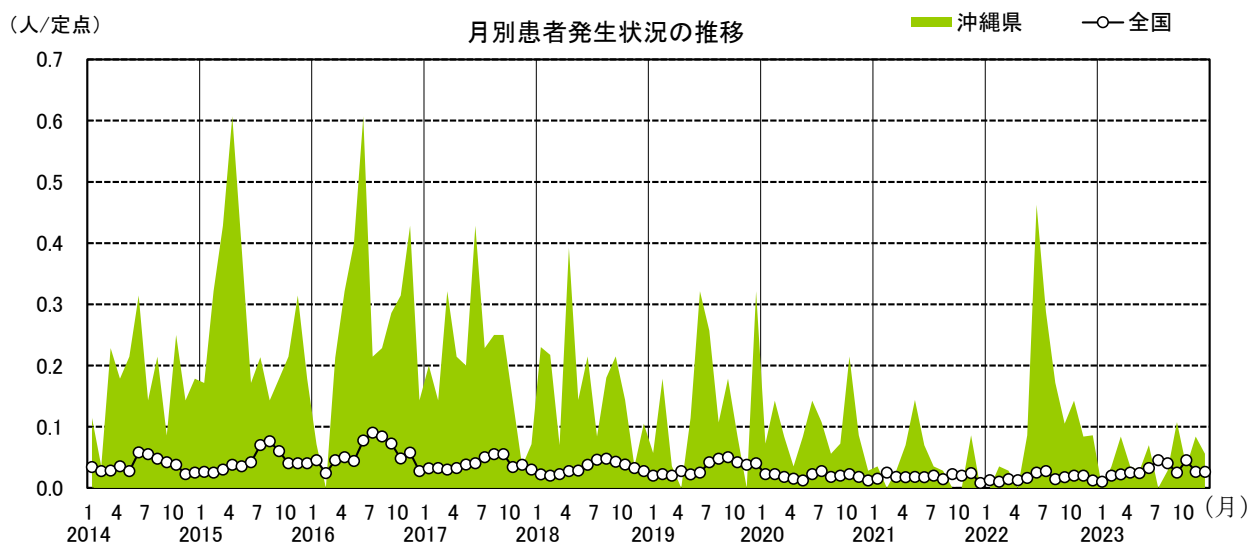
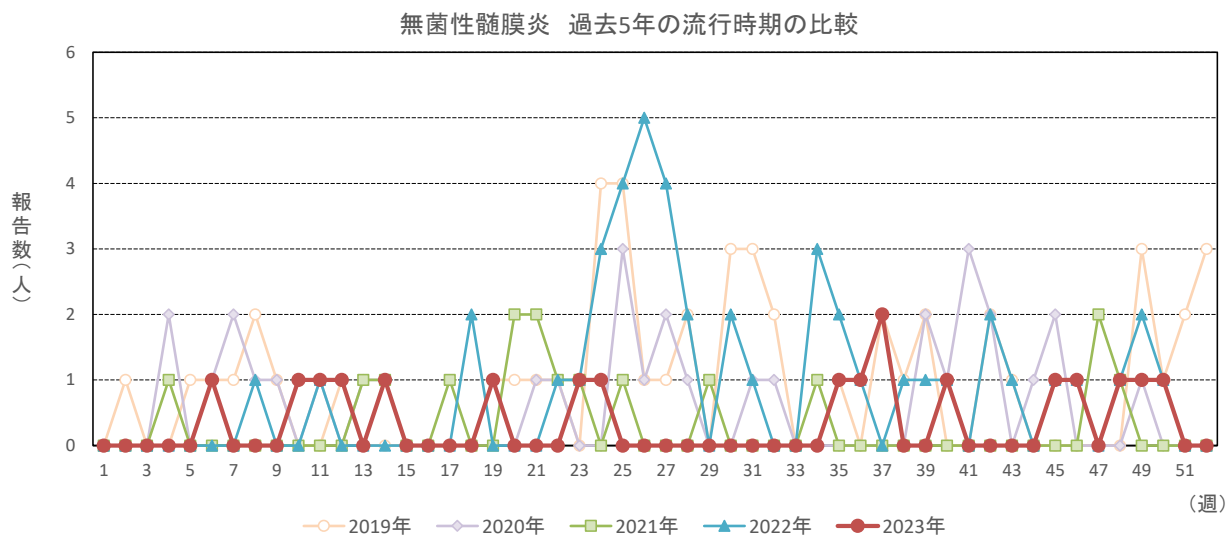


●無菌性髄膜炎

2023年、沖縄県内の報告数は18人、定点当たり報告数は2.53人であり、2021年よりも減少した。

沖縄県では第37週での定点当たり報告数0.29人が、全国では複数の週での定点当たり報告数0.05人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）の患者報告数では、70歳以上が最も多く全体の33.3%を占めた。

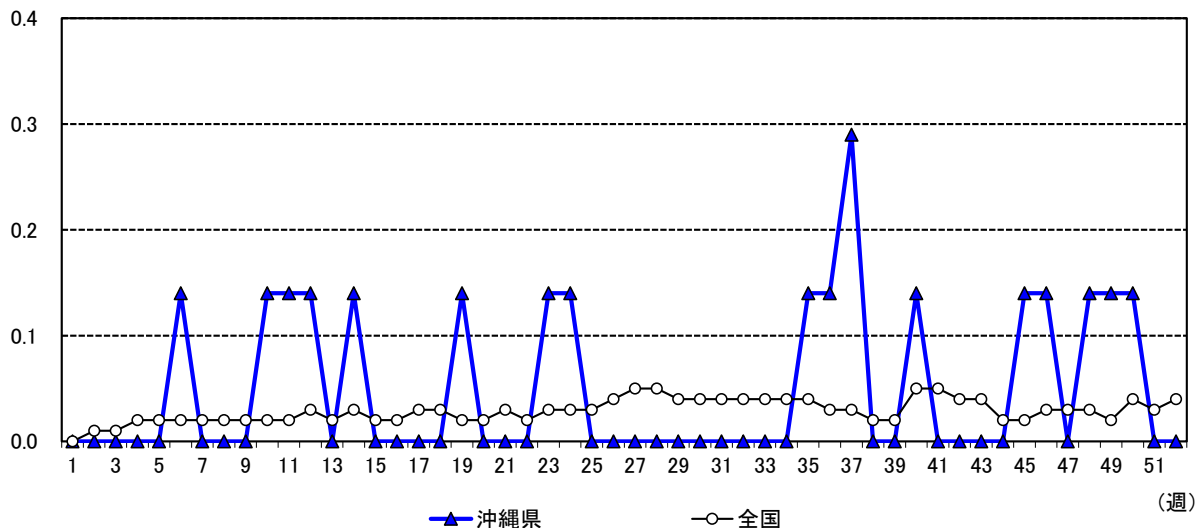


年別の報告数合計：無菌性髄膜炎

平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
33	50	34	16	45	18

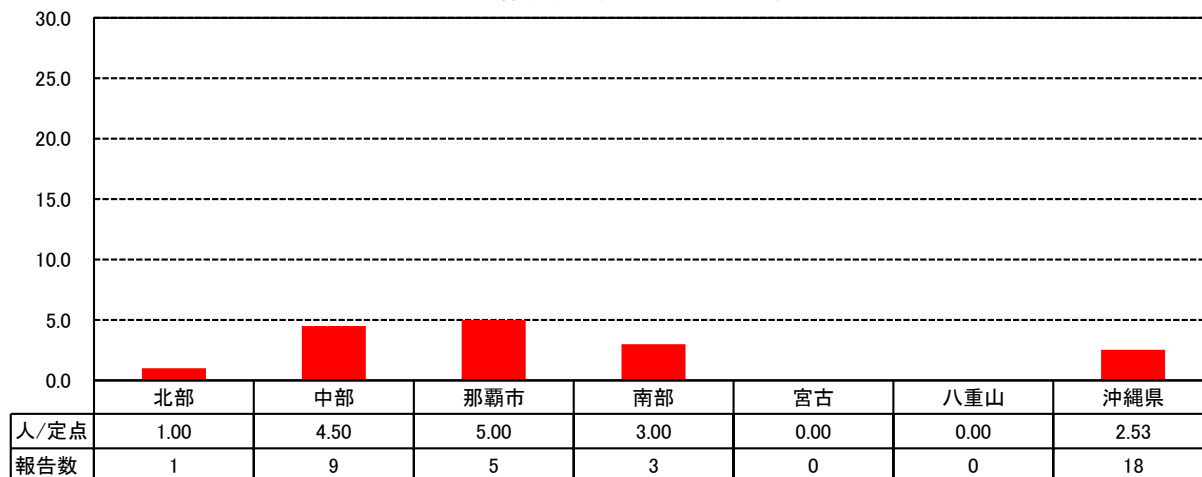
(人/定点)

無菌性髄膜炎 定点当たり報告数(2023年)

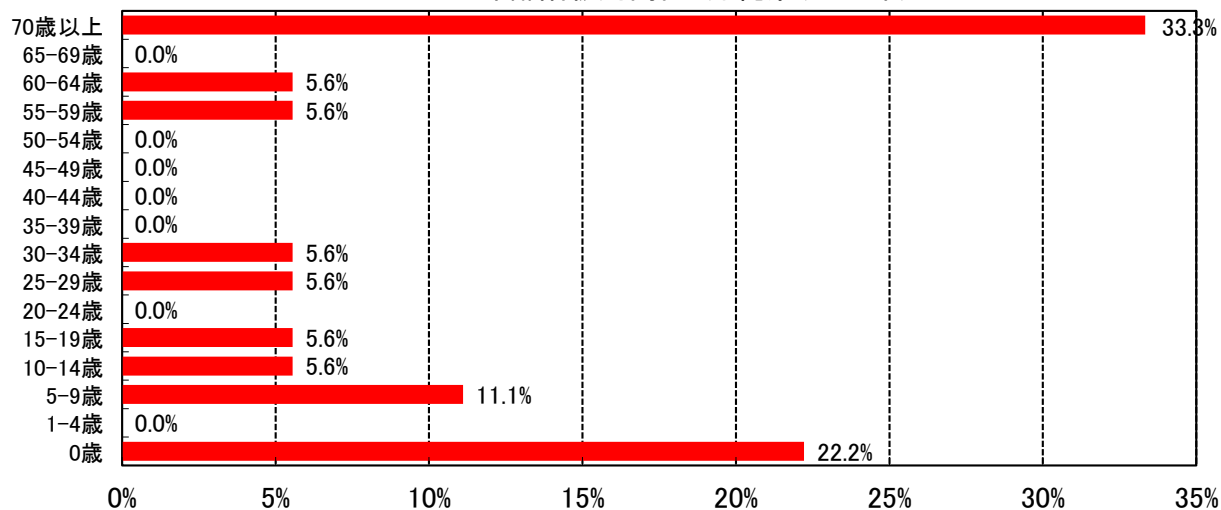


(人/定点)

保健所別発生状況(2023年)



年齢階級別割合 沖縄県(2023年)

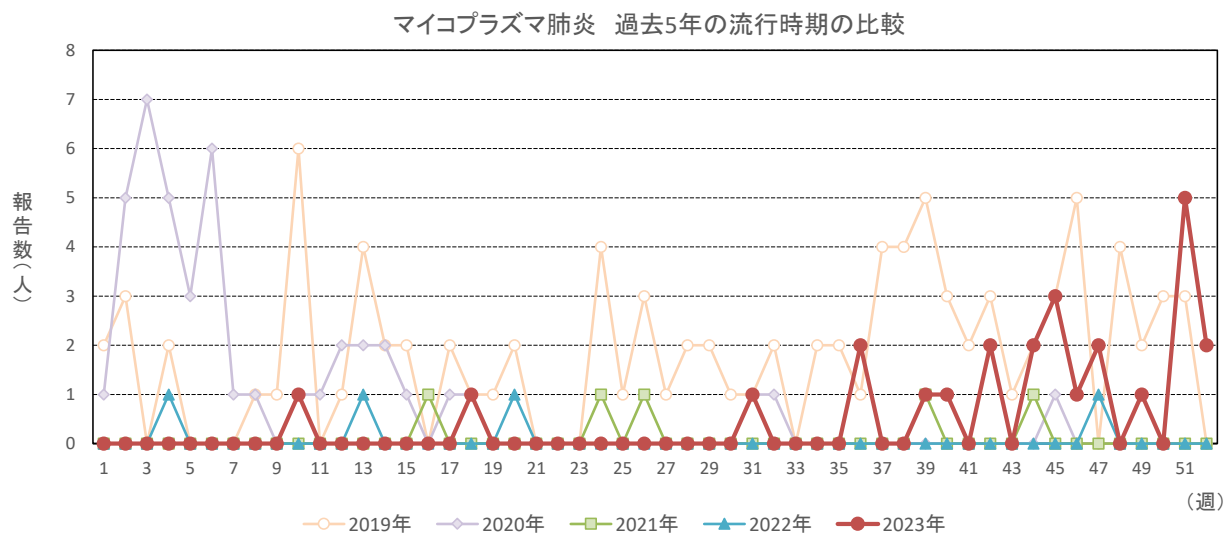


●マイコプラズマ肺炎

2023年、沖縄県内の報告数は25人、定点当たり報告数は3.57人であり、2022年よりも増加した。

沖縄県では第51週での定点当たり報告数0.91人が、全国では第51週での定点当たり報告数0.12人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、5-9歳が最も多く、全体の44.0%、次いで10-14歳が24.0%、1-4歳が16.0%と続いた。

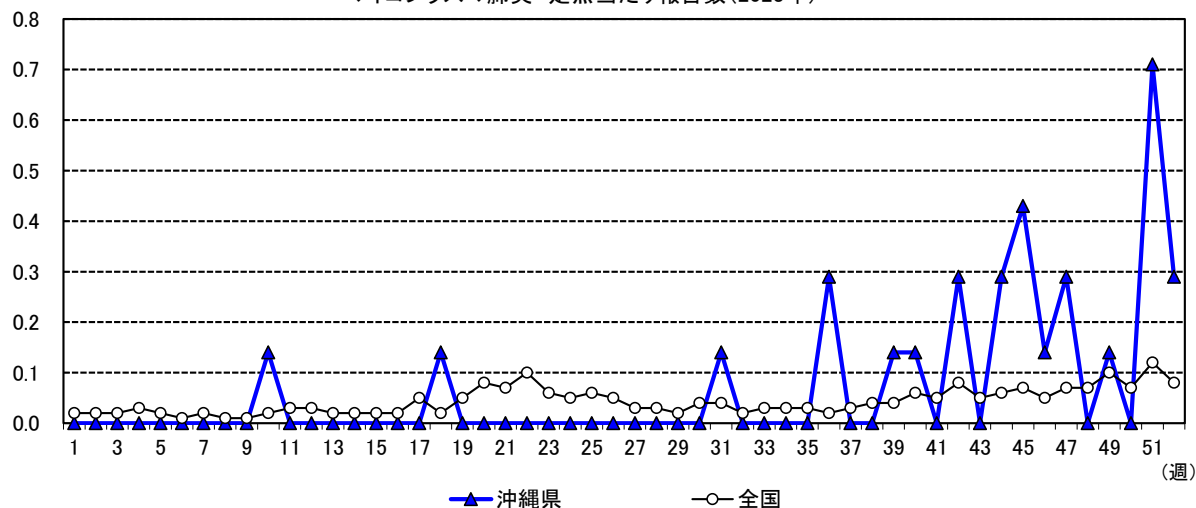


年別の報告数合計：マイコプラズマ肺炎

平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
35	96	43	5	4	25

(人/定点)

マイコプラズマ肺炎 定点当たり報告数(2023年)



(人/定点)

保健所別発生状況(2023年)



人/定点

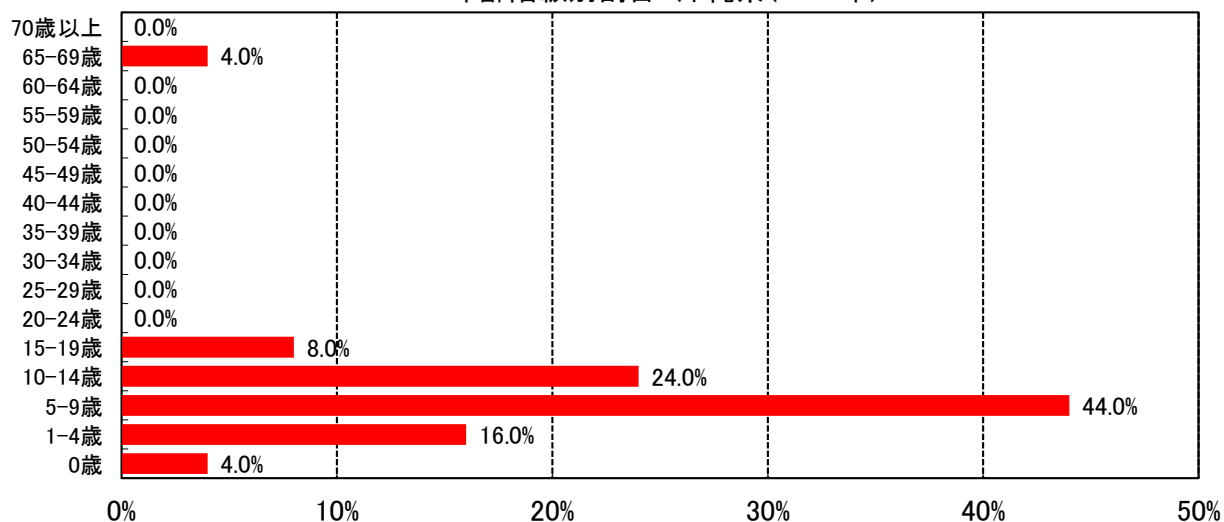
報告数

北部 中部 那覇市 南部 宮古 八重山 沖縄県

0.00 3.50 17.00 1.00 0.00 0.00 3.57

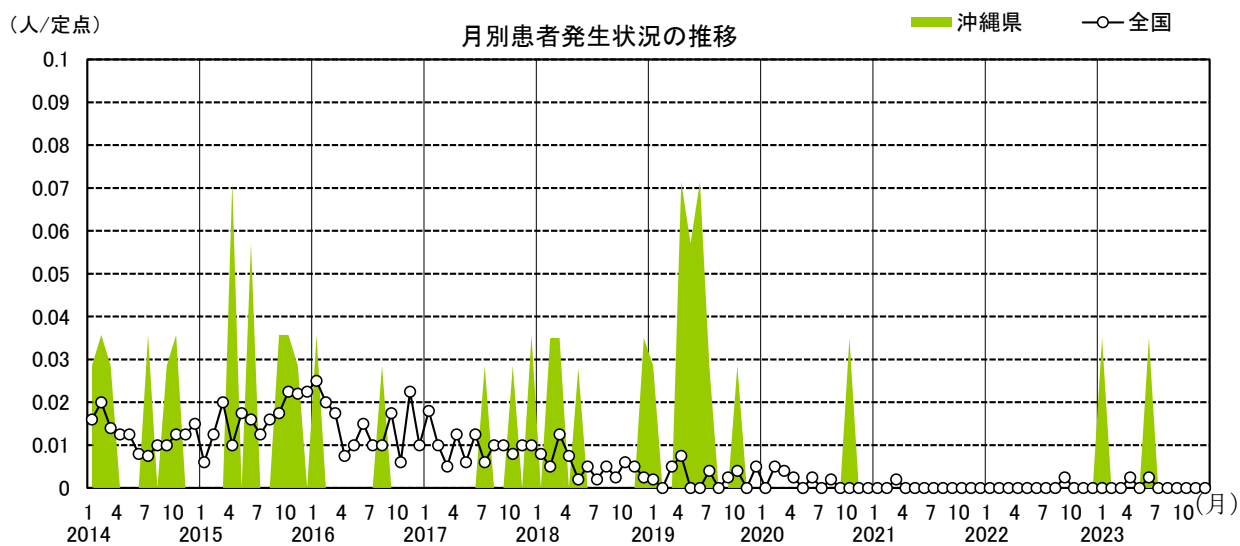
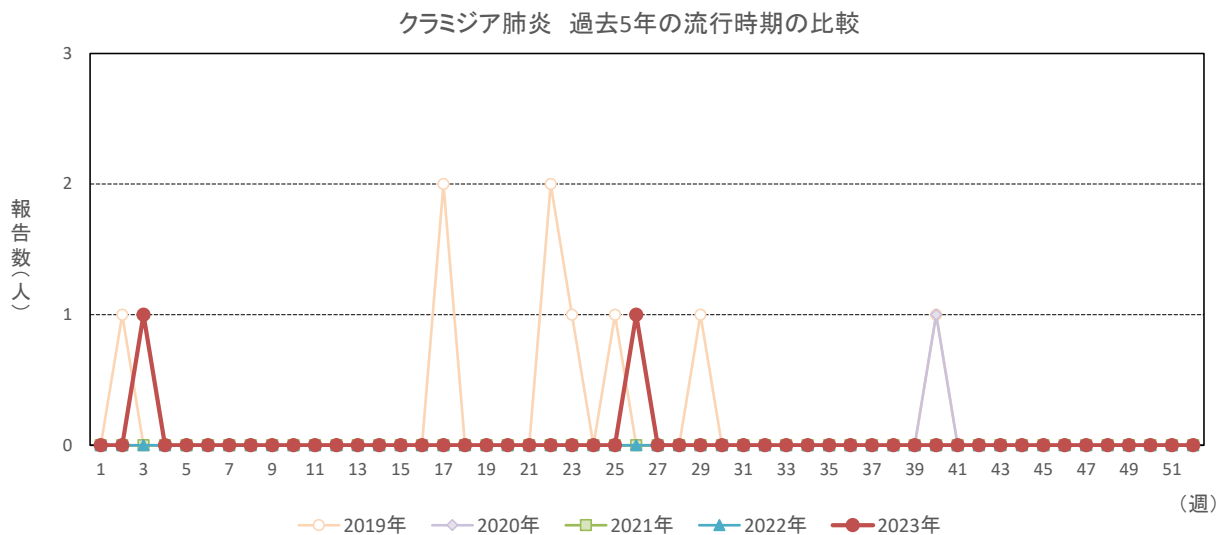
0 7 17 1 0 0 25

年齢階級別割合 沖縄県(2023年)



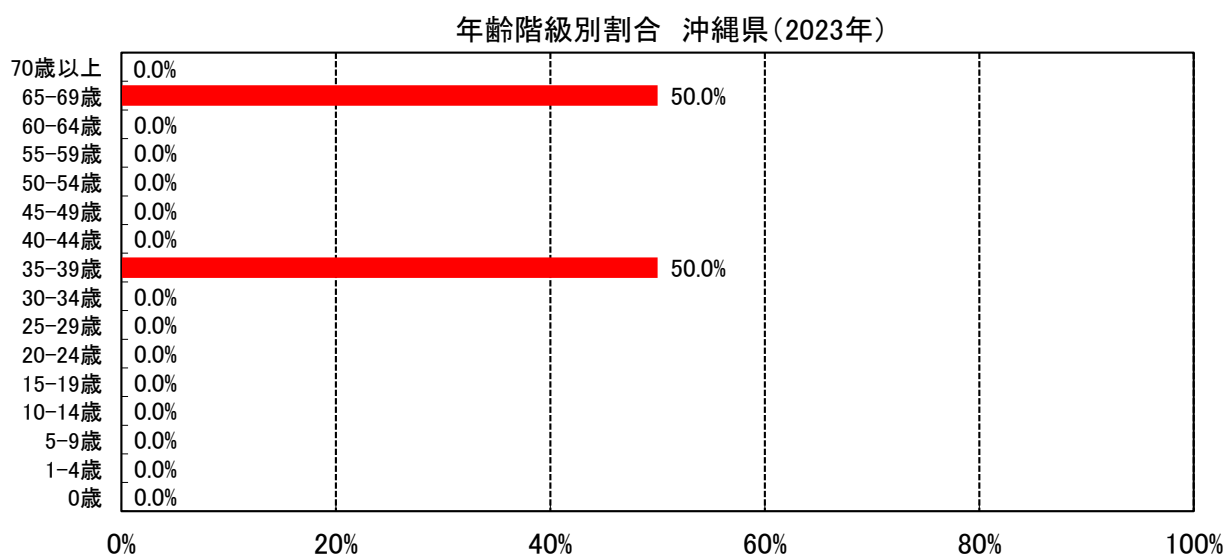
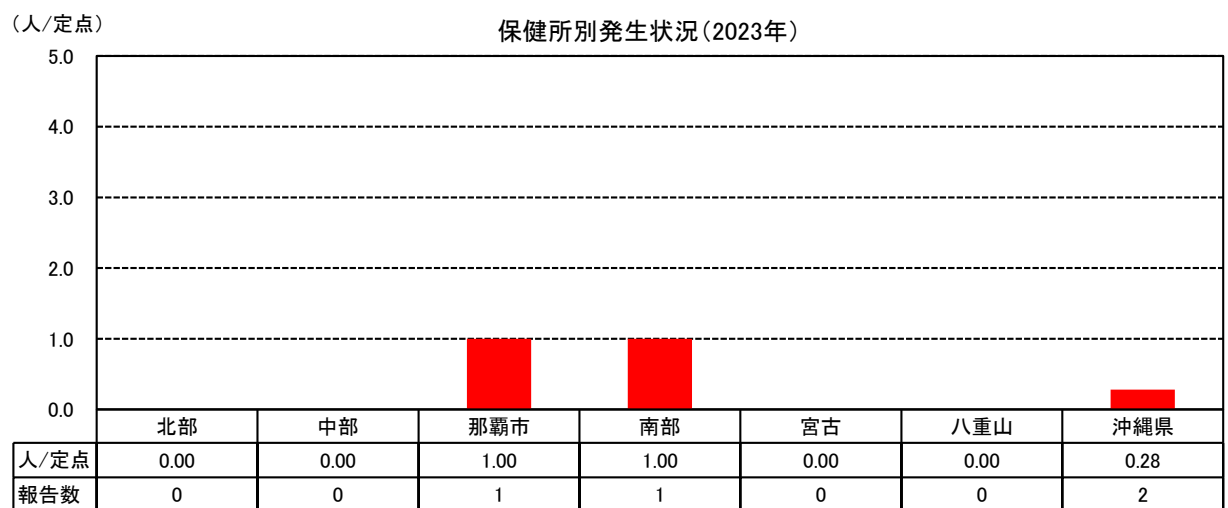
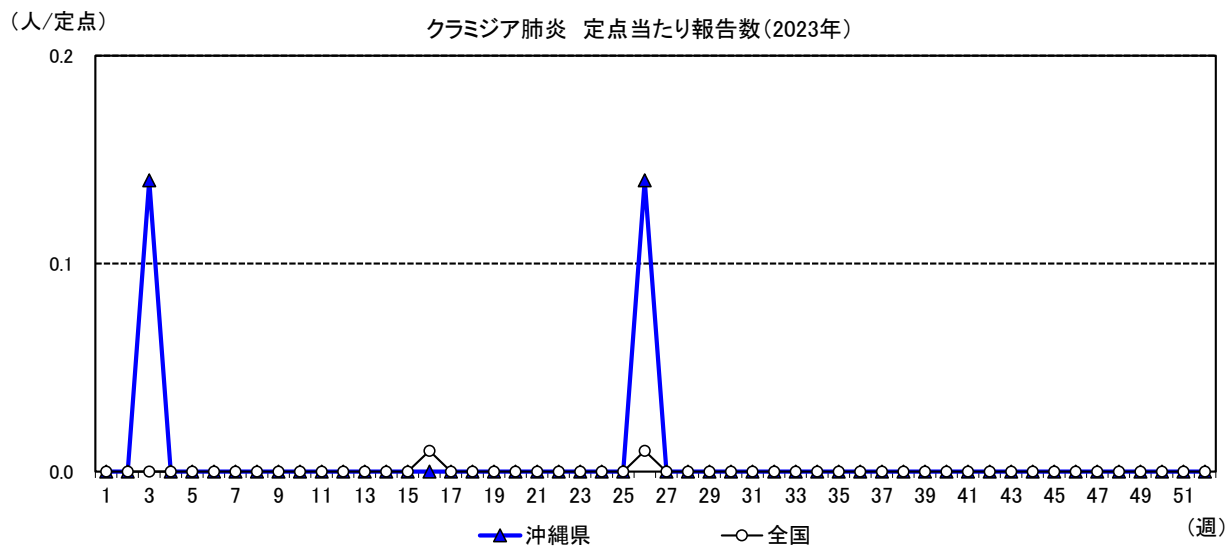
## ●クラミジア肺炎

2023年、沖縄県内の報告数は定点当たり報告数は0.28人であり、2022年よりも増加した。全国での報告数は26人、定点当たり報告数は0.02人で2022年の定点当たり報告数0.01人よりも増加した。



年別の報告数合計：クラミジア肺炎

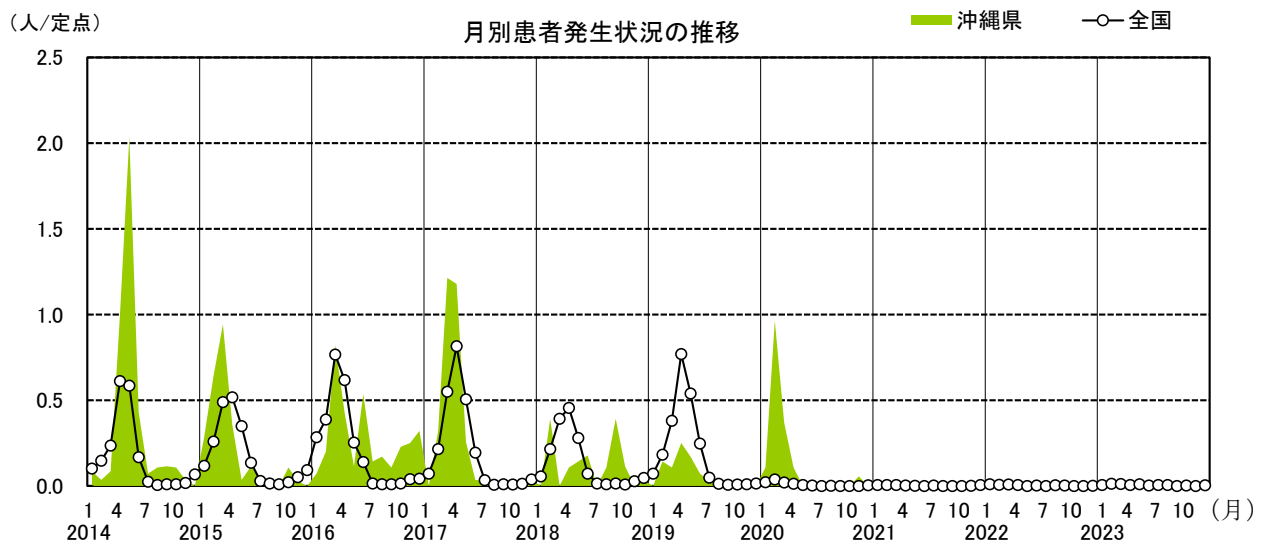
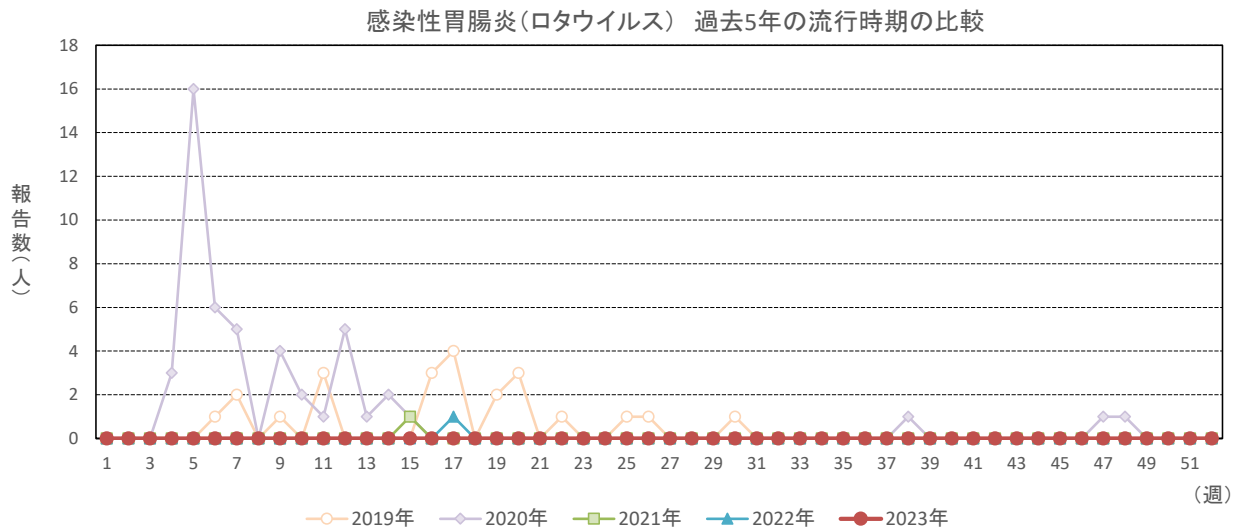
平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
2	9	1	0	0	2



● 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

2023年、沖縄県内の報告数は0人で報告はなかった。

全国での報告数は144人、定点当たり報告数は0.29人で、2022年の定点当たり報告数0.18人よりも増加した。

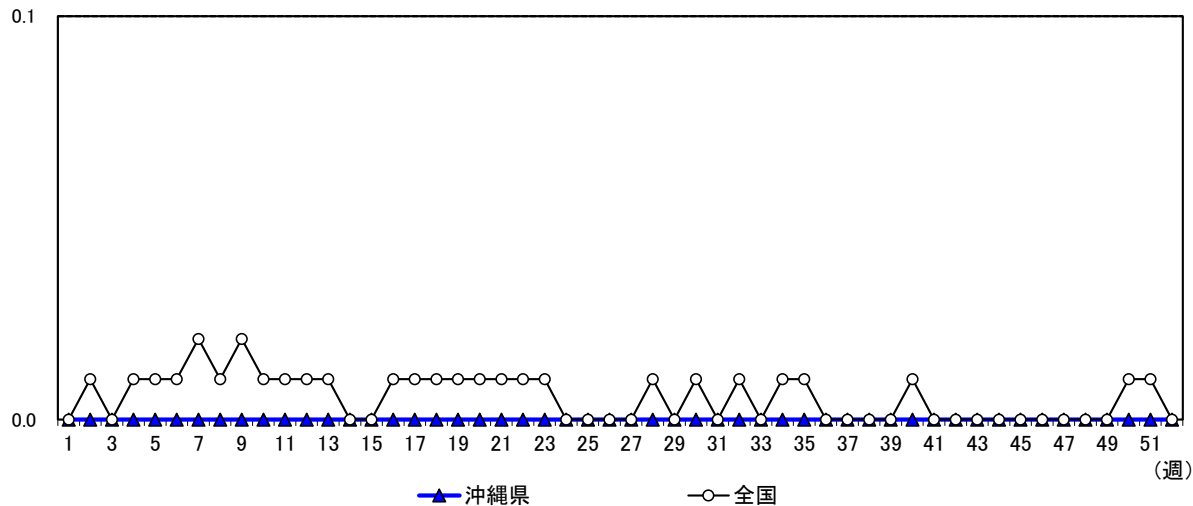


年別の報告数合計：感染性胃腸炎（ロタウイルス）

平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
15	23	49	1	1	0

(人/定点)

感染性胃腸炎(ロタウイルス) 定点当たり報告数(2023年)

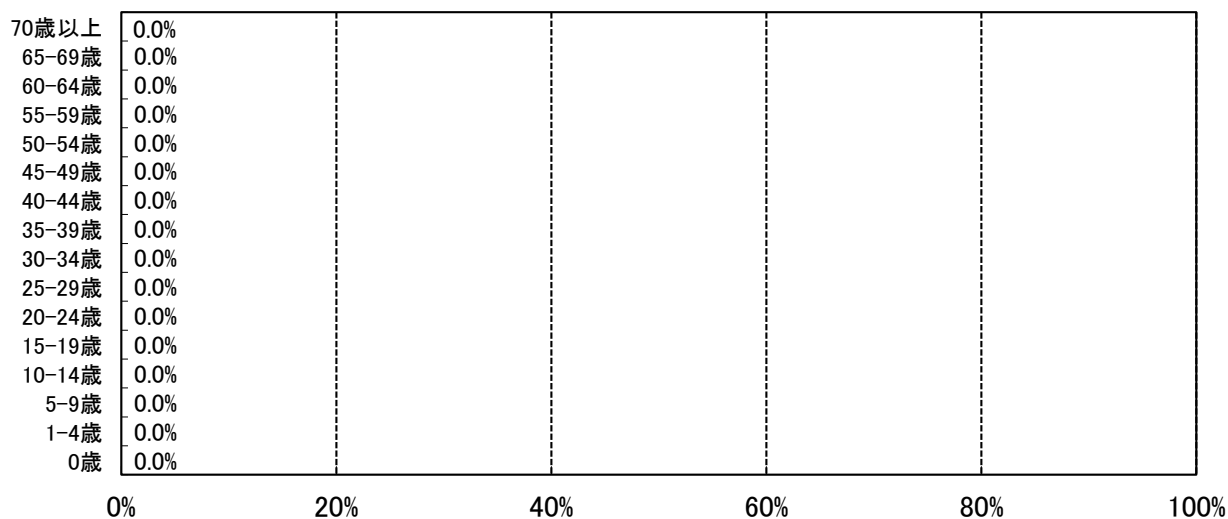


(人/定点)

保健所別発生状況(2023年)



年齢階級別割合 沖縄県(2023年)



MEMO

## 2 月報

### (1) 性感染症 (STD) 定点

(※宮古および八重山は人口規模が小さいため、性感染症の定点医療機関は設置されていない。)

#### ●性器クラミジア感染症

2023 年の沖縄県の報告数は 400 人（男性 50 人、女性 350 人）だった。年間の定点当たり報告数は 33.35 人で 2022 年（32.08 人）とほぼ同様の水準で、全国（2023 年：31.78 人 2022 年：30.66 人）とほぼ同様の水準にあった。性別で見ると男性は 4.17 人で 2022 年（2.50 人）に比べ大幅に増加し、全国（2023 年：16.24 人）に比べ大幅に低い水準にあった。女性は 29.18 人で 2022 年（29.5 人）とほぼ同様の水準で、全国（2022 年：15.54 人）に比べ大幅に高い水準にあった。性別年代別で見ると男性は 20 代が最も多く、女性も 20 代が最も多かった。

#### ●性器ヘルペスウイルス感染症

2023 年の沖縄県の報告数は 97 人（男性 9 人、女性 88 人）だった。年間の定点当たり報告数は 8.08 人で 2022 年（4.92 人）に比べ大幅に増加し、全国（2023 年：9.62 人）に比べやや低い水準にあった。性別で見ると男性は 0.74 人で 2022 年（0.48 人）に比べ大幅に増加し、全国（2022 年：3.60 人）に比べ大幅に低い水準にあった。女性は 7.33 人で 2022 年（4.41 人）に比べ大幅に増加し、全国（2023 年：6.03 人）とやや高い水準にあった。性別年代別で見ると男性は 20 代で 3 人、30 代と 50 代で各 2 人、40 代と 70 歳以上で各 1 人の報告があり、女性は 20 代が最も多かった。

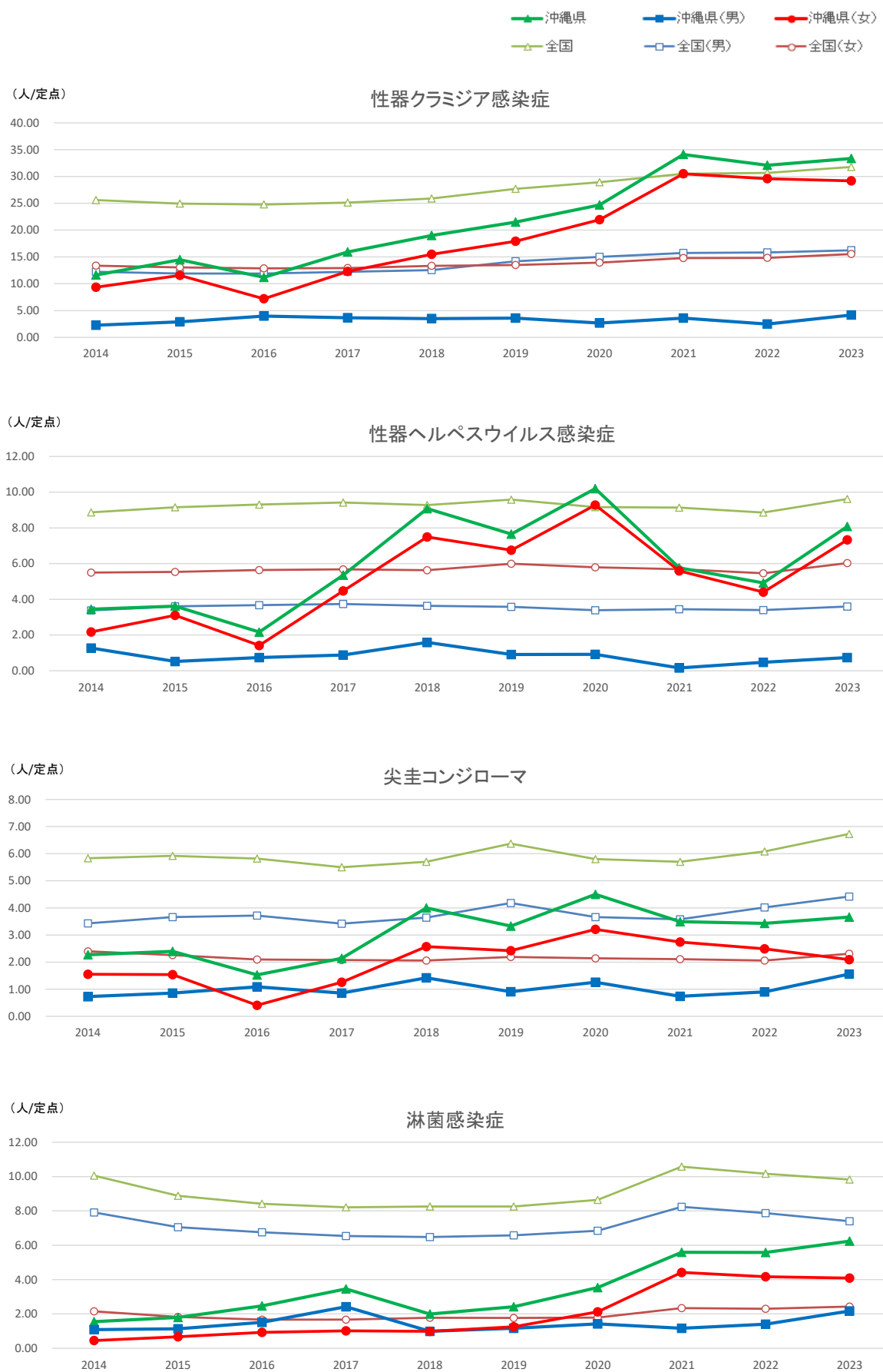
#### ●尖圭コンジローマ

2023 年の沖縄県の報告数は 44 人（男性 19 人、女性 25 人）だった。年間の定点当たり報告数は 3.66 人で 2022 年（3.43 人）とほぼ同様の水準で、全国（2023 年：6.73 人）に比べかなり低い水準にあった。性別で見ると男性は 1.56 人で 2022 年（0.90 人）に比べ大幅に増加し、全国（2023 年：4.42 人）に比べ大幅に低い水準にあった。女性は 2.09 人で 2022 年（2.49 人）とほぼ同様の水準で、全国（2023 年：2.31 人）に比べほぼ同様の水準にあった。性別年代別で見ると男性は 20 代と 30 代が同数で最も多く、女性は 20 代が最も多かった。

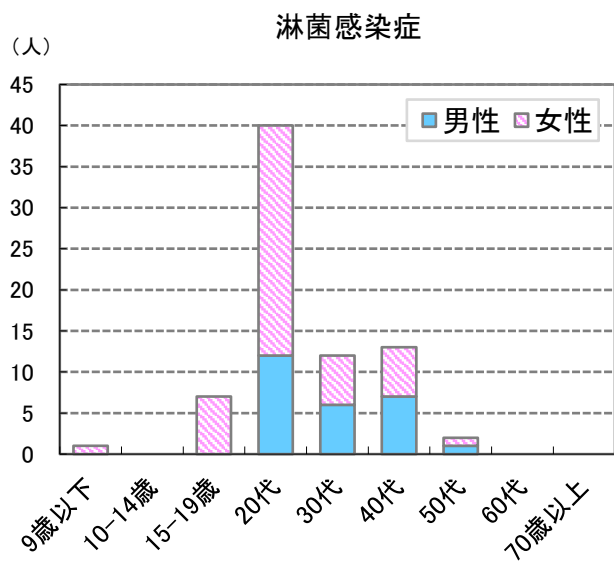
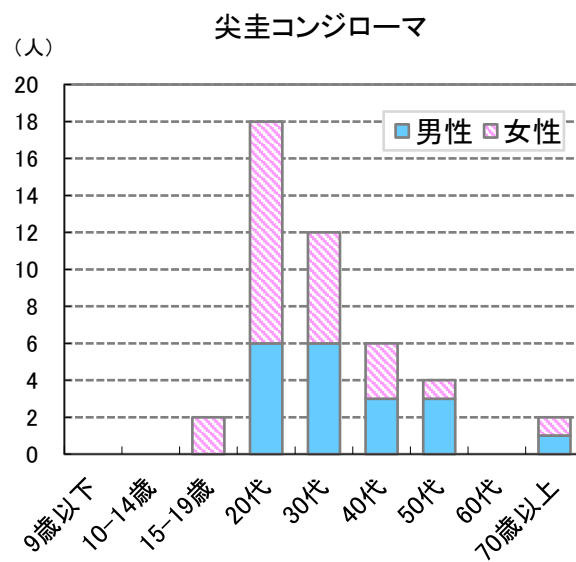
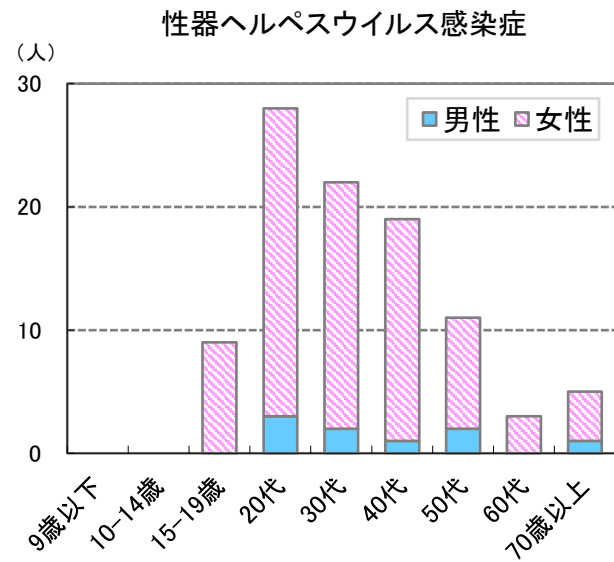
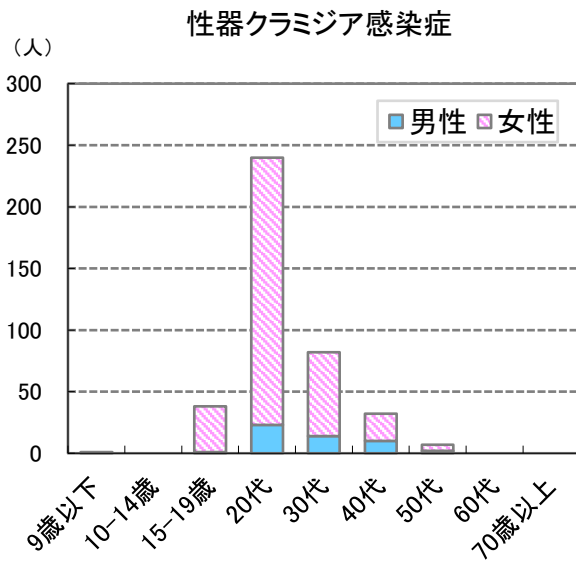
#### ●淋菌感染症

2023 年の沖縄県の報告数は 75 人（男性 26 人、女性 49 人）だった。年間の定点当たり報告数は 6.24 人で 2022 年（5.58 人）とほぼ同様の水準で、全国（2023 年：9.83 人）に比べ大幅に低い水準にあった。性別で見ると男性は 2.17 人で 2022 年（1.40 人）に比べ大幅に増加し、全国（2023 年：7.40 人）に比べ大幅に低い水準にあった。女性は 4.09 人で 2022 年（4.17 人）とほぼ同様の水準で、全国（2023 年：2.43 人）に比べ大幅に高い水準にあった。性別年代別で見ると男性は 20 代が最も多く、女性も 20 代が最も多かった。

## ア. 疾患別定点当たり報告数（年合計）の年次推移



イ．性別・年齢別患者報告数（沖縄県：2023年）



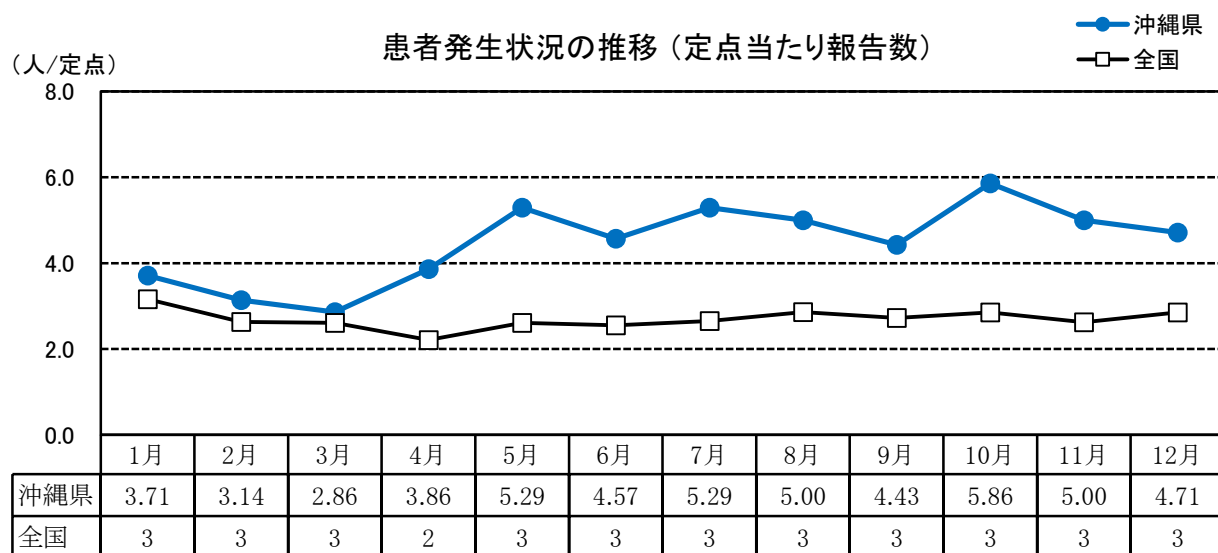
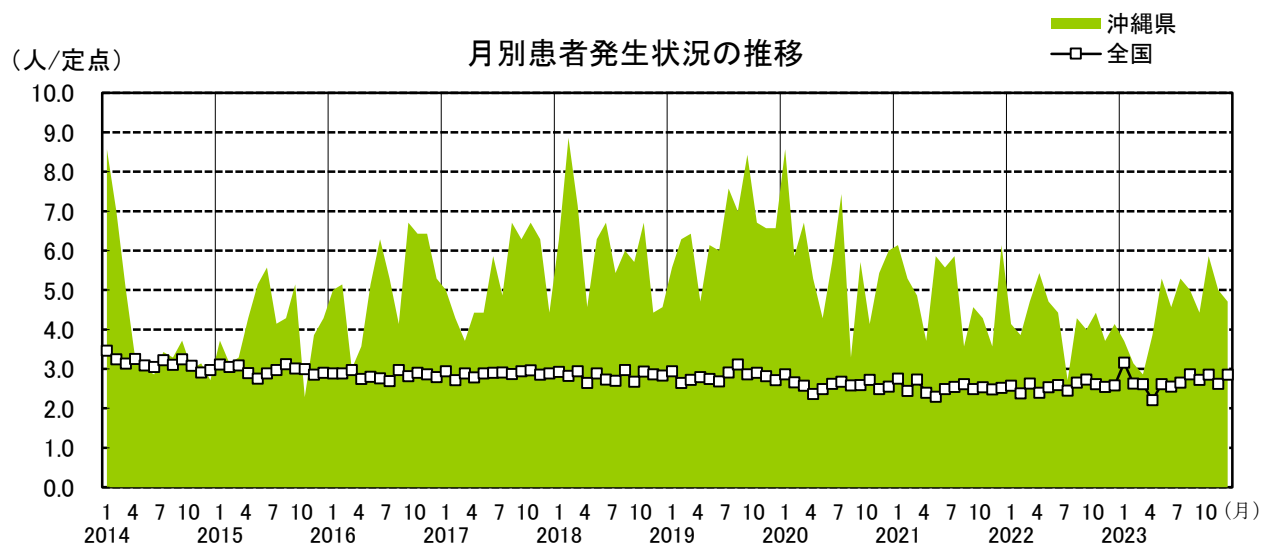
		9歳以下	10-14歳	15-19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	小計	合計
性器クラミジア感染症	男性	0	0	1	23	14	10	2	0	0	50	400
	女性	1	0	37	217	68	22	5	0	0	350	
性器ヘルペスウイルス感染症	男性	0	0	0	3	2	1	2	0	1	9	97
	女性	0	0	9	25	20	18	9	3	4	88	
尖圭コンジローマ	男性	0	0	0	6	6	3	3	0	1	19	44
	女性	0	0	2	12	6	3	1	0	1	25	
淋菌感染症	男性	0	0	0	12	6	7	1	0	0	26	75
	女性	1	0	7	28	6	6	1	0	0	49	

## (2) 基幹定点(薬剤耐性菌)

### ●メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2023年、沖縄県内の報告数は376人だった。年間の定点当たり報告数は53.72人で2022年(50.56人)に比べほぼ同様の水準であり、全国(2023年：32.36人)に比べ大幅に高い水準にあった。

年齢階級別の患者報告数は70歳以上が最も多く、全体の53.2%を占めていた。

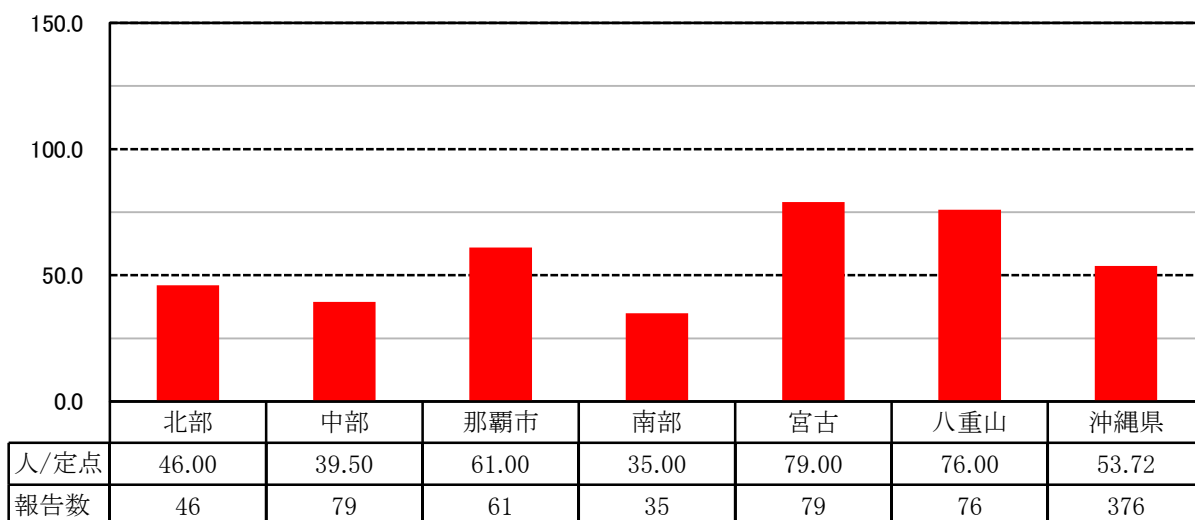


年別の報告数合計：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

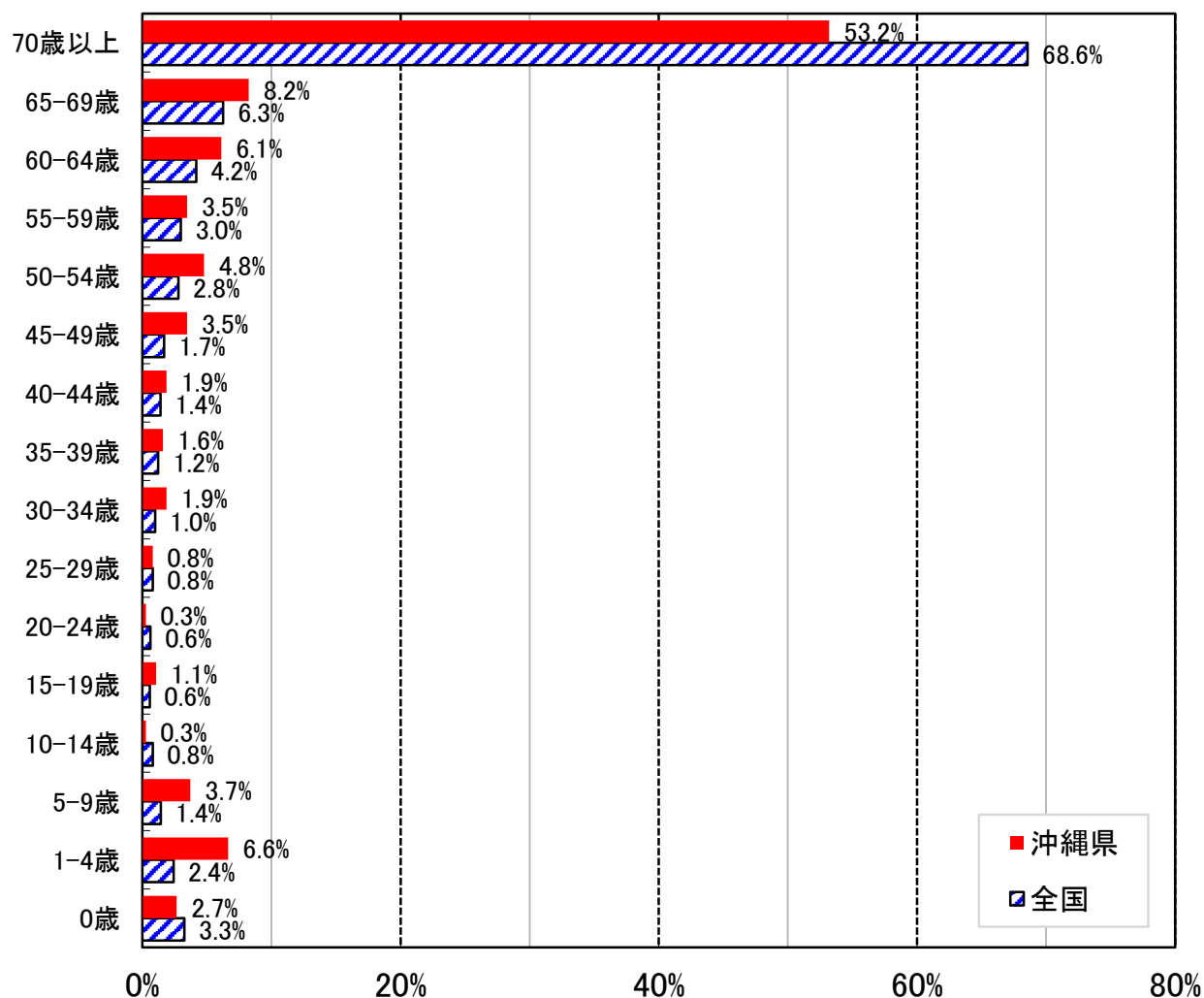
平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2022年
434	546	479	416	354	376

# メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 保健所別発生状況

(人/定点)



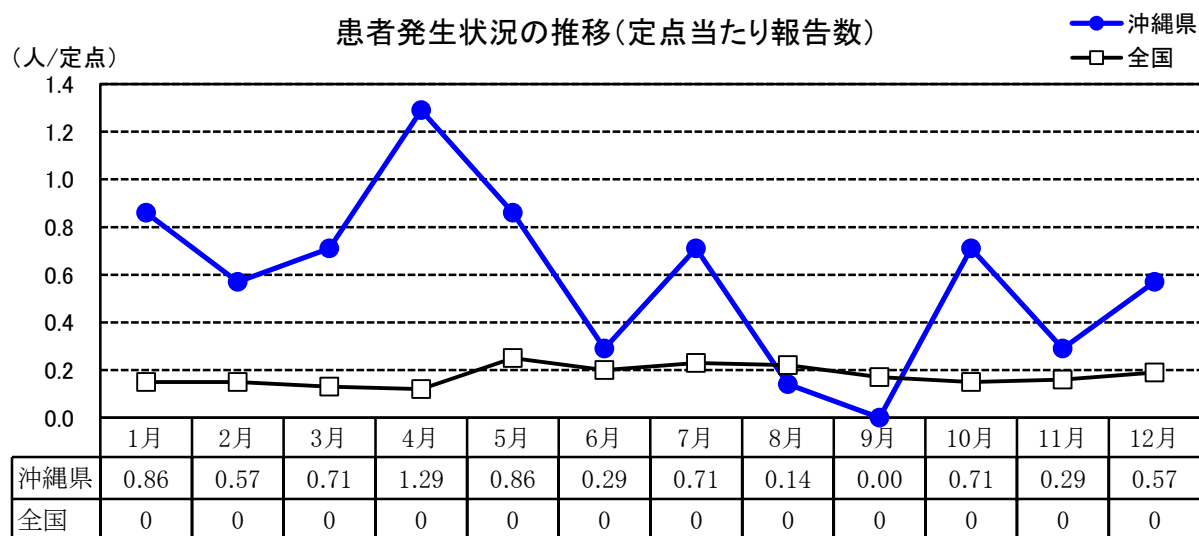
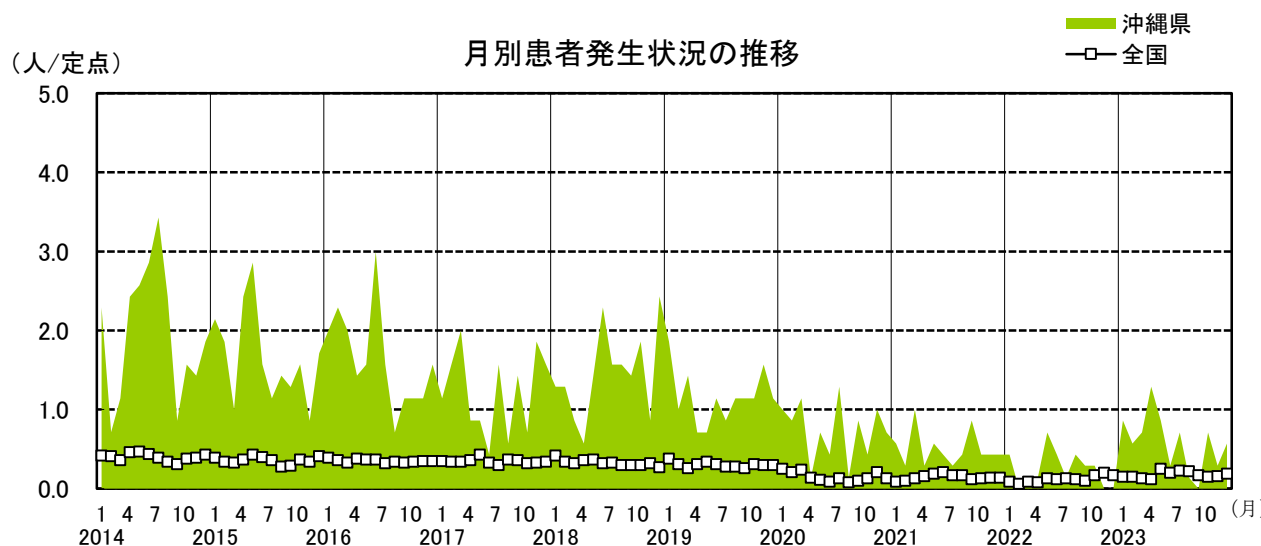
## 年齢階級別割合



●ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2023年、沖縄県内の報告数は49人だった。定点当たり報告数は7.00人で2022年（3.00人）に比べ大幅に増加し、全国（2024年：2.11人）に比べ大幅に高い水準であった。

年齢階級別の患者報告数は70歳以上が最も多く、全体の36.7%を占めていた。

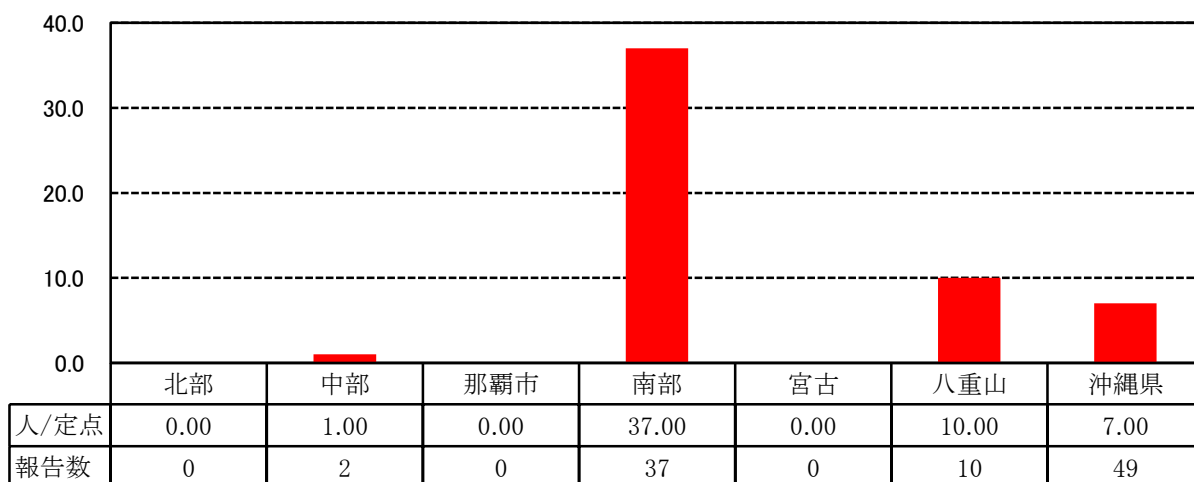


年別の報告数合計： ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

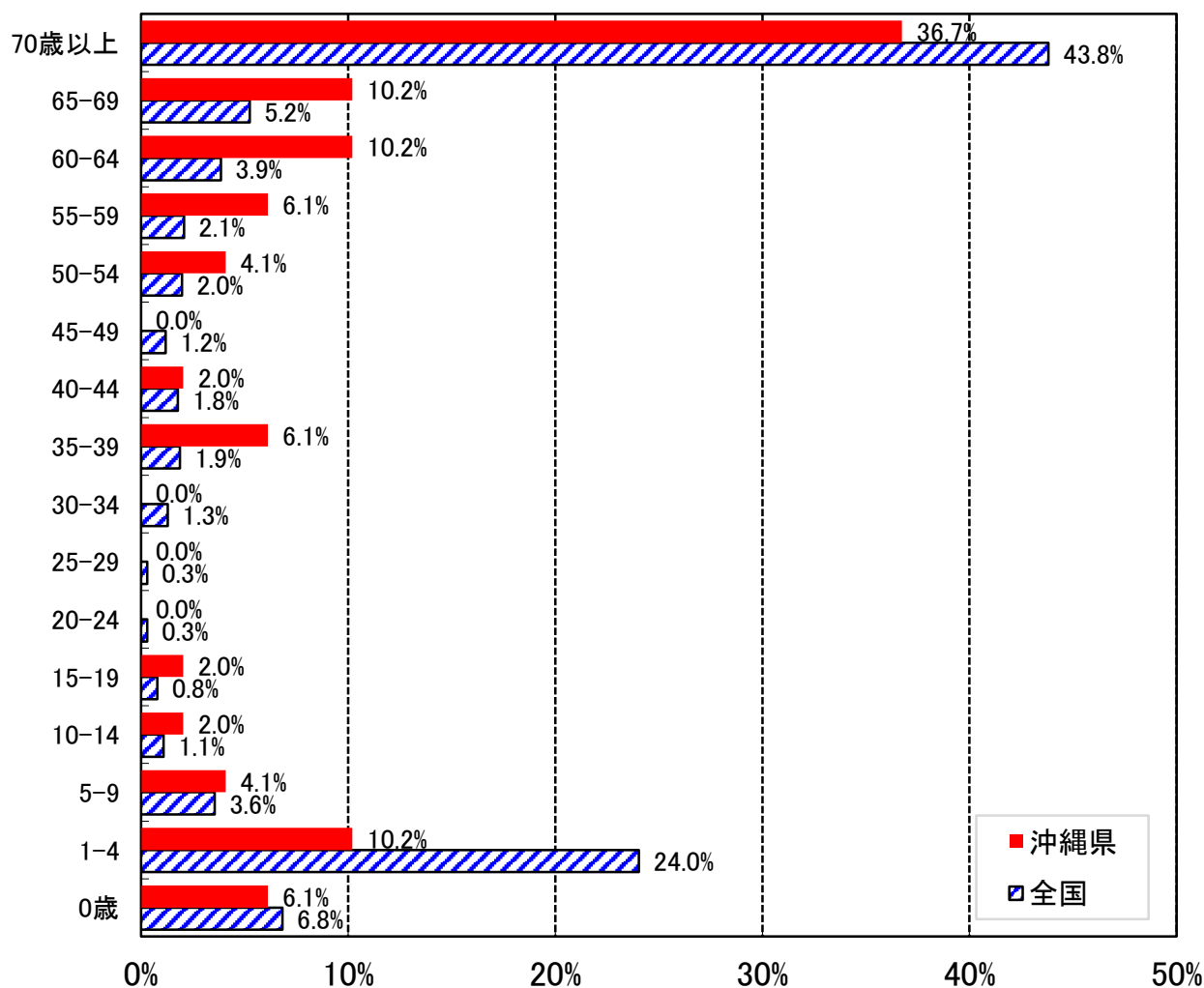
平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
54	97	61	42	21	49

# ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 保健所別発生状況

(人/定点)



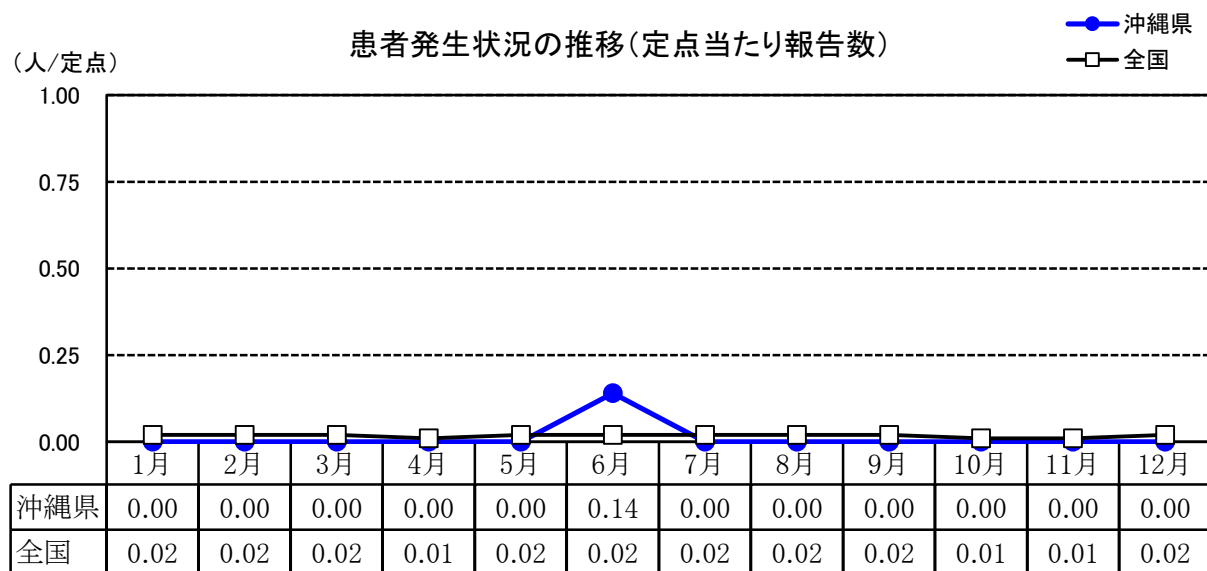
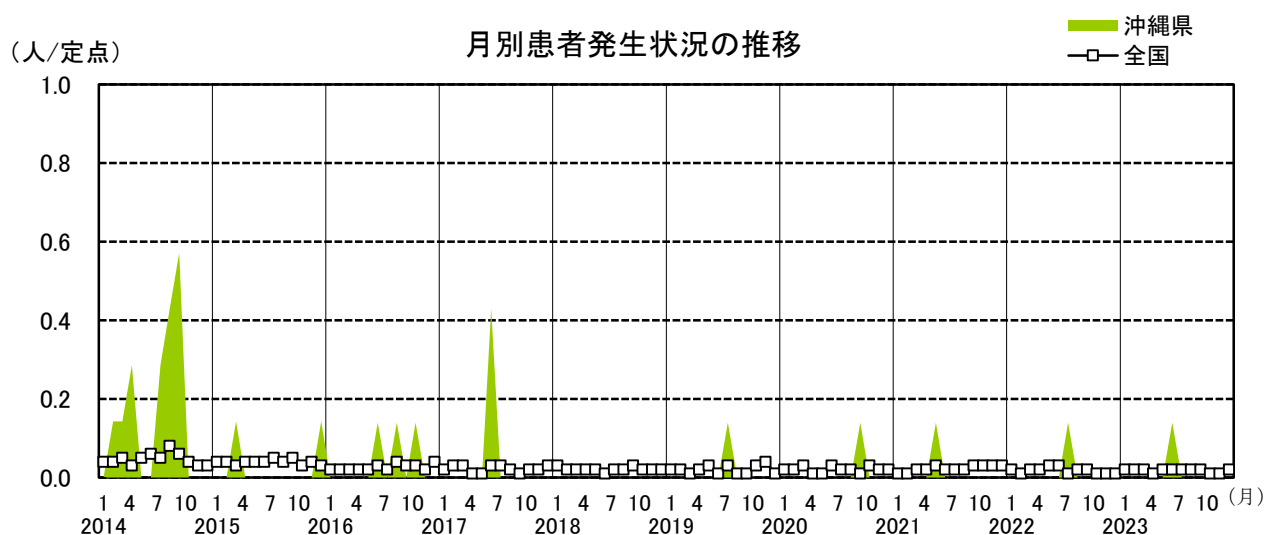
## 年齢階級別割合



●薬剤耐性緑膿菌感染症

2023年、沖縄県内の報告数は1人だった。定点当たり報告数は0.14人で2022年（0.14人）と同数で、全国（2022年：0.20人）に比べかなり低い水準にあった。

報告例南部保健所管内の70歳以上であった。



シーズン別の報告数合計： 薬剤耐性緑膿菌感染症

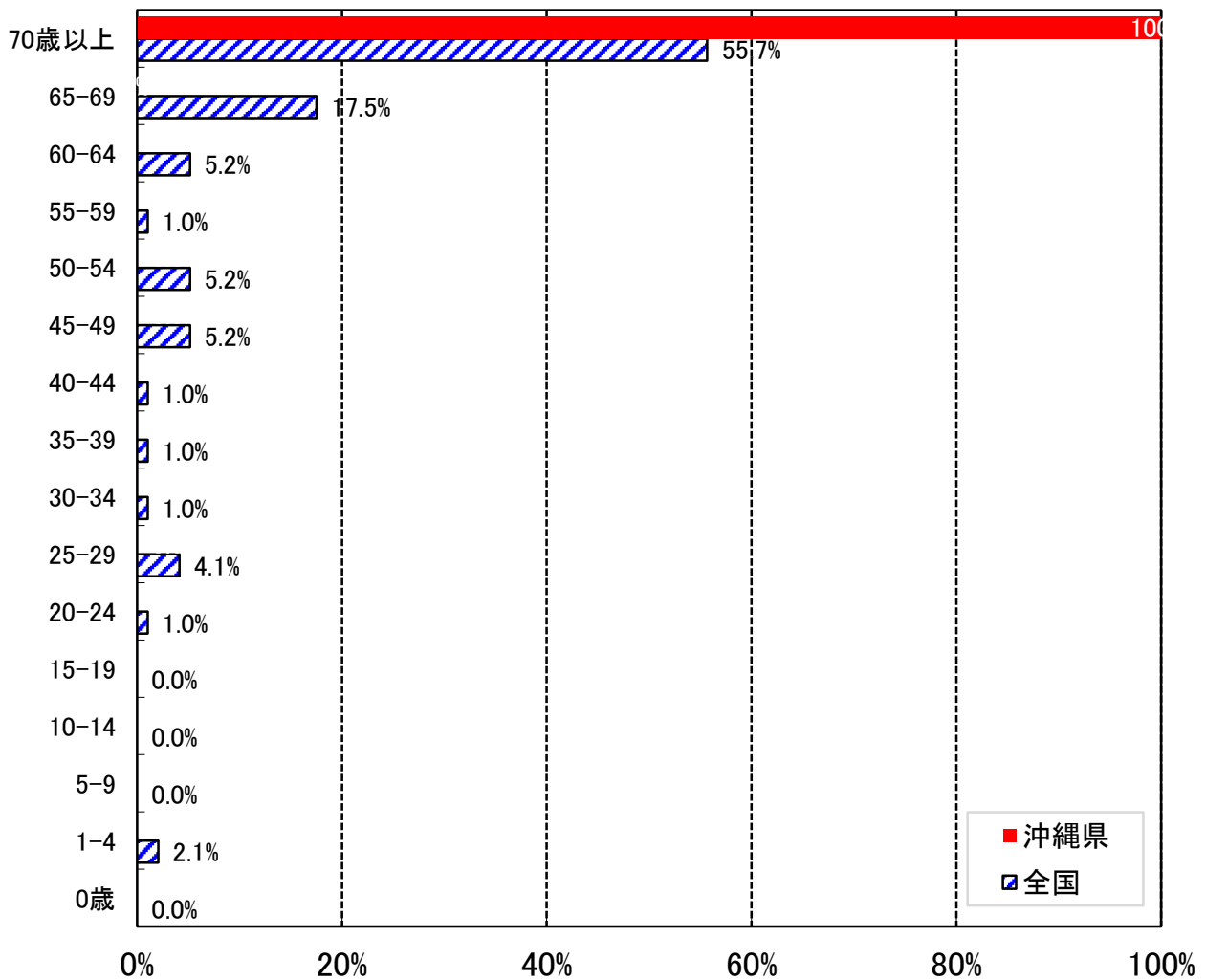
平均報告数	2019年	2020年	2021年	2022年	2022年
1	1	1	1	1	1

# 薬剤耐性緑膿菌感染症 保健所別発生状況

(人/定点)



## 年齢階級別割合



MEMO